

甲斐市文化財調査報告 第1集
(山 梨 県)

松 ノ 尾 遺 跡 IX

宅地造成工事に伴う

縄文・弥生・古墳・平安・室町時代の発掘調査報告書

2004

甲斐市教育委員会
甲斐市文化財調査会
株式会社 エスティケイ

甲斐市文化財調査報告 第1集
(山梨県)

松ノ尾遺跡 IX

宅地造成工事に伴う

縄文・弥生・古墳・平安・室町時代の発掘調査報告書

2004

甲斐市教育委員会
甲斐市文化財調査会
株式会社 エステイケイ

序 文

本年、竜王町、敷島町、双葉町の3町が合併する運びとなり、9月1日をもって「甲斐市」として新たなスタートをきることになりました。現在、甲斐市は山梨県内で甲府市につぐ2番目に人口が多い地域で、しかも年々人口の増加が著しいところでもあります。

このような現状から近年、市内では宅地造成や大型店舗などによる開発が頻繁におこなわれてきており、本市教育委員会としましても緊急の埋蔵文化財の調査に対応していく機会が増えてきております。

今回報告する「松ノ尾遺跡 第Ⅸ次調査」もその一つであり、宅地分譲により付設される道路部分の緊急発掘調査をおこなったもので、そこで得られた調査成果の内容についてまとめたものです。

この「松ノ尾遺跡」は、縄文時代から平安時代までの長い期間、人々が暮らしていた痕跡が発見されており、とくに古墳時代から平安時代にかけてはこれまでの調査で周辺地域はもとより山梨県においても古代の歴史解明において外すことのできない大変貴重な遺跡であることが明らかとなってきております。

今回の第Ⅸ次調査では、縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代と中世（15・16世紀代）にあたる遺構・遺物が発見されましたが、中でも「中世」については本遺跡では初めて具体的な内容を把握することとなり、大きな成果を上げることができました。

これから、新たな自治体の取り組みとしまして、地域文化の調査研究、教育普及、そして市民の方々へ有意義な学習の糧として還元していけるよう、文化財保護に対するなお一層の努力を重ねていく所存です。

最後に、このたびの文化財保護に対して深いご理解をいただきました株式会社エステイケーおよび地権者の方々に感謝するとともに、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

平成16年12月

甲斐市教育委員会
教育長 中 込 豊 弘

例 言

1. 本書は山梨県甲斐市中下条に所在する松ノ尾遺跡の第Ⅸ次調査をまとめた発掘調査報告書である。
2. 本調査は宅地造成に伴って、甲斐市文化財調査会（平成16年8月まで敷島町文化財調査会）が主体となり実施した。実務は同調査会より委託を受けた(株)日本窯業史研究所が調査員を派遣し、調査会として行った。
3. 調査は試掘調査を甲斐市教育委員会小坂隆司（当時敷島町教育委員会）が担当し、平成15年4月1日～同年4月4日まで行い、本調査を三輪孝幸（日本窯業史研究所）が担当し、平成15年5月9日～同年7月8日まで行った。
4. 本書の執筆・編集は、第1章を小坂隆司が担当し、その他については甲斐市教育委員会・同文化財調査会（平成16年8月まで敷島町教育委員会、同文化財調査会）の指導のもと三輪が行い、倉田有子の助力を得た。遺構写真は三輪が撮影し、遺物は河野一也（日本窯業史研究所）が撮影・現像・焼付けを行った。最終校正を大寫正之（甲斐市教育委員会）が担当した。
5. 本文中に掲載した鉄製品・銅銭の保存処理は、帝京大学山梨文化財研究所へ委託した。
6. 本書に係る出土遺物および記録図面、写真などは甲斐市教育委員会で保管している。
7. 調査組織は次のとおりである。

調査組織

調査指導・主管 敷島町教育委員会（平成16年8月まで）、甲斐市教育委員会（平成16年9月から）

調査主体者 敷島町文化財調査会（平成16年8月まで）

甲斐市文化財調査会（平成16年12月から）

調査指導担当者 《発掘調査・整理調査》大寫正之、小坂隆司（旧敷島町教育委員会、現甲斐市教育委員会）

調査事務局 敷島町文化財調査会（平成16年8月まで）

甲斐市文化財調査会（平成16年12月から）

調査担当者 三輪孝幸（(株)日本窯業史研究所）

8. 発掘調査・報告書作成で次の方々のご教示・御協力を賜った。記して心より感謝申し上げる。
八巻与志夫、森原明廣（山梨県埋蔵文化財センター）、畑 大介、櫛原功一（帝京大学山梨文化財研究所）、佐々木満（甲府市教育委員会）、降矢哲男（九州大学大学院生）（敬称略）
9. 調査・整理作業参加者
青山制子、飯室久美恵、石川弘美、長田由美子、小林明美、高添美智子、堤 吉彦、保延 勇、望月典子、森沢篤美（敬称略）
（平成16年8月まで敷島町文化財調査協力員、同年12月より甲斐市文化財調査協力員）

凡 例

1. 挿図の北は磁北を示し、レベルは標高を表している。
2. 挿図の縮尺は住居（2号住居を除く）・溝（1・2号溝を除く）1/60、土坑（64・70号土坑を除く）1/40、土器1/3、陶磁器・鉄製品1/2・銭1/1を基本とし、そのほかは図に記載した。
3. 遺物番号は本文・挿図・観察表・図版で統一してある。
4. 遺物の色調は『新版標準土色帖』1999年版、農林水産省農林水産技術会議事務局監修を使用した。
5. 遺物挿図中、断面が白抜きは土器・土師器・土師質土器で、は須恵器、は陶器類、は磁器である。また、土器の器面においては赤彩、はスス・タール状付着物、は漆が付着した面を表記する。

本文目次

第1章 遺跡をとりまく環境	
1. 遺跡の立地と環境	1
2. 松ノ尾遺跡の概要	1
第2章 遺構と遺物	
1. 縄文時代	
a. 土坑	6
2. 弥生時代	
a. 住居跡	6
3. 古墳時代	
a. 住居跡	13
4. 古代末から中世	
a. ピット・掘立柱建物跡	17
b. 土坑	17
c. 溝状遺構	50
d. 集石遺構	62
5. 遺構外出土遺物	66
第3章 まとめ	76

挿図目次

第1図 松ノ尾遺跡と周辺の遺跡	2	第24図 土坑(7)	38
第2図 調査区位置図	3	第25図 土坑(8)	40
第3図 調査区全体図	4・5	第26図 土坑(9)	42
第4図 1号土坑・出土遺物	7	第27図 土坑(10)	44
第5図 1号住居跡・出土遺物	8	第28図 土坑(11)	45
第6図 2号住居跡	9	第29図 土坑出土遺物(1)	48
第7図 2号住居跡	10	第30図 土坑出土遺物(2)	49
第8図 2号住居跡出土遺物(1)	11	第31図 土坑出土遺物(3)	50
第9図 2号住居跡出土遺物(2)	12	第32図 1号溝	51
第10図 3号住居跡	13	第33図 1・2号溝セクション	52
第11図 4号住居跡	14	第34図 1号溝出土遺物(1)	53
第12図 4号住居跡出土遺物	15	第35図 1号溝出土遺物(2)	54
第13図 5号住居跡・出土遺物	16	第36図 2号溝	55
第14図 ピット位置図	18	第37図 2号溝出土遺物(1)	56
第15図 1号・2号掘立柱建物跡	21	第38図 2号溝出土遺物(2)	57
第16図 ピット出土遺物	22	第39図 3号溝・出土遺物	59
第17図 土坑位置図	23	第40図 4号溝・出土遺物	59
第18図 土坑(1)	26	第41図 5号溝・出土遺物	61
第19図 土坑(2)	28	第42図 6号溝・出土遺物	61
第20図 土坑(3)	30	第43図 1号集石遺構・出土遺物	63
第21図 土坑(4)	32	第44図 2号集石遺構・出土遺物	64
第22図 土坑(5)	34	第45図 3号集石遺構・出土遺物	64
第23図 土坑(6)	36	第46図 4号集石遺構・出土遺物	65

第47図	5号集石遺構	67	第52図	グリット出土遺物(2)	72
第48図	6号集石遺構・出土遺物	67	第53図	グリット出土遺物(3)	73
第49図	1号溝確認面出土遺物(1)	68	第54図	表採遺物	75
第50図	1号溝確認面出土遺物(2)	69	第55図	土墳墓概念図	78
第51図	グリット出土遺物(1)	71			

表 目 次

第1表	松ノ尾遺跡の各次調査概要	1	第13表	4号溝出土遺物観察表	59
第2表	1号住居跡出土遺物観察表	8	第14表	5号溝出土遺物観察表	60
第3表	2号住居跡出土遺物観察表	12	第15表	6号溝出土遺物観察表	60
第4表	4号住居跡出土遺物観察表	14	第16表	1号集石遺構出土遺物観察表	62
第5表	5号住居跡出土遺物観察表	16	第17表	2号集石遺構出土遺物観察表	62
第6表	ピット観察表	19・20	第18表	3号集石遺構出土遺物観察表	64
第7表	ピット出土遺物観察表	22	第19表	4号集石遺構出土遺物観察表	65
第8表	土坑観察表	24	第20表	6号集石遺構出土遺物観察表	67
第9表	土坑出土遺物観察表	46・47	第21表	1号溝確認面出土遺物観察表	70
第10表	1号溝出土遺物観察表	58	第22表	グリット出土遺物観察表	73
第11表	2号溝出土遺物観察表	58	第23表	表採遺物観察表	74
第12表	3号溝出土遺物観察表	59	第24表	出土銭計測表	74

図 版 目 次

図版1-1.	調査区全景(北から)	4-8.	25号土坑全景(南から)
1-2.	1号住居跡全景(北から)	図版5-1.	31号土坑全景(南西から)
1-3.	2号住居跡全景(南から)	5-2.	32号土坑全景(南から)
1-4.	2号住居跡貯蔵穴(南から)	5-3.	34・35号土坑全景(南から)
1-5.	3号住居跡全景(西から)	5-4.	36号土坑全景(南から)
図版2-1.	4号住居跡全景(東から)	5-5.	42号土坑全景(南から)
2-2.	4号住居跡カマド(南東から)	5-6.	44号土坑遺物出土状況(南から)
2-3.	4号住居跡遺物出土状況(東から)	5-7.	44号土坑遺物出土状況(東から)
2-4.	4号住居跡遺物出土状況(南から)	5-8.	45号土坑全景(南から)
2-5.	4号住居跡遺物出土状況(東から)	図版6-1.	47号土坑全景(南から)
2-6.	4号住居跡遺物出土状況(東から)	6-2.	48~50号土坑全景(南から)
2-7.	5号住居跡全景(東から)	6-3.	55号土坑全景(南から)
2-8.	5号住居跡遺物出土状況(南から)	6-4.	57・58号土坑全景(南から)
図版3-1.	土坑A群全景(北から)	6-5.	59・60号土坑全景(南から)
3-2.	ピット54遺物出土状況(南から)	6-6.	59号土坑遺物出土状況(東から)
3-3.	1号土坑全景(南から)	6-7.	62号土坑全景(南から)
3-4.	5号土坑全景(南から)	6-8.	64号土坑全景(南から)
3-5.	7・8号土坑全景(南から)	図版7-1.	65~68号土坑全景(南から)
図版4-1.	9号土坑全景(南から)	7-2.	71号土坑全景(南から)
4-2.	10号土坑全景(南から)	7-3.	72~74号土坑全景(南から)
4-3.	13号土坑全景(南から)	7-4.	74号土坑遺物出土状況(東から)
4-4.	14号土坑全景(南から)	7-5.	75号土坑全景(南から)
4-5.	16号土坑全景(南から)	7-6.	79号土坑全景(南から)
4-6.	18号土坑全景(南から)	7-7.	79号土坑炭化物出土状況(東から)
4-7.	21~23号土坑全景(南西から)	7-8.	80号土坑遺物出土状況(南から)

- 図版8-1. 1号溝全景(西から)
8-2. 1号溝セクション(東から)
8-3. 1号溝遺物出土状況(南西から)
8-4. 3号溝全景(南から)
8-5. 4号溝全景(南から)
8-6. 5号溝確認状況(東から)
8-7. 6号溝全景(西から)
- 図版9-1. 1号集石遺構遺物出土状況(東から)
9-2. 2号集石遺構全景(東から)
9-3. 2号集石遺構遺物出土状況(南から)
9-4. 5号集石遺構全景(北東から)
9-5. 4号集石遺構遺物出土状況(東から)
9-6. 6号集石遺構遺物出土状況(西から)
9-7. 作業風景
- 9-8. 敷島中学校社会科見学
- 図版10-1. 縄文(1号土坑)
10-2. 弥生(2号住居跡)
- 図版11 古墳(4、5住居跡)
- 図版12-1. ピット出土遺物
12-2. 土坑出土遺物
12-3. 集石遺構出土遺物
- 図版13-1. 1号溝出土遺物
13-2. 2号溝出土遺物
13-3. 6号溝出土遺物
- 図版14 陶磁器類
- 図版15-1. 石製品類
15-2. 銅銭

第1章 遺跡をとりまく環境

1. 遺跡の立地と環境 (第1図)

甲斐市は甲府盆地の北西部に位置する。市内は地形の特徴から大きく4つの地域に分けられる。まず、茅ヶ岳や曲岳、太刀岡山などの山間部を中心とする北部地域、茅ヶ岳の噴火により形成された赤坂台地を中心とした台地・丘陵部からなる双葉地区、奥秩父の金峰山を源とし甲府盆地内へと南流する荒川により形成された扇状地形の敷島地区、古くから釜無川の氾濫により「信玄堤」をはじめいくつもの堤防が築かれてきた釜無川扇状地形からなる竜王地区に大別できる。

今回、調査の対象となった「松ノ尾遺跡」は上述した敷島地区内の扇状地上に所在している。この敷島地区の扇状地には南北に平行し2本の微高地が形成されているが、この微高地を中心に市内でも遺跡包蔵地がかなり密集した地域となっている。現にこれまでの調査で、縄文時代から中・近世を経て現在に至るまで連続と人々が生活を営んできた痕跡が数多く発見されてきている。本遺跡はこの扇状地上の東側にある微高地上に占地し、標高は約286~296mを測る。

2. 松ノ尾遺跡の概要 (第2・3図)

本遺跡は、現在包蔵地とされている範囲で南北約700m、東西約400mの広がりをもつ。1994年に初めて調査(第I次)が行われ、2004年8月現在までにはすでに計12回の本調査が実施されてきた。

本遺跡では、これまでに住居跡計120軒前後、竪穴状遺構や土坑、溝状遺構なども数多く発見されている。第1表にみるように、本遺跡は縄文、弥生、古墳、奈良、平安時代そして中世と長期にわたる複合遺跡である。12回に及ぶ調査から、遺跡の広い範囲で古墳時代後期の集落が大きく展開していることが明らかとなってきている。これ以降は、遺跡中央を東西に横断する都市計画街路愛宕町下条線を境とし、この愛宕町下条線の周辺から遺跡南側(第I~III・V・X・XII次)では奈良~平安時代前半(8~10世紀代)をとおり住居跡などの遺構群が発見される。

そして、平安時代後半(11・12世紀代)は愛宕町下条線周辺(第I・II・V・XII次)から遺跡の北側(第VI~IX・XI次)にかけて偏在する傾向にあり、中でも北部の調査(第VI・VII・IX・XI次)では、古墳時代後期のあと継続する遺構はなくなり、平安時代後半(11・12世紀代)に入ってから住居跡や土坑、溝跡などが発見されるようになる。

古代の遺物についてみると、遺構の分布傾向と同様に古墳時代後期の遺物は遺跡の広い範囲で認められる。

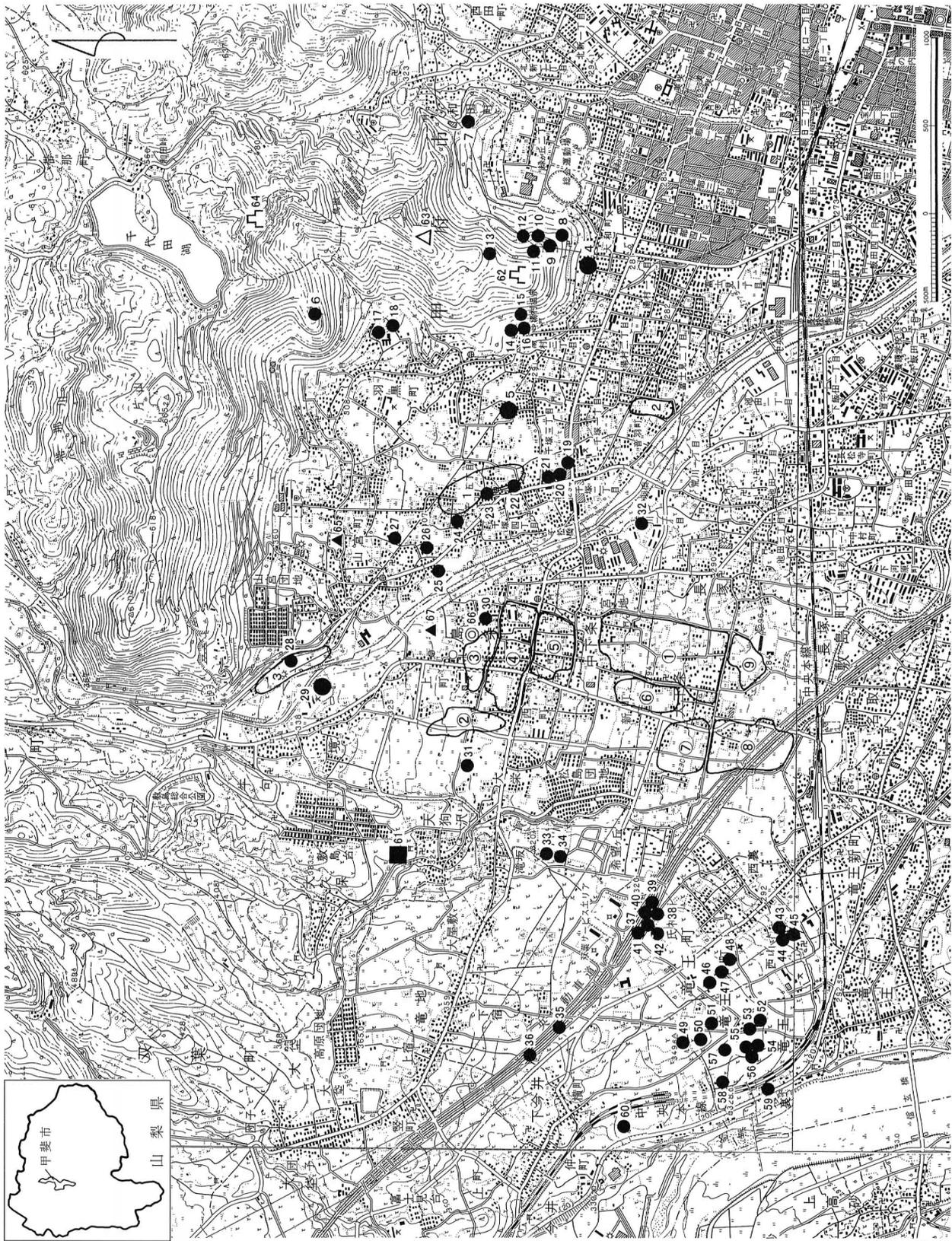
奈良~平安時代には、土師器、須恵器、灰釉陶器などをはじめ膨大な量の遺物がある。特殊なものについてみると、4個体の円面硯(第I・II次)、脚が多面となる高坏(第II次)、緑釉陶器(碗、皿、稜碗、耳皿)、壺G(第III・IV次)、貿易陶磁器—白磁や青白磁(碗、皿、水注、壺類)、青磁(碗、皿類)などのほか、金属製品(第I・II次)には帯金具(鉄製鉸具、銅製蛇尾具)、銅碗片、銅鏡片、銅製連繫壺金具、そして2躯の金銅製小仏像などが上げられる。

一方、中世遺構は、今回の第IX次調査で15・16世紀代の溝跡や土坑、ピット群などの遺構が初めて具体的に確認された。

松ノ尾遺跡は、遺跡規模に対し未だ調査した範囲は遺跡全体の5%に満たないことから、まだ希薄な時期については今後新たに発見される可能性は十分にある。本遺跡の詳細な性格を把握するためにも、更なる調査成果が期待される。

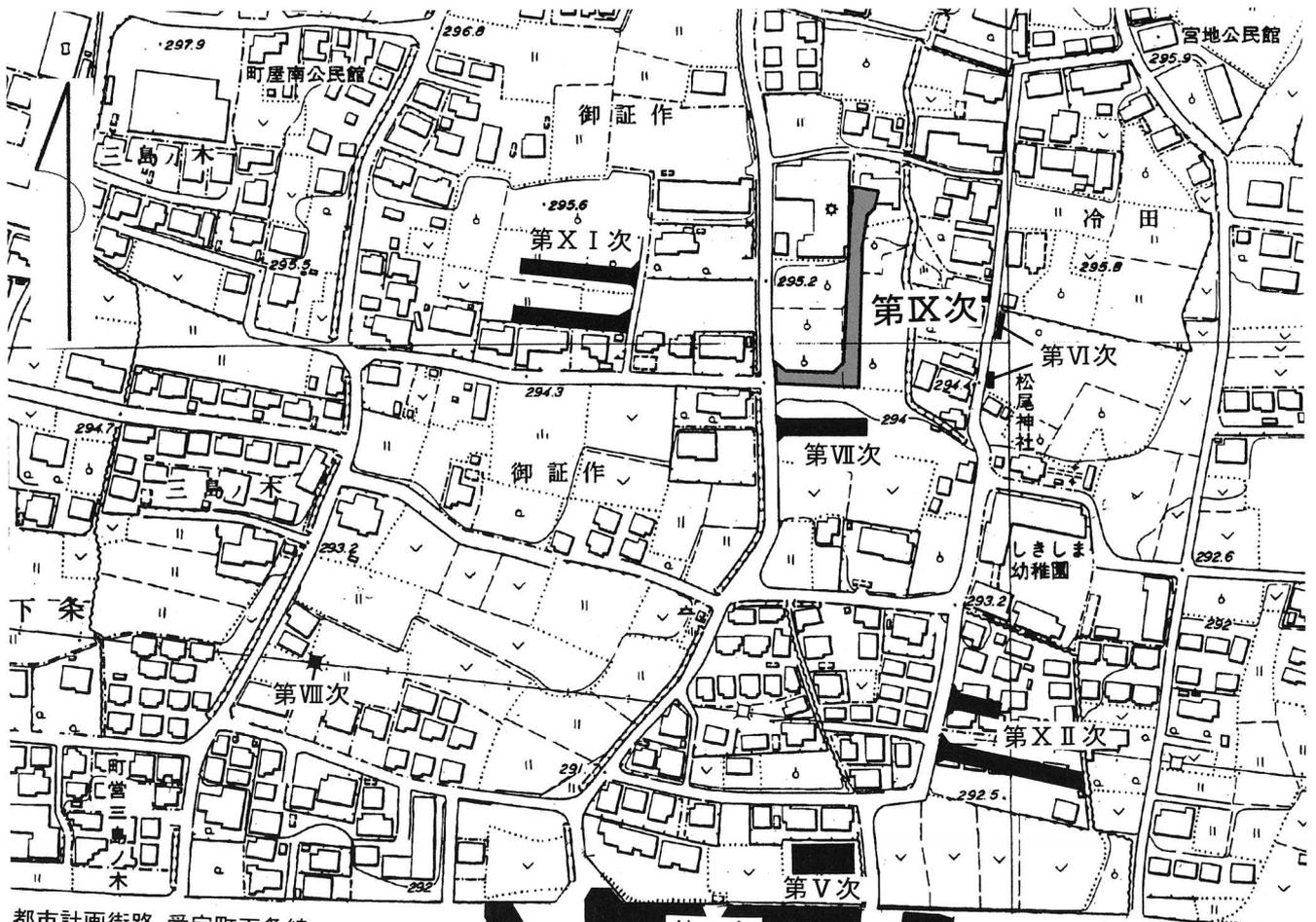
第1表 松ノ尾遺跡の各次調査概要(●は遺構あり、△は遺物のみ)

No	調査対象面積	時			代			7 ~ 12世紀代の主な遺物		
		縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世			
				前	中	後	前	後		
I次	7,000	△	△	△		●	●	●	△	円面硯(1個体)、緑釉陶器(碗・稜碗)、帯金具(鉸具・蛇尾具)、銅碗片、銅鏡片、銅製連繫壺金具、小金銅仏、土師質土器、白磁(碗・水注・壺)、青白磁碗、青磁碗
II次	2,000	△	●	●	△	●	●	●	△	円面硯(3個体)、瓦(3点)、多面高坏、緑釉陶器(碗・稜碗)、帯金具(鉸具)、白・青磁碗
III次	250	●			△	●	△	△	△	緑釉陶器(碗・耳皿)、白磁碗(I類-蛇ノ目高台)、青白磁碗、青磁碗、転用碗、長頸壺(壺G)
IV次	640	△	△	△		●	△	△	△	放射状暗文(盤状)坏、長頸壺(壺G)、緑釉陶器(碗・段皿)
V次	250	△	△	△		●	●	●	●	放射状・螺旋状暗文坏、緑釉陶器碗、白磁(碗・水注)、青白磁皿、転用硯
VI次	80	△				△	●	●	△	土師器、土師質土器
VII次	375	△	△			●		●	●	螺旋、土師質土器、青磁(碗・皿)、硯
VIII次	64	●	●	△			△	△	△	土師質土器、青磁(碗・皿)
IX次	421	●	●			●		●	●	土師質土器、青磁碗、硯
X次	374	△	△	△		●		●	●	瓦(2点)、土師質土器、白磁
XI次	597							●	●	土師質土器、白磁、青白磁、銅製品
XII次	481	△		●		●	●	●	●	放射状(盤状)・螺旋状暗文坏、須恵器甕(8~9世紀)、緑釉陶器碗、転用硯



第1図 松ノ尾遺跡と周辺の遺跡（甲斐市敷島地区）

- ① 松ノ尾
- ② 原藤
- ③ 山宮地
- ④ 村殿
- ⑤ 不動ノ木
- ⑥ 三昧堂
- ⑦ 御母田
- ⑧ 金の尾
- ⑨ 米法
- 1 榎田
- 2 菅羽
- 3 米津
- 4 万寿新石墳
- 5 加牟部塚古墳
- 6 おてんさん古墳
- 7 二光寺山古墳
- 8 藤村山1号古墳
- 9 藤村山2号古墳
- 10 藤村山3号古墳
- 11 藤村山4号古墳
- 12 藤村山5号古墳
- 13 藤村山6号古墳
- 14 大平1号古墳
- 15 大平2号古墳
- 16 塩沢寺無名墳
- 17 大塚古墳
- 18 無名塚古墳
- 19 家師塚古墳
- 20 証文塚古墳
- 21 夙塚古墳
- 22 精塚古墳
- 23 無名2号墳
- 24 子江塚古墳
- 25 無名1号墳
- 26 天神塚古墳
- 27 天塚古墳
- 28 米五古墳
- 29 大塚古墳
- 30 大塚古墳
- 31 狐塚古墳
- 32 穴塚古墳
- 33 双塚1号墳
- 34 往生塚古墳
- 35 双塚2号墳
- 36 狐塚古墳
- 37 菅王1号墳
- 38 菅王2号墳
- 39 菅王3号墳
- 40 ニツ洞1号墳
- 41 ニツ洞2号墳
- 42 ニツ洞3号墳
- 43 西山1号墳
- 44 西山2号墳
- 45 西山3号墳
- 46 狐塚1号墳
- 47 狐塚2号墳
- 48 狐塚3号墳
- 49 中林塚
- 50 丸山古墳
- 51 四ツ石塚
- 52 形部塚1号墳
- 53 形部塚2号墳
- 54 西目塚1号墳
- 55 西目塚2号墳
- 56 西目塚3号墳
- 57 西目塚4号墳
- 58 西目塚5号墳
- 59 片瀬塚
- 60 双塚3号墳
- 61 天狗成塚
- 62 藤村山塚
- 63 法泉寺山塚
- 64 和田山塚
- 65 山之神塚跡（五輪塔1基）
- 66 土屋新塚跡（五輪塔2基）
- 67 慈徳塚跡

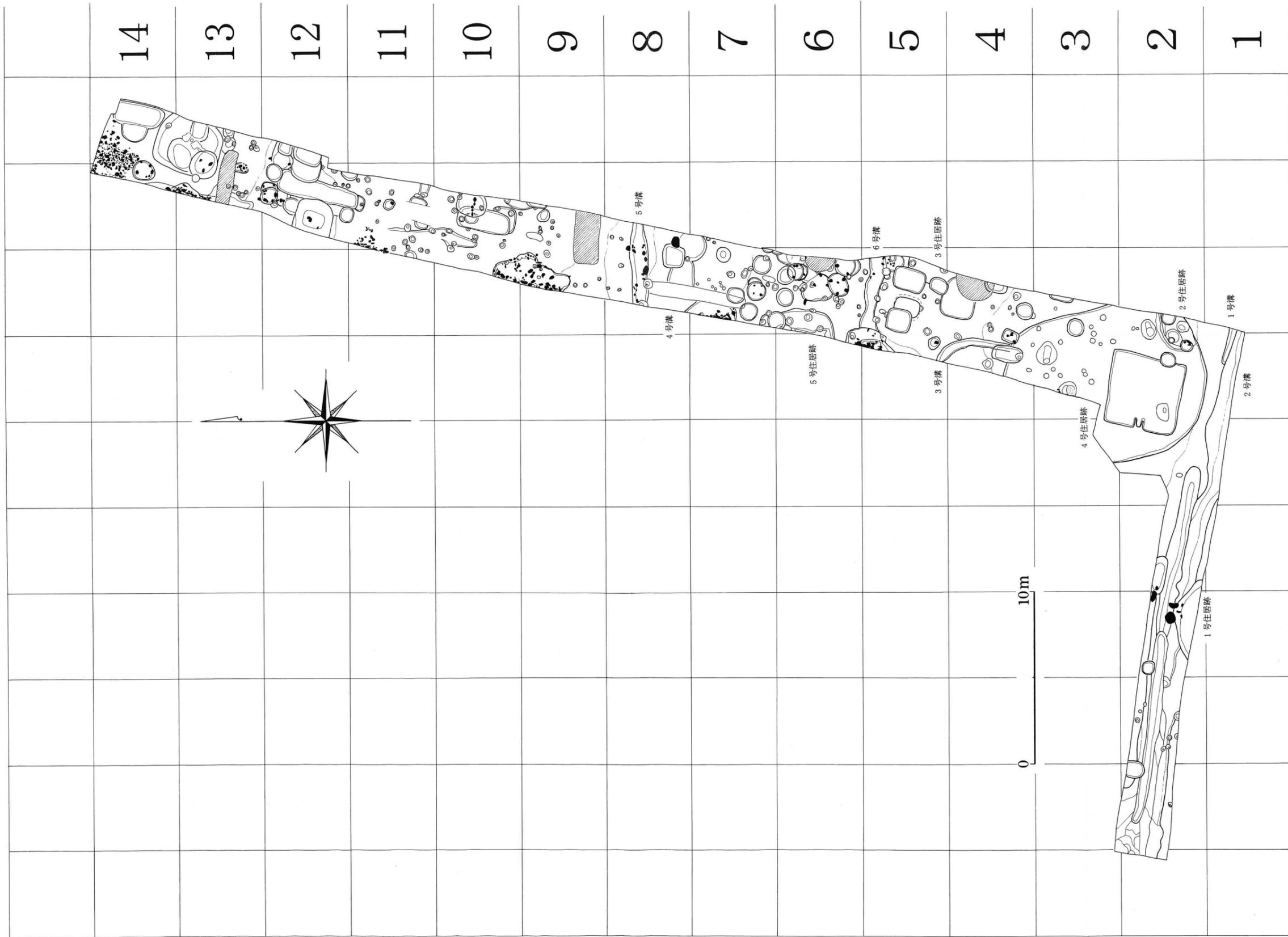


都市計画街路 愛宕町下条線



第2図 調査区位置図 (■は第IX次調査区) S=1:3000

S=1:3000



AA A B C D E F G H I

第3図 調査区全体図

第2章 遺構と遺物

1. 縄文時代

土坑

1号土坑（第4図、図版3・10）

本跡はF-5グリットに位置し、南に3号溝が隣接する。平面形は円形、規模は上面80×64cm、底面46×44cm、深さ確認面より74cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがる。埋積土は淡灰色砂質土、淡茶褐色土である。遺物の出土状況は確認面付近で口辺部の小片が数点出土し、埋積土の中位から下位にかけて深鉢形土器の大形破片が土坑の壁面付近から出土した。これに伴って大形の礫が土坑中央で認められた。これらの土器片は復元の結果ほぼ1個体（12）となったが、出土状態からは完形のまま埋納されたとは判断できない。しかし、土坑内には他の土器片が含まれなかったこと、また、大形の礫を抱えていることから本跡は土葬墓と推定される。

遺物は1～4が同一個体の口辺部、5～8・9が同一個体、11・12は同一個体である。土坑内には12を本体とする深鉢のほかに1～10の数片の土器片が埋められていた。1～4は口辺部片である。口辺部は大きく外傾し、口辺端部で内側に「く」字状に屈曲する。文様は口辺端部を縦の集合沈線文によって区画し、間を横の集合沈線文で充填している。1は把手が付くが形状は不明である。口辺部は半截竹管による沈線で山形に区画されている。山形区画の上位は横の集合沈線文が充填されたあと縦の平行沈線文が数条施されている。山形区画の下位は無文に縦の懸垂文が施されている。5・6・8・9は平行沈線により幾何学文に区画され、平行沈線文が格子目状に充填される。7・8は頸部で横の平行沈線文で区画され、斜格子の集合沈線文が充填されている。10は地文に縄文が施される。12は口辺部下位が胴部との間を平行沈線文で区画し、羽状に集合沈線文が施される。胴部は縦位にY字状の平行沈線文によって区画され、地文に縄文が施される。13は黒曜石の石塊であるが使用痕が認められないため、石材の薄片と推定される。重さは10g。

2. 弥生時代

住居跡

1号住居跡（第5図、図版1・10、第2表）

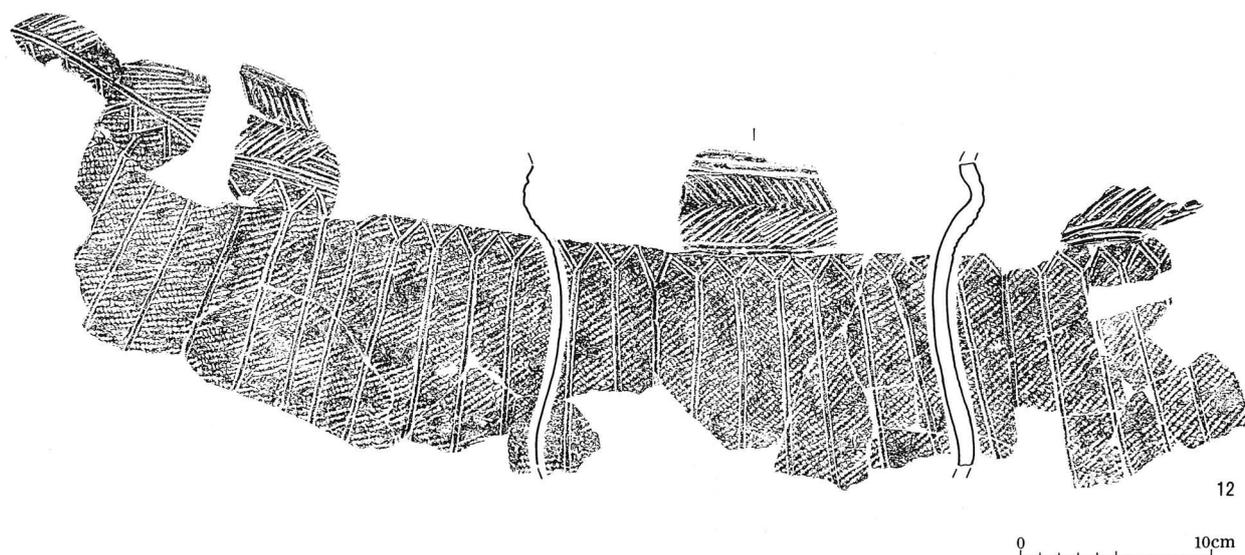
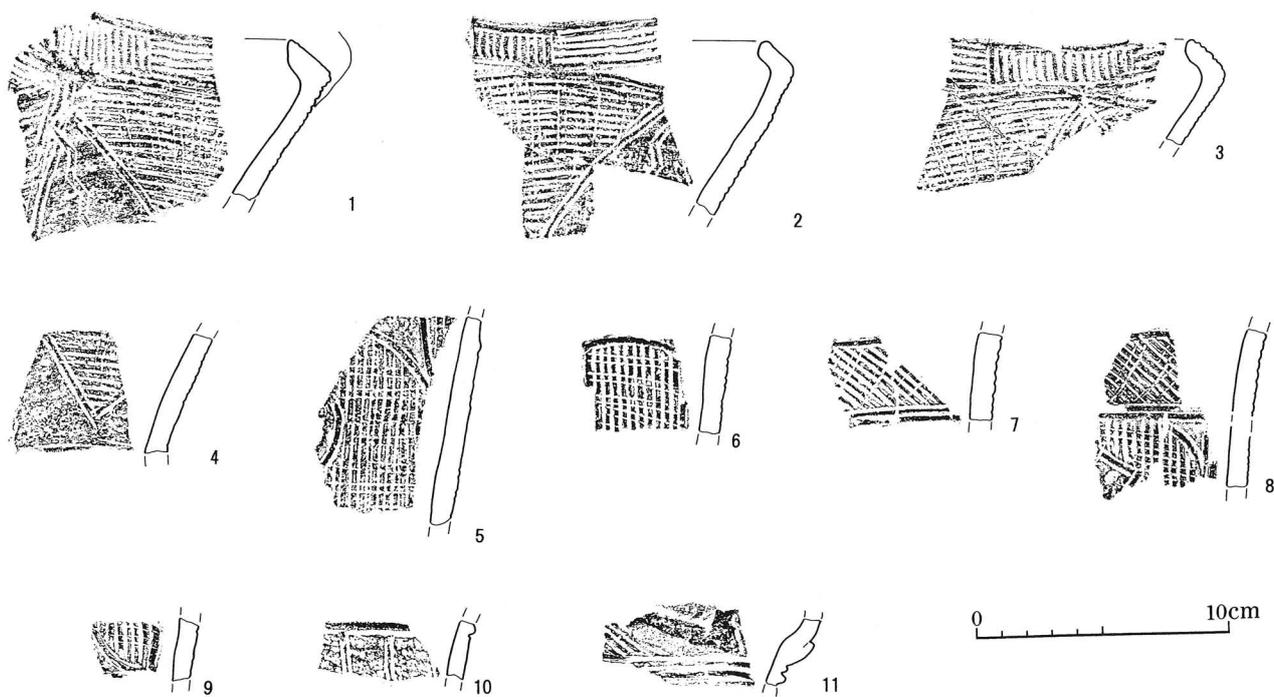
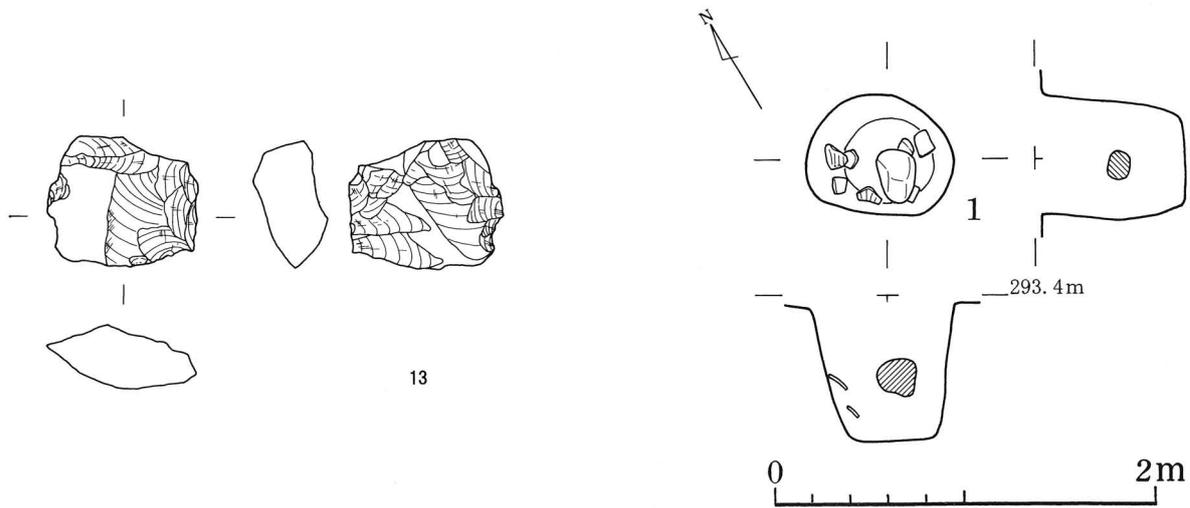
本跡は調査区の南端C・D-2グリットに位置し、1・2号溝に切られている。遺構の大半は調査区外に延びている。平面形は円形あるいは楕円形と推測され、規模は東西4.6m、南北1.4mを確認する。確認面からの深さは53.5cmで、壁はやや外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが確認された部分が北壁よりであったため、調査区内では硬化面を認めることはできなかった。また、炉、柱穴なども確認することができなかった。埋積土は淡灰褐色土、灰褐色土、黄褐色土、茶褐色土、褐色土である。特に西側の埋積土は互層を成しており、人為的な埋め戻しが行われたと推定される。

遺物は1～4が縄文土器、5～7は近世の陶器である。5～7の陶器は耕作土中のものが混じりこんだものと推定される。

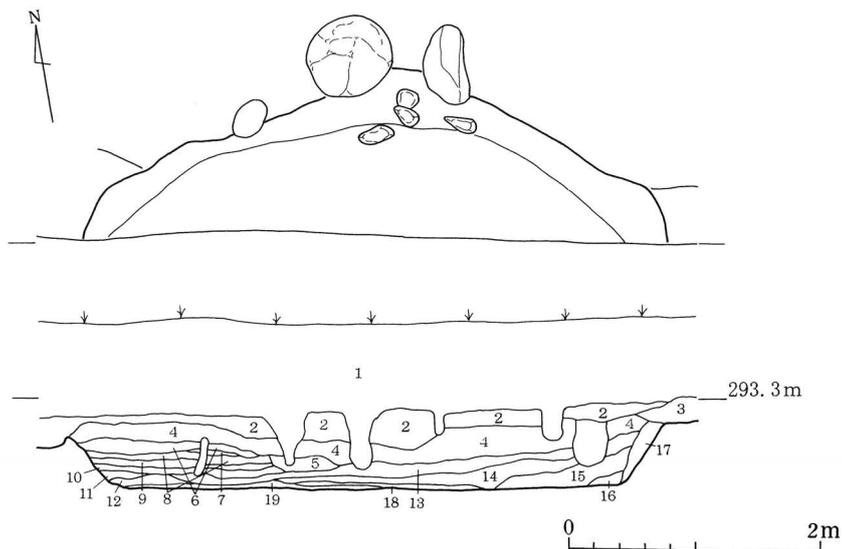
時期はその形状や付近の遺構から弥生土器が出土していることから、弥生時代後期と判断される。

2号住居跡（第6～9図、図版1・10・15、第3表）

本跡は調査区の南東隅、E～G-2～4グリットに位置し、4号住居跡、44・45号土坑に切られている。本跡は建て替え、拡張が行われている。遺構は北西隅、南東隅が調査区外に延びていて確認できなかったが、今次調査で確認した住居の最大のものである。平面形は長楕円形で、規模は南北11.8m、東西9mを測る。確認面からの深さ10～20cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、炉の南側付近を中心に硬化面が広がっている。柱穴はP1からP3の3口を確認し、P1は径140×120cm、深さ48cm、P2は径120×80cm、深さ62cm、

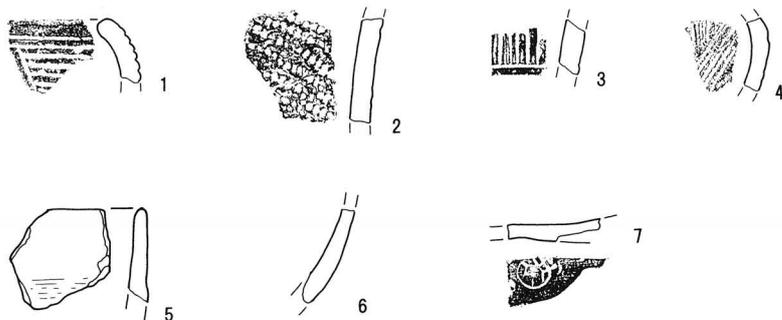


第 4 图 1 号土坑·出土遺物



1号住居跡

- | | |
|---|--|
| <p>1. 表土</p> <p>2. 灰褐色土 (締まる、径1~3mm粗砂少量、サビ痕多く含む)</p> <p>3. 黄褐色土 (締まる、0.5~2mm白色粒多く、径10黒色土塊含む)</p> <p>4. 淡灰褐色土 (締まる、径1~3mm粗砂少量、径1cm黒色土塊少量含む)</p> <p>5. 灰褐色土 (締まる、径1~3mm粗砂、炭化物少量含む)</p> <p>6. 灰褐色土 (締まる、径1~3mm粗砂、径10~15mm黄褐色土塊、炭化物少量含む)</p> <p>7. 黄褐色土 (締まる、粗砂少量含む)</p> <p>8. 茶褐色土 (締まる、粗砂、黒色土、サビ痕多く含む)</p> <p>9. 茶褐色土 (締まる、明るい、径5~10mm黄褐色土多く、黒色土少量含む)</p> | <p>10. 茶褐色土 (締まる、黄褐色土、黒色土多く含む)</p> <p>11. 茶褐色土 (締まる、黄褐色土塊多く、黒色土少量含む)</p> <p>12. 褐色土 (締まる、砂質、黄褐色土塊多く含む)</p> <p>13. 茶褐色土 (締まる、粗砂多く、サビ痕少量含む)</p> <p>14. 褐色土 (締まる、黄褐色土塊多く含む)</p> <p>15. 茶褐色土 (締まり弱い、粒子少ない)</p> <p>16. 黄褐色土 (締まり弱い、茶褐色土少量含む)</p> <p>17. 淡黄褐色土 (締まり弱い、粒子少ない)</p> <p>18. 暗茶褐色土 (締まり弱い、粒子少なく、炭化物多い)</p> <p>19. 褐色土 (締まり弱い、粒子少ない、黄褐色土塊少量含む)</p> |
|---|--|

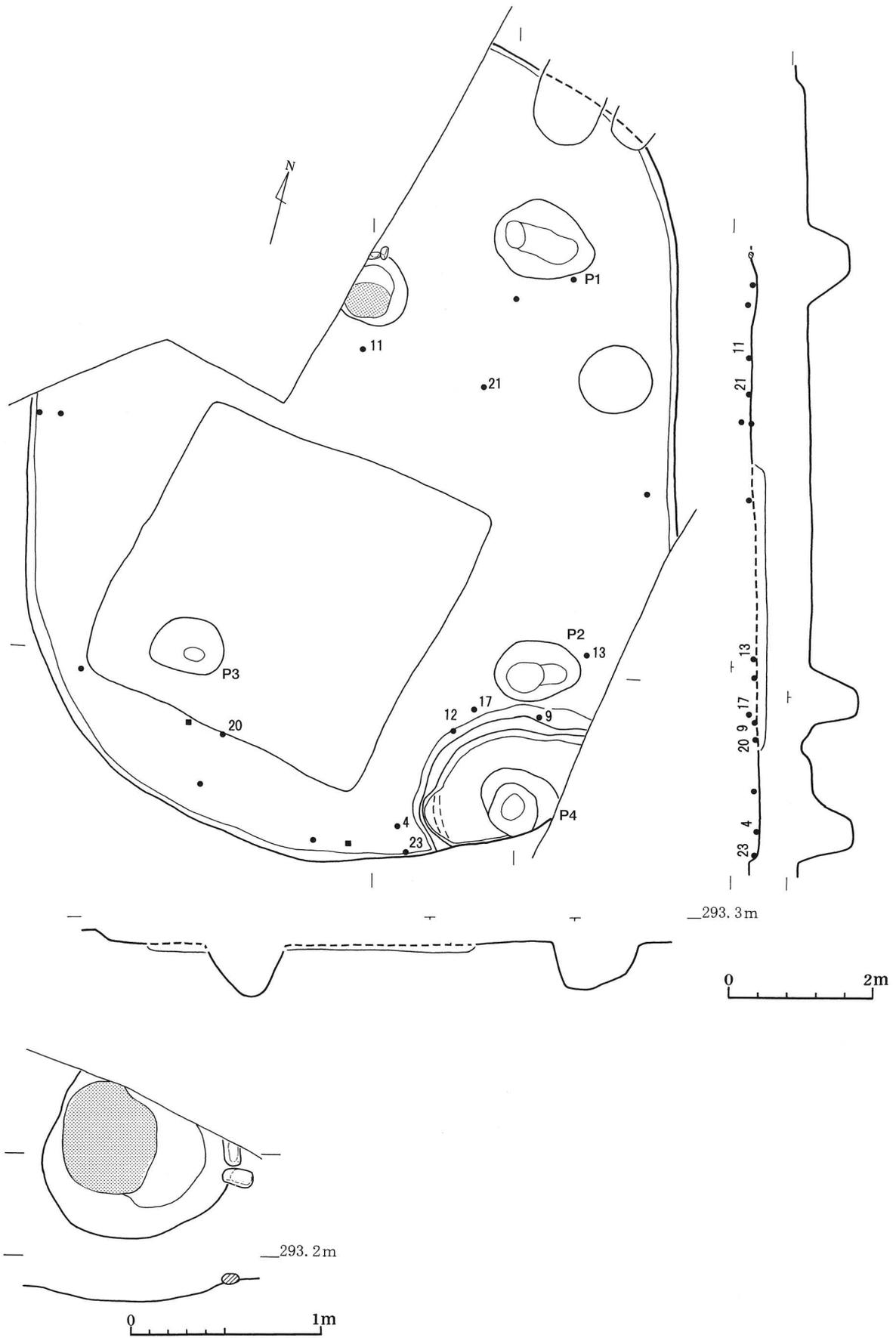


第5図 1号住居跡・出土遺物

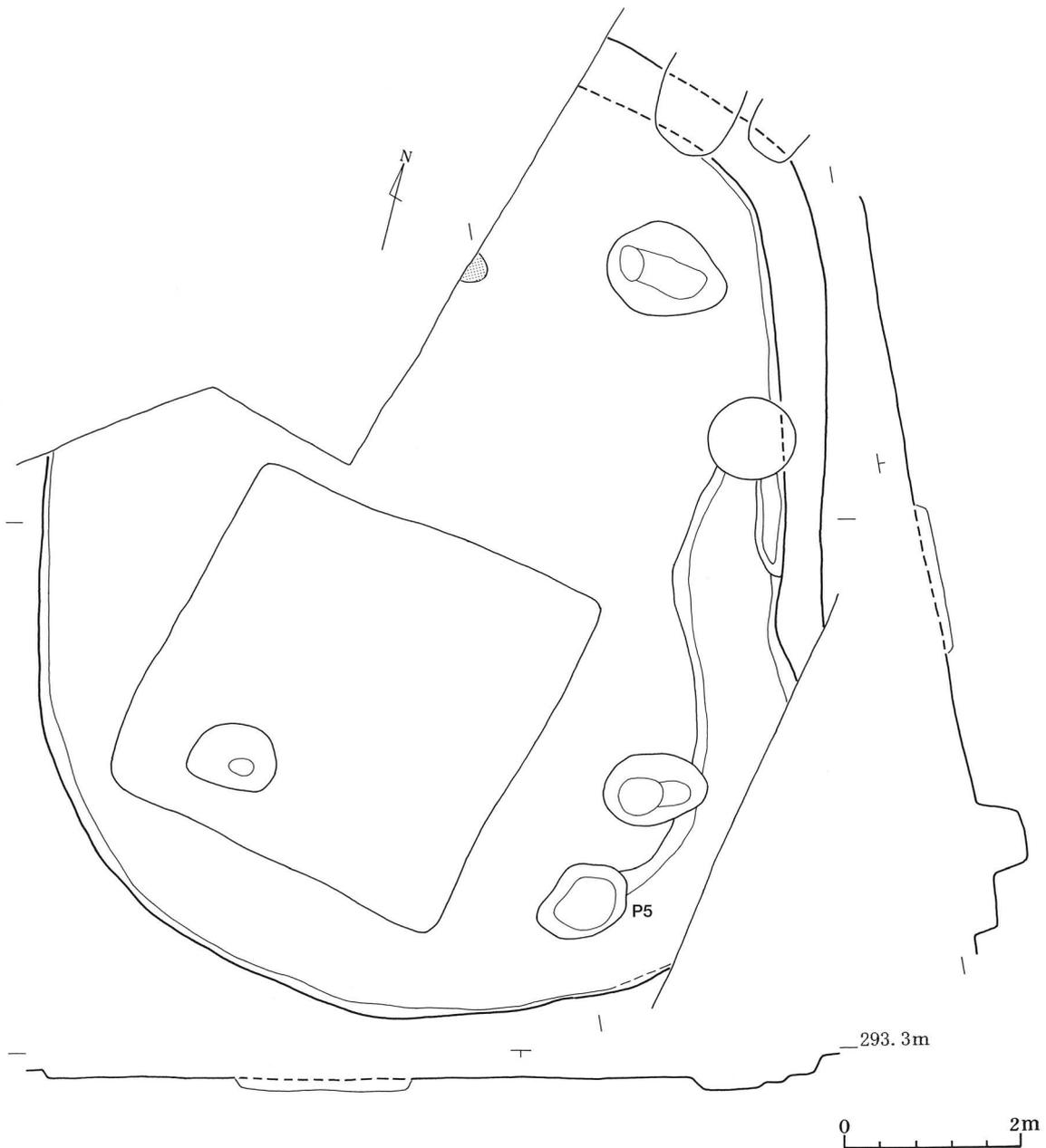
第2表 1号住居跡出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		縄文・五領ヶ台	—	—	—		良	黒雲母		
2		縄文	—	—	—		良	石英、黒雲母		
3		縄文	—	—	—		良	石英、黒雲母		
4		縄文・諸磯	—	—	—		良	石英、黒雲母		
5		美濃焼・灰釉呉須絵丸碗	—	—	—					連房中期 (1640~1700年頃)
6		美濃焼・鉄釉灰釉掛け分丸碗	—	—	—					連房V期 (1840~1870年)
7		京焼系・透明釉碗	—	—	—					

P3は径100×80cm、深さ66cmである。P4は貯蔵穴で径98×83cm、深さ62.5cmである。P5は旧住居の貯蔵穴で上面に貼り床が認められた。大きさは径110×80cm、深さ60cmである。P4の外側60cmには径280cm、高さ10cmの半円形の隆帯が認められた。また、隆帯の下部には旧住居の貼り床が確認された。旧住居は平面形が楕円形、規模は西・南側は建て替え後の住居の床が植物痕の影響で壁を確認できなかったが、推定、南北11.4m、東西8mを測る。床面は建て替え後の床面下4~10cmに認められ、ほぼ平坦である。柱穴は新住居と同一場所での建



第6图 2号住居跡



第7図 2号住居跡

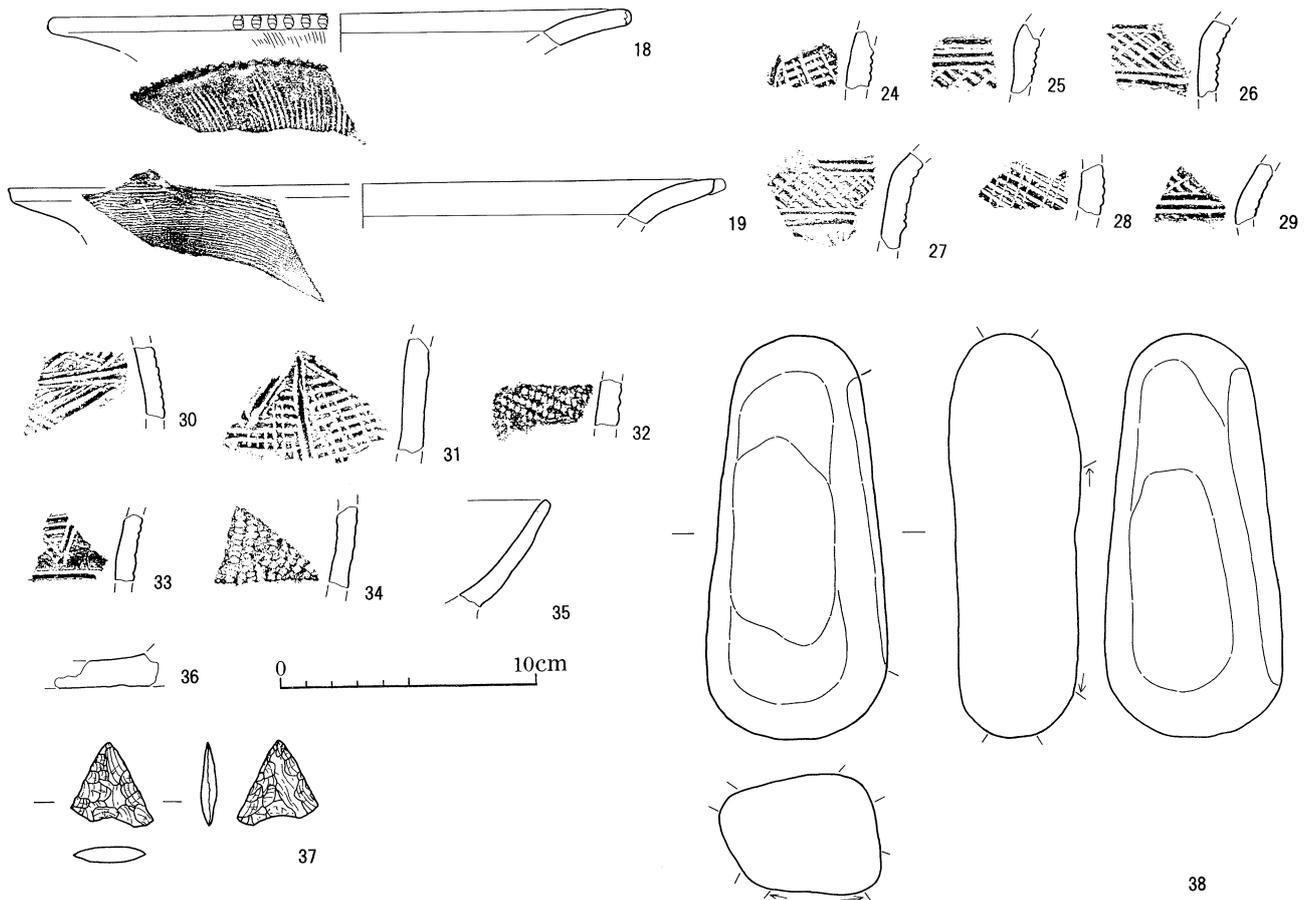
替えが行われたものと推測される。炉は中央やや北よりに設けられ、若干調査区外に延びている。平面形は円形、大きさは径100cm、深さ8cmを測る。北寄りに礫が遺存する。底面南寄り50×60cmの範囲が炉床と推定され、よく焼け赤化している。遺物は1～3、5～7、10、14、30が貯蔵穴の下層より出土し、そのほかは埋積土中より出土した。

遺物は1～4、13、15、20、21、23が弥生土器・甕、5～12、14が弥生土器・壺、18、19が弥生土器・高坏、22が土師器・甕、17が土師器・器台、35が土師器・高坏、24～34は縄文土器、36は播鉢、37は石鎌、38は磨り石である。1～4、13～15はハケ目が施される。10～12は口辺部外面に3本を一単位とする棒状の粘土紐が貼り付けられている。9、16は縄文を施す。6～9、16、18、19は赤彩される。14は駿東系の胎土をしている。24～31は斜格子の集合沈線文が施される。32、34は地文に縄文を施す。38は石材が花崗岩、重さは169g。

時期は弥生末から古墳時代初頭である。



第 8 图 2 号住居跡出土遺物 (1)



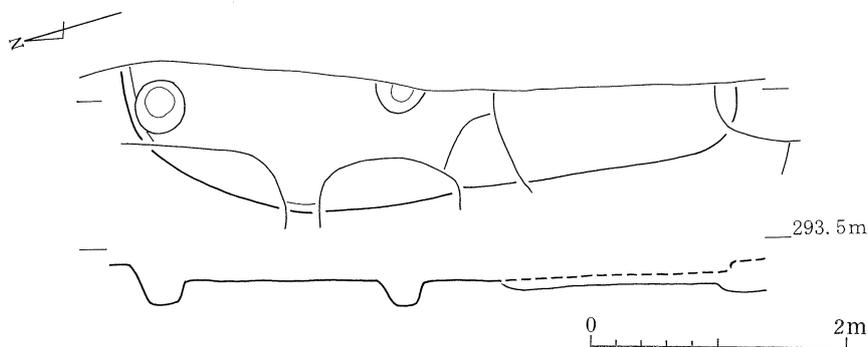
第9図 2号住居跡出土遺物(2)

第3表 2号住居跡出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	貯蔵穴下層	弥生・甕	20.5	—	—	5YR6/8	良	細砂、金雲母微量	口辺部外面ハケ目、内面横ハケ	
2	貯蔵穴下層	弥生・甕	—	—	—	5YR5/6	やや良	微砂	口辺部外面ハケ目、内面横ハケ	
3	貯蔵穴下層	弥生・甕	—	—	—	5YR6/6	やや不良	細砂、金雲母微量	口辺部外面ハケ目、内面横ハケ	
4		弥生・甕	—	—	—	7.5YR6/4	良	白色微砂多い	口縁部刻み、口辺部外面ハケ目、内面横ハケ	
5	貯蔵穴下層	弥生・壺	—	—	—	5YR6/4	良	細砂	口辺部外面ハケ目	
6	貯蔵穴下層	弥生・壺	—	—	—	—	良	粗砂	口辺部外面赤彩	
7	貯蔵穴下層	弥生・壺	—	—	—	—	良	粗砂	口辺部外面ハケ目、内外面赤彩	
8		弥生・壺	—	—	—	—	良	石英	内外面横ハケ後赤彩	
9		弥生・壺	—	—	—	—	良	石英砂やや粗い	頸部上位ミガキ後赤彩、下位縄文	
10	貯蔵穴下層	弥生・壺	—	—	—	5YR6/6	良	石英砂、粗砂	口辺部外面横ハケ、内面横ハケ後ミガキ	
11		弥生・壺	—	—	—	5YR7/6	良	粗砂、金雲母微量	口辺部内面ミガキ	
12		弥生・壺	—	—	—	2.5YR6/6	良	粗砂少量		
13		弥生・甕	—	—	—	—	良	細砂	体部外面横ハケ、下位横ハケ後斜めハケ、内面横ハケ後ミガキ	
14	貯蔵穴下層	弥生・壺	—	—	—	5YR6/6	良	粗砂	体部外面ミガキ、内面横ハケ	
15		弥生・甕	—	—	—	5YR3/2	良	微砂	体部外面横ハケ	
16		弥生・壺	—	—	—	7.5YR5/3	良	石英微砂	体部外面上位縄文、下位赤彩、内面ヘラナデ	
17		土師器・器台	—	—	—	2.5YR5/6	良	赤色粒多い		
18		弥生・高坏	22.4	—	—	5YR4/6	良	石英	口辺部外面ハケ目、内面赤彩	
19		弥生・高坏	27.6	—	—	2.5YR6/8	良	微砂、石英	口辺部外面横ハケ、内面赤彩	
20		弥生・甕	—	—	—	7.5YR4/3	良	細砂、礫若干	体部外面ハケ目、外底面木葉痕、内底面棒状工具によるナデ	
21		弥生・甕	—	—	—	7.5YR5/4	良	粗砂、赤色粒	内底面棒状工具によるナデ	
22		土師器・甕	—	—	—	2.5YR4/6	良	石英砂		
23		弥生・甕	—	—	—	7.5YR7/6	良	石英、金雲母微量	内底面棒状工具によるナデ	
24		縄文・五領ケ台	—	—	—	—	良	黒雲母		
25		縄文・五領ケ台	—	—	—	—	良	黒雲母		
26		縄文・五領ケ台	—	—	—	—	良	黒雲母		
27		縄文・五領ケ台	—	—	—	—	良	石英		
28		縄文・五領ケ台	—	—	—	—	良	黒雲母		
29		縄文・五領ケ台	—	—	—	—	良	黒雲母、石英		
30	貯蔵穴下層	縄文	—	—	—	7.5YR3/2	良	細砂、金雲母少量		
31		縄文・五領ケ台	—	—	—	—	良	黒雲母		
32		縄文	—	—	—	—	良	粗い、石英砂		
33		縄文・五領ケ台	—	—	—	—	良	黒雲母		
34		縄文	—	—	—	—	良	黒雲母		
35		土師器・高坏	—	—	—	5YR3/2	良	微砂	内外面ミガキ	
36		播鉢	—	—	—	10YR5/1	やや良	石英		

3号住居跡（第10図、図版1）

本跡はG-4・5グリットに位置し、大部分が調査区外に延びている。また、61・62・47号土坑および攪乱に切られている。その為、遺存している部分は北壁と床面の一部のみであった。また、攪乱の底面に掘り方が認められたことから住居と判断された。平面形は隅丸方形と推定され、規模は南北4.8mを測る。確認面からの深さは10cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。炉・柱穴は調査区内では確認することはできなかった。遺物は何も出土しなかった。



第10図 3号住居跡

3. 古墳時代

住居跡

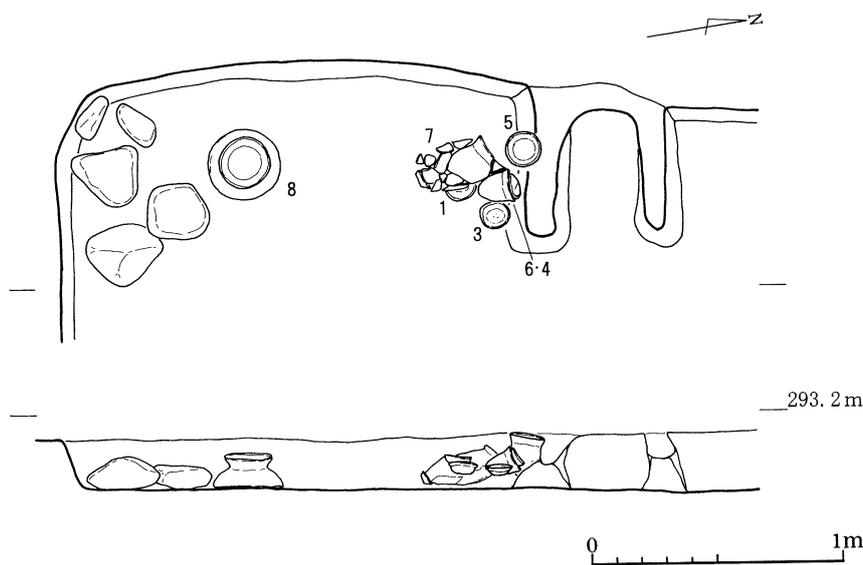
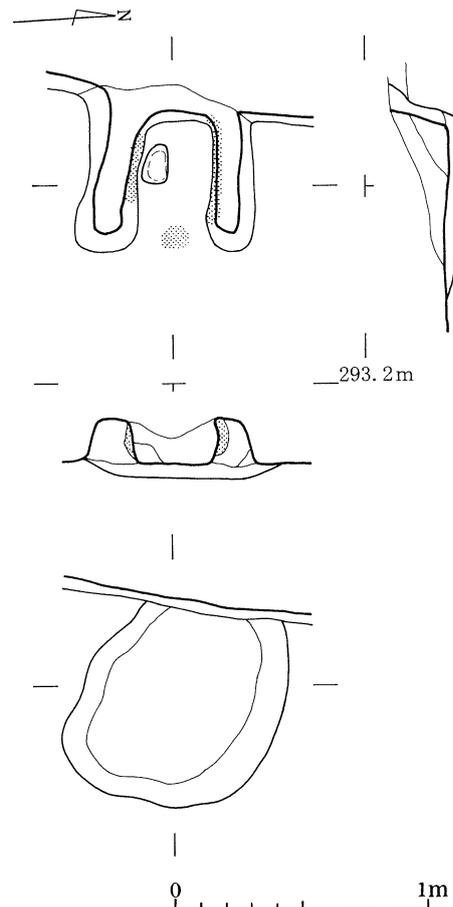
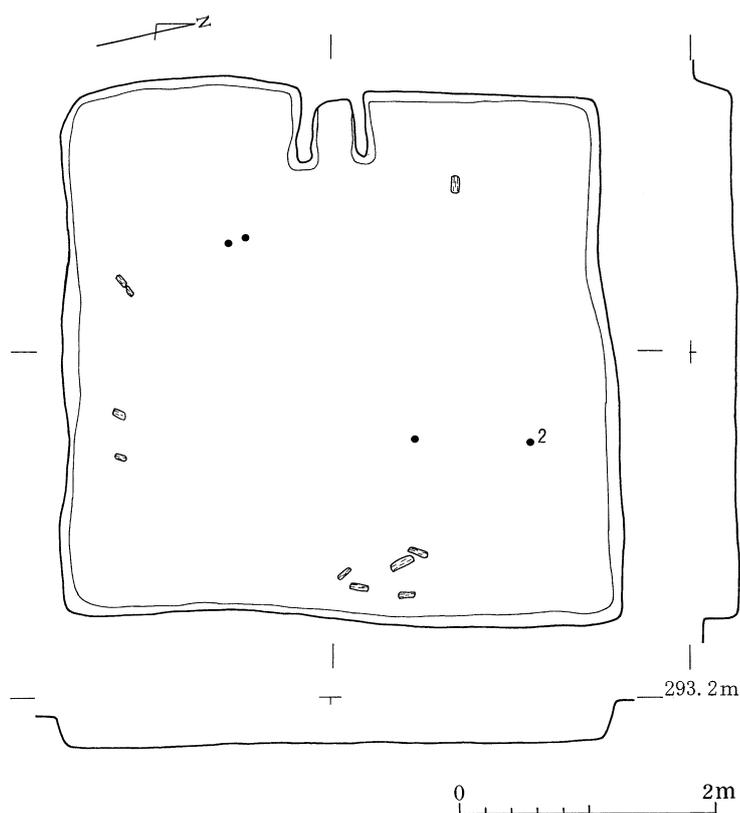
4号住居跡（第11・12図、図版2・11、第4表）

本跡は調査区の南東隅、E・F-2・3グリットに位置し、2号住居跡を切る。平面形は方形を呈し、規模は南北4.3m、東西4.25mを測る。主軸方向はN-78°-W。確認面からの深さ36cmで、壁はほぼ垂直に立ちあがる。床面はほぼ平坦で、カマド前面を中心に硬化面が広がっている。柱穴は認められなかった。埋積土は暗茶褐色土で、2~3cmの淡褐色土、1~2cmの黒色土塊を含む。南及び東側の埋積土中位より炭化材が若干確認されたが、焼土などは認められなかった。遺物の出土状況はカマド南際から南西隅にかけての西壁から土師器坏、甕などが出土した。甕（5）はカマド南脇から正位の状態で、甕（6・7）はその南側でカマドに倒れ込むようにして出土した。坏（4）は甕（6）の口辺部に入れ子状態で、また、坏（1・3）は甕の前面の床面よりやや浮いた高さで正位の状態で出土した。甕（8）は体部下半部を欠いて、床面上に正位の状態で出土した。出土状況から甕（8）は置甕として使われたものと推測される。土器の南西隅にある礫は平らな面を上に向け、甕の口辺部のレベルとほぼ同一であった。また、中央北よりの床面上から俵状の礫と共に土師器坏（2）が正位で出土した。

カマドは西壁中央に設けられている。両袖が良く遺存し、内面が良く焼けている。火床は床面とほぼ同じ高さで径10cmの範囲が良く焼けていた。壁外への掘り込みはほとんど認められず、燃烧部はほぼ垂直に立ちあがる。カマド構築材は地山によって作られている。燃烧部底面に俵状の礫が横になった状態で出土し、形状・大きさから支脚と推測される。

遺物は1~4が土師器・坏、5~8が土師器・甕、9・10は縄文土器、11は弥生土器である。坏は体部外面に稜をもち、体部はヘラケズリ、内面はミガキが施される。1の内面に「×」のヘラ記号が認められる。5・6は体部外面斜めケズリ、内面ヘラナデ、7は外面縦のケズリ、8は内外面刷毛によるナデ。5~7は底部に複数の木葉痕が認められる。9は集合沈線文、10は地文に縄文が施される。11は内外面赤彩される。2号住居跡の遺物が混入したものか。

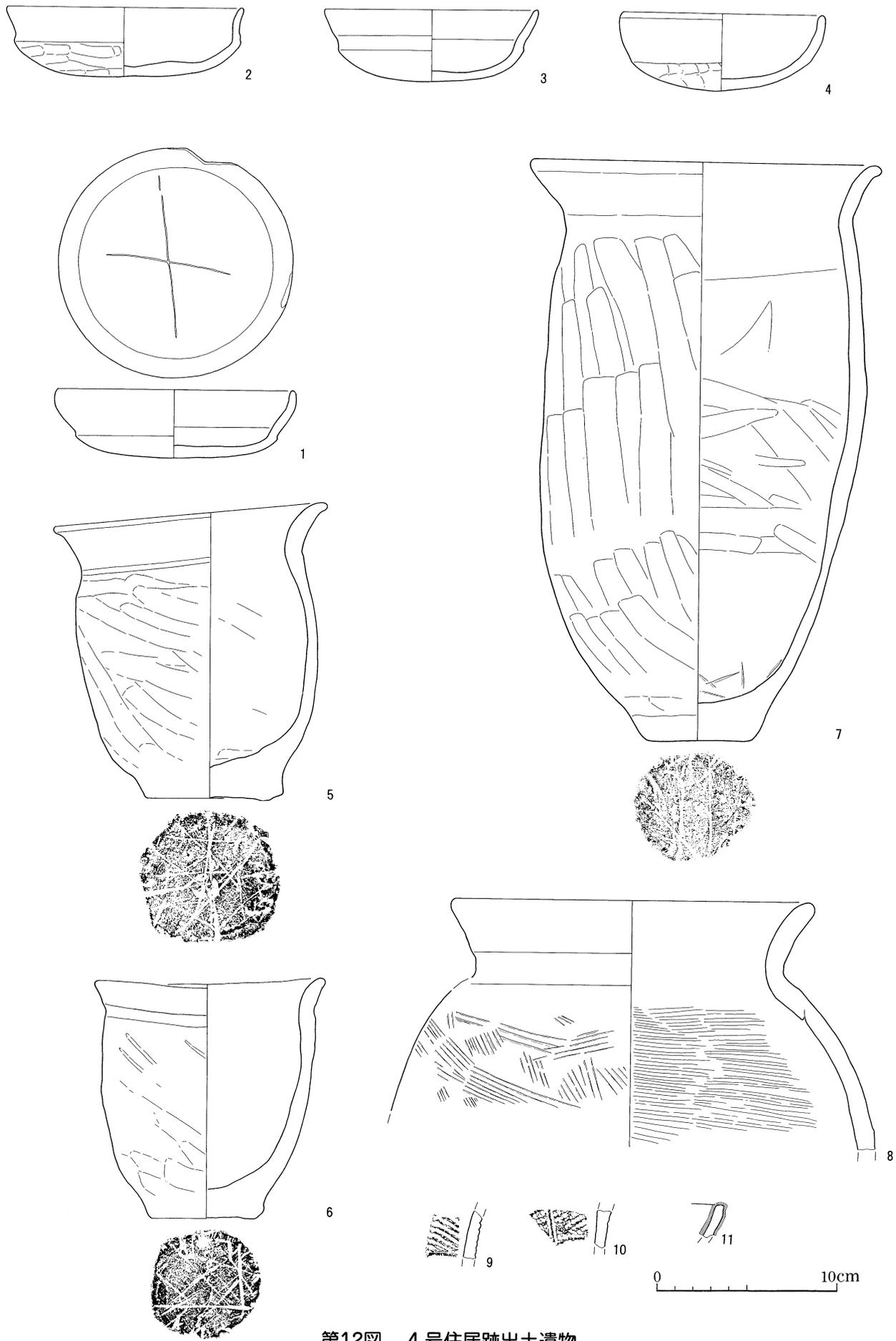
時期は古墳時代後期。



第11図 4号住居跡

第4表 4号住居跡出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土師器・坏	13	—	3.9	—	良	金雲母微量	底部ヘラ削り、内面磨き仕上げ、内面に「X」ヘラ記号	
2		土師器・坏	13	—	3.9	2.5YR5/6	良	赤色粒少々	底部ヘラ削り、内面磨き仕上げ	
3		土師器・坏	11.7	—	4	5YR3/2	良	粗砂少量含む	底部ヘラ削り、内面ナデ	
4		土師器・坏	11	—	4.4	2.5YR5/6	良	粗砂、金雲母微量	底部ヘラ削り、内面ヘラナデ後ミガキ	
5		土師器・甕	15	7.6	16.7	2.5YR4/6	良	石英、黒雲母、細砂	口辺部横ナデ体部外面斜めケズリ、内面指ナデ、外底面木葉痕	
6		土師器・甕	12.4	5.8	13.6	2.5YR3/6	良	石英、細砂少量	口辺部横ナデ体部外面斜めケズリ、下位横ケズリ、内面指ナデ、外底面木葉痕	
7		土師器・甕	18.8	5.8	32.6	5YR3/4	良	1~2mm白色砂少量、細砂多い	口辺部横ナデ、体部外面縦ケズリ、下位斜めケズリ、内面ナデ、底部木葉痕	
8		土師器・甕	19.6	—	—	2.5YR4/4	良	粗砂少量	口辺部横ナデ、体部外面斜めハケメ、内面横ハケ	
9		縄文・五領ヶ台	—	—	—	—	良	石英、黒雲母		
10		縄文・五領ヶ台	—	—	—	—	良	石英砂		
11		弥生・壺	—	—	—	—	良	石英	内外面赤彩	

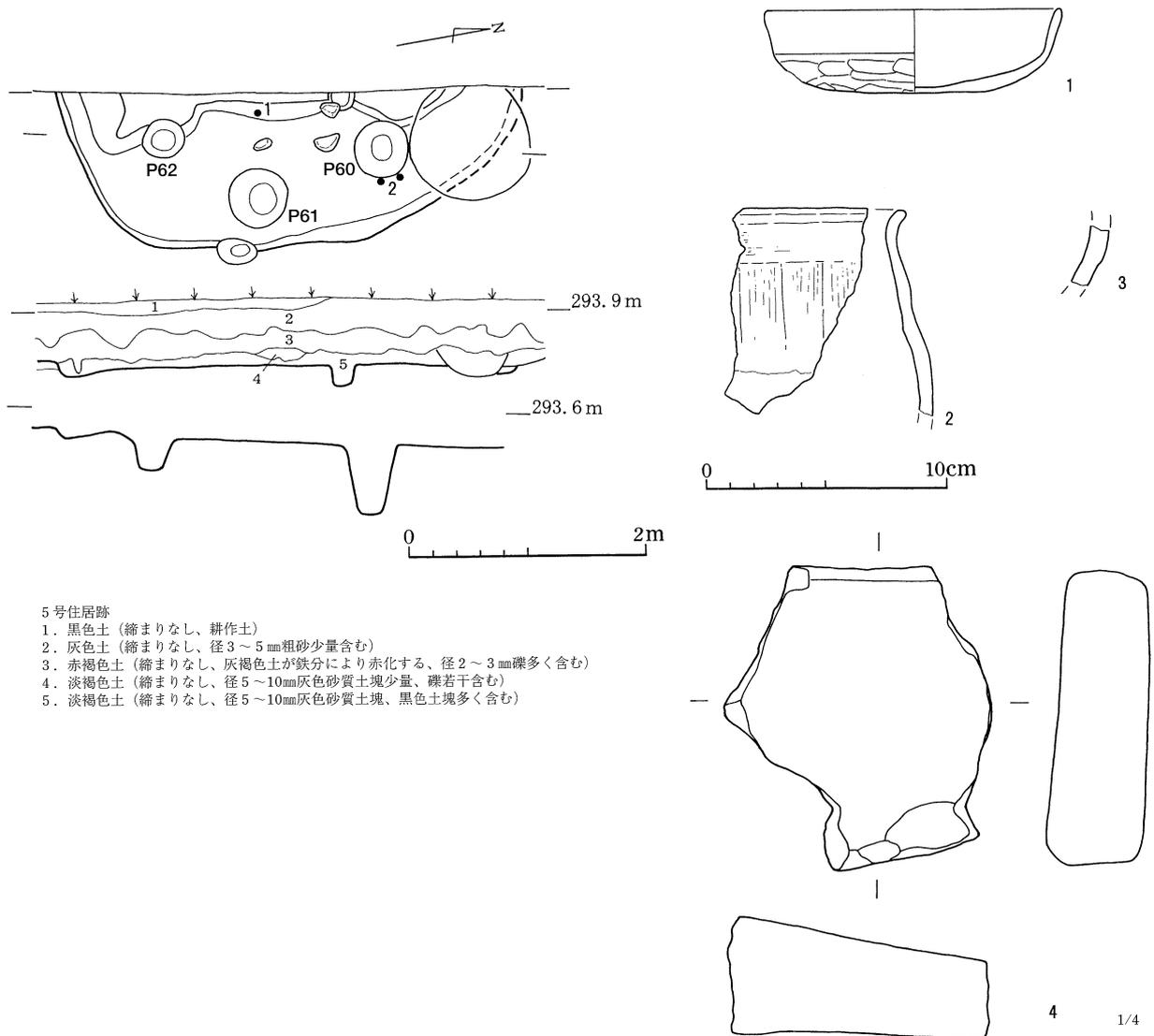


第12図 4号住居跡出土遺物

5号住居跡（第13図、図版2・11、第5表）

本跡はF・H-6グリットに位置し、11号土坑に切られる。遺構の大半は調査区外に延びている。平面形は隅丸方形と推定され、規模は南北3.9m、東西1.3mを確認した。壁は僅かに立ちあがり、高さは5cmほどである。床面は調査区の際で確認し、ほぼ平坦で堅く締まっていた。また、壁際は掘り方まで掘ってしまったので、床面を確認することができなかった。遺構内で、小穴を3口確認した。P60は径46cm、深さ59.9cm、P61は径50cm、深さ30.2cm、P62は径37cm、深さ28.3cmを測る。それぞれの小穴は大きさ、深さともに均一でないため、あるいは遺構に伴わないものかと推定される。埋積土は淡褐色土。遺物は床面中央の床上より土師器坏（1）が正位の状態で出土した。

遺物は、1が土師器坏、2が土師器甕、3が美濃焼、4が砥石、石材は花崗岩、重さは2.4kg。
時期は古墳時代後期。



- 5号住居跡
 1. 黒色土（締まりなし、耕作土）
 2. 灰色土（締まりなし、径3～5mm粗砂少量含む）
 3. 赤褐色土（締まりなし、灰褐色土が鉄分により赤化する、径2～3mm礫多く含む）
 4. 淡褐色土（締まりなし、径5～10mm灰色砂質土塊少量、礫若干含む）
 5. 淡褐色土（締まりなし、径5～10mm灰色砂質土塊、黒色土塊多く含む）

第13図 5号住居跡・出土遺物

第5表 5号住居跡出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土師器・坏	12.2	—	3.6	5YR4/4	良	微砂	体部外面ケズリ、内面ミガキ	
2		土師器・甕	—	—	—	2.5YR4/6	良	石英砂	口辺部横ナデ、体部外面ヘラナデ、内面横のヘラナデ	
3		美濃焼・鉄釉丸皿	—	—	—					大窯中期 (1550～1585年頃)

4. 古代末から中世

a. ピット・掘立柱建物跡（第14・16図、図版12、第7表）

本調査区で確認したピットは総数142口である。現地作業では調査区の幅が狭く、また、遺構の切り合いが激しかったため掘立柱建物跡を検出することはできなかった。そこで、図面整理段階でピット群の中で柱間が等間隔に並ぶものを抽出し、掘立柱建物跡として2棟を復元した。また、かわらけの出土したピット54や銭の出土したピット93またはG・H-8・9グリットのピット群なども掘立柱建物跡の復元を試みたが柱の並びを捕らえることはできなかった。

遺物はピット15・28・42・43・51・54・60・61・102・105・112・118から出土した。ピット54からはかわらけ2枚が重なった状態でピットの上位から出土した。ピット93からは銭が1枚出土したが、細片のため種類については不明である。双方とも偶然に埋積土に混入したとしては不自然なため、人為的な埋納が考えられる。

遺物は1～5・7・10～12がかわらけ、6・8・9が土師器坏、13が足高高台皿、14は内耳土器、15は在地産の播鉢、16は美濃焼、17は土師器甕、18は縄文である。2・3は口辺部の円周の1/2ほどが体部下半まで欠損している。

1号掘立柱建物跡（第15図）

本跡はG-6グリットに位置し、梁行2間、桁行2間の総柱の建物と考えられる。北東隅の柱穴は26号土坑があるため確認できなかった。柱間は梁行1.8m（6尺）-2.1m（7尺）、桁行1.9m（約6尺）-1.9m（約6尺）である。面積は14.8m²。建物方向はN-13°-E。柱穴の規模は第6表ピット観察表にある74、87、95、62、60、38、94である。出土遺物は北西の柱穴（ピット60）からかわらけ片（4）が出土している。時期は15世紀代と推定される。

2号掘立柱建物跡（第15図）

本跡はG-5グリットに位置し、梁行2間、桁行1間の側柱の建物と考えられる。柱間は梁行1.8m（6尺）-1.8m（6尺）、桁行3.1（約10尺）mである。面積は11.1m²。建物方向はN-10°-E。柱穴の規模は第6表ピット観察表にある46、49、91、89、86、84である。遺物は何も出土しなかった。柱穴は59、60号土坑を取り囲んでおり、方向もほぼ同じなため、土坑と合わせた何らかの構造物の可能性がある。時期は不明。

b. 土坑（第17図、図版3、第8表）

2号土坑（第18図）

本跡は調査区の南東隅、F-2グリットに位置し、2号住居跡を切っている。平面形は円形、大きさは上面64×68cm、底面52×58cm、深さ18cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。内部に径20cm前後の礫が3個あるほか遺物は何も出土しなかった。

3号土坑（第18図）

本跡は調査区の南東隅、G-2グリットに位置し、一部調査区外に延びている。また、2号住居跡を切っている。平面形は円形、大きさは上面80cm、底面66cm、深さ35cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

4号土坑（第18・29図、図版14、第9表）

本跡は調査区の南東隅、G-3グリットに位置し、2号住居跡を切っている。平面形は円形、大きさは上面104×100cm、底面88×76cm、深さ38cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は暗灰褐色土。遺物は常滑焼・甕の破片が出土。

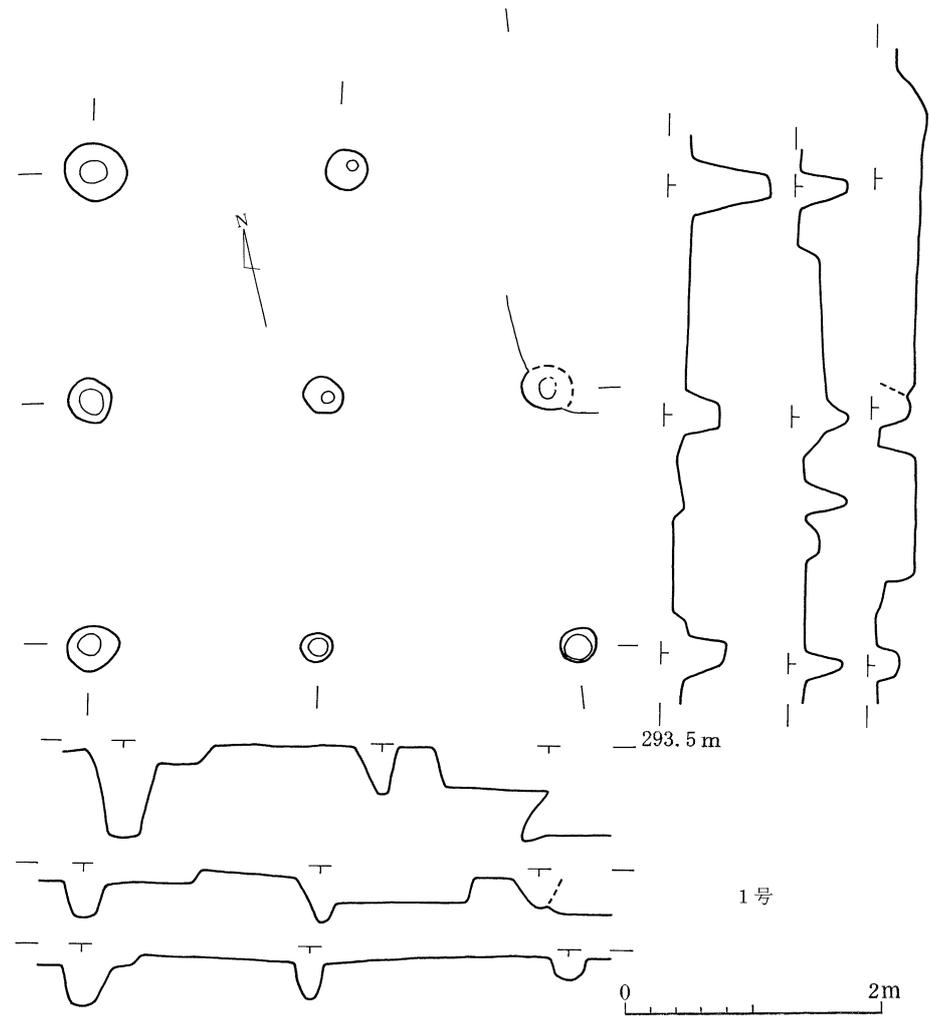


第14図 ピット位置図

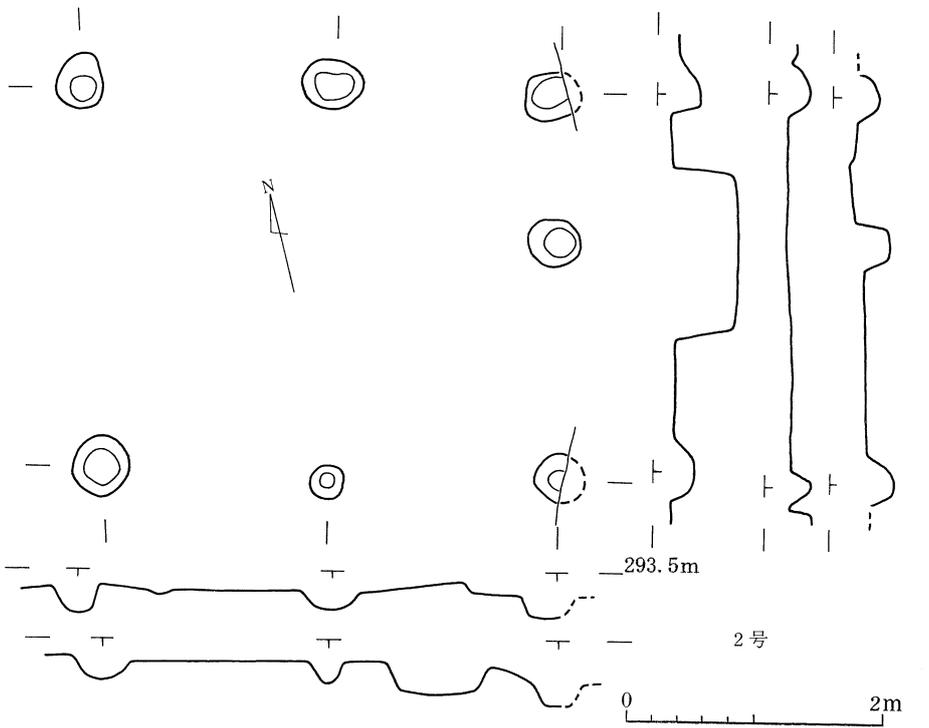
第6表 ピット観察表

番号	位置	埋 積 土		寸法 (cm)		備 考
		色 調	特 徴	径	深さ	
Pit1	F-2Gr	暗灰褐色土	締まる、径0.2~0.5mm白色粒少量含む	35	10	
Pit2	F-3Gr	暗灰褐色土	締まる、径0.2~0.5mm白色粒少量含む	25	3	
Pit3	G-3Gr	暗灰褐色土	やや暗い、ソフト、径0.5~1mm礫含む	36	11	
Pit4	G-3Gr	灰色土	ややソフト、径1mm砂少量含む	22	13	
Pit5	F-3Gr	灰色土	やや締まる、径0.5~1mm白色砂多く、5mm黒色土塊含む	33	15	
Pit6	F-3Gr	灰色土	やや締まる、径0.5~1mm白色砂多く含む	31	20	
Pit7	F-3Gr	暗灰色土	やや粘性、径0.5~1mm白色砂、炭化物少量含む	25	12.8	
Pit8	F-3Gr	茶褐色土	径2~3cm淡褐色土、黒色土塊多く含む	32	26	
Pit9	F-3Gr	灰色土	径0.2~0.3mm白色粒少量、炭化物少量含む	26	10	
Pit10	F-3Gr	灰色土	締まる、径2mm白色粒少量、径5mm礫少量含む	30	10	
Pit11	G-3Gr	灰色土	ややソフト、径0.2mm白色粒少量含む	19	13	
Pit12	G-3Gr	暗灰褐色土		35	30	
Pit13	G-4Gr	茶褐色土	ソフト、淡褐色土多く含む	50	30	
Pit14	G-4Gr	淡褐色土	ソフト、茶褐色土塊多く含む	20	13	
Pit15	G-2Gr	暗灰褐色土	締まる、径0.3~0.4mm白色粒多く含む	16	7.9	
Pit16	G-2Gr	暗灰褐色土	径0.2~0.3mm白色粒少量含む	19	15.9	
Pit17	F-3Gr	暗灰褐色土	径0.2~0.3mm白色粒微量含む	28	7	
Pit18	G-4Gr	暗茶褐色土	径0.2~0.3mm白色粒少量含む	18	7	
Pit19	G-4Gr	灰褐色土	0.3~1mm白色粒多く、炭化物若干含む	40	16	
Pit20	F-4Gr	灰褐色土	ソフト、白色粒少量、さび若干含む	30	18	
Pit21	F-3Gr	灰褐色土	やや締まる、白色粒少量含む	20	10	
Pit22	G-3Gr	暗灰褐色土	ソフト、白色粒、炭化物若干含む	22	9	
Pit23	F-3Gr	暗灰褐色土	やや締まる、白色粒少量含む	21	13	
Pit24	F-3Gr	暗灰褐色土	やや締まる、白色粒微量含む	25	11	
Pit25	F-4Gr	暗灰褐色土	やや粘性、白色粒少量、淡褐色土塊少量含む	23	13	
Pit26	F-4Gr	暗灰褐色土	締まる、径0.5mm白色粒少量、炭化物少量含む	48	14	
Pit27	F-4Gr	灰褐色土	締まりなし、白色粒少量含む	25	10	
Pit28	G-3Gr	灰褐色土	締まりなし、径0.3~1mm白色粒少量含む	22	17	
Pit29	A-2Gr	暗灰褐色土	粘性大、径1~3mm礫少量含む、サビ少量	30	18	
Pit30	A-2Gr	暗灰褐色土	粘性強、径1~3mm礫少量、サビ少量	30	12	
Pit31	B-2Gr	暗灰褐色土	粘性やや強い、径1~3mm礫少量	30	11	
Pit32	B-2Gr	暗灰褐色土	粘性やや強い、径2~5mm礫やや多い	30	23	
Pit33	B-2Gr	暗灰褐色土	粘性ややあり、径1~2mm白色粒少量	35	13.8	
Pit34	B-2Gr	暗灰褐色土	やや粘性、白色粒微量	34	9.8	
Pit35	C-2Gr	暗茶褐色土		40	19.8	
Pit36	B-2Gr	暗茶褐色土		48	14.4	
Pit37	B-2Gr	暗茶褐色土		30	13.8	
Pit38	G-6Gr	暗茶褐色土		35	38.5	
Pit39	G-6Gr	灰褐色土	締まりなし、茶褐色土混じる、粒子少量	45	36.5	
Pit40	F-5Gr	茶褐色土		36	22.8	
Pit41	G-7Gr	茶褐色土	径1cm淡褐色土塊、白色粒少量、炭化物含む	25	40.1	
Pit42	G-7Gr	灰褐色土	締まる、粒子少量、径1~1.5cm黄褐色土塊混じる	33	22.2	
Pit43	G-7Gr	灰褐色土・黄褐色土	締まる、1~1.5cm黄褐色土塊多く含む	40	35.1	
Pit44	G-4Gr	灰褐色土	締まりなし、白色粒少量、礫少量	27	36.5	
Pit45	G-5Gr	淡灰色砂質土	締まりなし	30	19.3	
Pit46	G-5Gr	灰褐色土	締まりなし、茶褐色土多く、淡黄褐色土塊少量含む	50	13.5	
Pit47	G-5Gr	灰褐色土	締まる、径1~2mm粒子少量、炭化物少量、黄褐色砂少量含む	33	25	
Pit48	G-5Gr	灰褐色土	やや締まる、茶褐色土、径1cm淡褐色土塊少量含む	30	20.6	
Pit49	G-5Gr	灰褐色土	やや締まる、淡褐色土、黒色土塊多く含む	28	17.5	
Pit50	G-5Gr	灰褐色土	やや締まる、径0.5~2cm淡褐色土塊多く含む	20	9.5	
Pit51	G-5Gr	灰褐色土	締まる、やや赤化、3cmの淡褐色土塊多く含む	36	21.1	
Pit52	F-4Gr	茶褐色土	やや締まる、白色粒少量、炭化物少量	40	18.5	
Pit53	G-6Gr	灰褐色土	やや締まる、径2~3cm淡褐色土塊を多く含む	30	27.8	
Pit54	G-6Gr	灰色土	やや締まる、粒子若干、錆が多い。	32	37.4	かわらけ2枚出土
Pit55	G-6Gr	灰褐色土	締まりなし、径1~2mmの粒を含む砂が入る(6溝と同じ)	32	39	
Pit56	G-6Gr	灰色土	締まる、径2~3mm粗砂多量、炭化物少量含む	28	35.7	
Pit57	G-6Gr	灰色土		30	25.3	
Pit58	G-7Gr	褐色土	白色粒少量含む	33	20.6	
Pit59	G-7Gr	茶褐色土	締まる、径1~2cm黄褐色土、黒色土多く含む	35	30	
Pit60	G-6Gr	茶褐色土	ソフト、径1~2cm黄褐色土塊黒色土塊少量含む	46	59.9	
Pit61	G-6Gr	灰色土	やや粘性、径1~2cm黄褐色砂塊少量含む	50	30.2	
Pit62	G-6Gr	灰褐色土	ソフト、径2cm灰色粘質土少量、径0.5cm黄褐色砂少量含む	37	28.3	
Pit63	G-6Gr	灰褐色土	締まる、径0.5~1cm灰色塊多く、白色粒少量含む	40	57.4	
Pit64	H-8Gr	灰色土	ややソフト、締まりなし	20	15.5	
Pit65	H-8Gr	灰色土	締まりなし	23	14.6	
Pit66	G-8Gr	灰色土	締まりなし	27	9	
Pit67	G-8Gr	灰色土		18	19	
Pit68	G-8Gr	灰色土		28	12.9	
Pit69	G-9Gr	灰色土		25	11.6	
Pit70	G-9Gr	灰色土		23	12.9	

番号	位置	埋 積 土		寸法 (cm)		備 考
		色 調	特 徴	径	深さ	
Pit71	G-9Gr	灰色土	ソフト	22	8.1	
Pit72	H-9Gr	灰色土	やや粘性、粗砂やや多い	24	11.5	
Pit73	H-9Gr	灰褐色土	粗砂多い	17	7.8	
Pit74	F-6Gr	灰褐色土		38	29.7	
Pit75	H-9Gr	灰色土		28	29.1	
Pit76	H-9Gr	暗灰褐色土	締まる、白色粒少量含む	23	18.2	
Pit77	H-7Gr	褐色土		16	16.4	
Pit78	H-7Gr	灰褐色土		30	23.9	
Pit79	H-10Gr	褐色土		32	12	
Pit80	G-10Gr	灰色土	粗砂多い	22	15	
Pit81	G-10Gr	灰褐色土	やや締まる、粗砂多量に含む	34	24.9	
Pit82	H-10Gr	灰褐色土	締まる、粗砂少量、淡褐色土塊少量含む	25	9.3	
Pit83	H-9Gr	灰色土	径5mmの礫多く、径3cm黄褐色砂質土塊、炭化物若干含む	30	21	
Pit84	G-5Gr	灰褐色土	やや締まる、炭化物少量含む	38	18.2	
Pit85	H-10Gr	灰褐色土	灰黄褐色砂多量に含む	13	6.5	
Pit86	G-5Gr	灰色土	粘性	40	14.8	
Pit87	G-6Gr	灰色土	ソフト、粒子少ない	22	29	
Pit88	G-7Gr	灰褐色土	締まる、径2cm黄褐色砂質土塊少量含む	36	30.2	
Pit89	G-5Gr	灰色土	締まりなし、茶褐色土少量、炭化物若干、径2cm淡褐色土塊少量含む	38	23.6	
Pit90	G-5Gr	茶褐色土	締まりなし	38	19.9	
Pit91	G-5Gr	灰褐色土		38	20	
Pit92	G-6Gr	灰褐色土	やや締まる、径1~2cm黄褐色砂質土塊、炭化物少量含む	23	24.5	
Pit93	G-7Gr	暗灰褐色土	径1~2mmの白色粒多く含む	16	12.1	錢出土
Pit94	G-6Gr	茶褐色土	やや締まる、黄褐色砂質土多く含む	35	23.8	
Pit95	G-5Gr	灰褐色土	淡褐色土塊含む	28	18.5	
Pit96	H-10Gr	灰褐色土		25	8.8	
Pit97	H-10Gr	灰色土	やや粘性	32	9.2	
Pit98	H-11Gr	灰色土	やや粘性	23	16.1	
Pit99	H-11Gr	褐色土	淡褐色土塊多く、炭化物若干含む	30	18.9	
Pit100	H-11Gr	褐色土	灰色粘質土若干、炭化物若干含む	20	22.9	
Pit101	H-11Gr	褐色土	淡褐色土塊多く、炭化物少量含む	32	22.1	
Pit102	H-11Gr	褐色土	淡褐色土少量、炭化物若干含む	35	30.3	
Pit103	H-12Gr	褐色土		38	37.7	
Pit104	G-6Gr	灰褐色土	粗砂若干、淡褐色土少量含む	17	11.4	
Pit105	G-13Gr	褐色土		50	28	
Pit106	G-7Gr	灰褐色土	茶褐色土多く含む	20	4.6	
Pit107	G-7Gr	灰褐色土		19	5.2	
Pit108	G-7Gr	灰褐色土	径0.5~1cm灰褐色土塊含む	17	8.3	
Pit109	G-7Gr	灰褐色土	粒子若干	18	8.5	
Pit110	G-7Gr	灰褐色土	締まりなし	19	11.6	
Pit111	G-7Gr	灰褐色土		15	10.5	
Pit112	G-5Gr	灰褐色土		50	11.9	
Pit113	H-9Gr	灰褐色土	粗砂少量含む	18	8	
Pit114	H-9Gr	灰褐色土		20	67.4	
Pit115	H-9Gr	灰褐色土	粗砂多い、締まりなし	28	28.3	
Pit116	H-10Gr	褐色土		30	35.6	
Pit117	H-12Gr	灰褐色土		56	11.7	
Pit118	H-11Gr	褐色土		26	11.7	
Pit119	H-10Gr	褐色土		27	12.3	
Pit120	H-10Gr	暗褐色土		33	16	
Pit121	H-10Gr	暗褐色土		26	10.3	
Pit122	H-10Gr	暗褐色土		36	8.7	
Pit123	G-11Gr	暗褐色土		21	6.7	
Pit124	G-11Gr	暗褐色土		28	22.5	
Pit125	H-11Gr	暗褐色土		33	10.5	
Pit126	H-11Gr	暗褐色土		30	11.6	
Pit127	H-11Gr	暗褐色土		38	9.2	
Pit128	H-11Gr	暗褐色土		28	12.4	
Pit129	H-11Gr	暗褐色土		22	10.4	
Pit130	H-11Gr	暗褐色土		33	11	
Pit131	H-11Gr	褐色土		27	19.7	
Pit132	H-12Gr	褐色土		17	15.9	
Pit133	H-12Gr	暗褐色土		25	21.8	
Pit134	I-13Gr	暗褐色土		31	32.1	
Pit135	I-13Gr	暗褐色土		25	16.9	
Pit136	I-13Gr	暗褐色土		26	24.3	
Pit137	H-13Gr	灰褐色土		23	6.1	
Pit138	H-13Gr	灰褐色土		24	14.6	
Pit139	H-13Gr	灰褐色土		28	9.6	
Pit140	H-13Gr	灰褐色土		18	7.5	
Pit141	H-13Gr	灰褐色土		26	16.6	
Pit142	H-13Gr	灰褐色土		28	10	

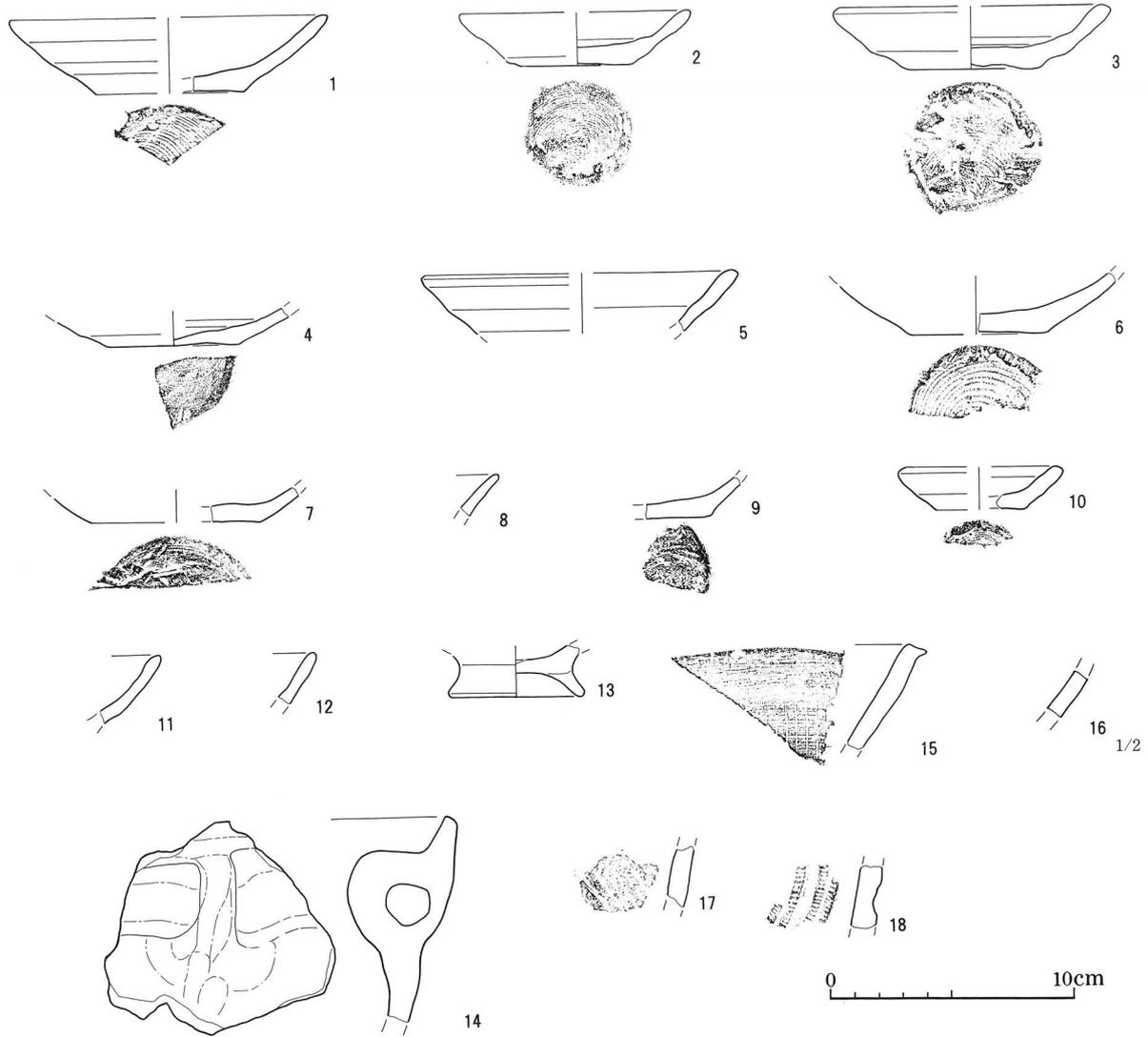


1号



2号

第15图 1号·2号掘立柱建物跡



第16図 ピット出土遺物

第7表 ピット出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	ピット15	土器・かわらけ	13	6.1	3.3	5YR7/6	良	微砂、石英、金雲母微量	底部糸切り	
2	ピット54	土器・かわらけ	9.4	4.7	2.3	7.5YR5~6/2	良	金雲母少量	底部糸切り	
3	ピット54	土器・かわらけ	10.9	5.5	2.7	5YR6/4	良	小礫若干、金雲母少量	底部糸切り	
4	ピット60	土器・かわらけ	—	5.5	—	5YR6/6	良	細砂、金雲母微量	底部糸切り	
5	ピット61	土器・かわらけ	12.8	—	—	5YR6/6	良	細砂、金雲母微量		
6	ピット102	土師器・坏	—	5.5	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
7	ピット15	土器・かわらけ	—	7.1	—	7.5YR8/6	良	微砂、金雲母微量	底部糸切り	
8	ピット102	土師器・坏	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
9	ピット105	土師器・坏	—	—	—	5YR7/6	良	微砂、金雲母微量	底部糸切り	
10	ピット42	土器・かわらけ	6.2	3.6	1.8	2.5YR6/6	良	金雲母少量	底部糸切り	
11	ピット43	土器・かわらけ	—	—	—	5YR7/6	良	石英・金雲母微量		
12	ピット43	土器・かわらけ	—	—	—	5YR7/4	良	金雲母微量		
13	ピット118	土師器・足高台皿	—	—	—	2.5YR3/6	良	金雲母多量		
14	ピット105	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR3/3	良	粗砂、金雲母微量	外面に煤付着	
15	ピット112	土器・摺鉢	—	—	—	10YR4/1	良	細砂、金雲母微量		
16	ピット51	美濃焼・灰釉	—	—	—					
17	ピット42	土師器・甕	—	—	—	N2/0	良	粗砂、石英		
18	ピット28	縄文	—	—	—	7.5YR5/4	良	石英砂少量		



第17图 土坑位置图

第8表 土坑観察表

番号	位置	平面形	種別	規模 (cm)	出土遺物	備考
1	F-5Gr	円形	—	80×64×74	深鉢	縄文中期前半 (五領ヶ台)
2	F-2Gr	円形	Ⅱ類	64×68×18		2号住居跡を切る。
3	G-2Gr	円形	Ⅱ類	80×35		2号住居跡を切る。
4	G-3Gr	円形	I b類	104×100×38	常滑・甕	2号住居跡を切る。
5	G-4Gr	円形	I b類	96×100×37	土師器片	
6	F-2Gr	円形	I b類	90×90×16		
7	G-6Gr	円形	I a類	100×100×28		9号土坑に切られる。底面に棺座と推定される川原石が認められる。
8	G-6Gr	円形	I a類	100×25		底面に川原石1個が認められる。
9	G-6Gr	不整形円形	I b類	110×100×23		7号土坑を切る。
10	G-6Gr	円形	I b類	104×100×16		
11	G-6・7Gr	円形	I b類	102×16		12号土坑、5号住居跡を切る。
12	G-7Gr	円形	I b類	(80)×11		
13	G-7Gr	円形	I b類	104×100×35	青磁片	4号溝に切られる。
14	G-7Gr	円形	I a類	116×110×25	土師器坏片	15号土坑を切る、底面に棺座と推定される4個の川原石が認められる。
15	G-7Gr	円形	I b類	□×6		14号土坑に切られる。
16	G-7Gr	円形	I b類	108×105×20	かわらけ片	
17	G-7Gr	円形	Ⅵ類	86×87×13		すり鉢状を呈する。
18	G-7Gr	円形	I b類	87×102×28		4号溝に切られる。
19	G-6Gr	円形	I a類	120×34		20、21号土坑を切る。底面に棺座と推定される川原石が2個認められる。
20	G-6Gr	円形	I b類	□×14		19号土坑に切られる。
21	G-6Gr	楕円形	I a類	104×144×26	美濃焼・鉄釉小坏	底面に棺座と推定される川原石が5個認められる。
22	G-6Gr	不整形円形	I a類	157×22		底面に棺座と推定される川原石が3個認められる。
23	G-6Gr	不整形円形	I b類	□×18	かわらけ1点	
24	G-6Gr	円形	I b類	□×22		8、22号土坑に切られる。
25	H-9Gr	不整形円形	Ⅱ類	65×77×46	かわらけ、瀬戸御皿	
26	G-6Gr	円形	I b類	□×34		40号土坑に切られる。
27	G-6Gr	楕円形	I b類	□×27		
28	H-11Gr	円形	Ⅵ類	80×16		
29	H-11・12Gr	不整形円形	I b類	90×78×13		75、76号土坑を切る。
30	H-11・12Gr	円形	I b類	100×18		
31	H-11Gr	不整形円形	Ⅱ類	70×65×18	土師器小皿、六道銭	底面に棺座と推定される川原石が認められる。
32	H-12Gr	円形	I b類	96×100×32	かわらけ片	
33	I-13Gr	円形	Ⅵ類	70×23		
34	H-12・13Gr	円形	I a類	95×104×32	かわらけ片	35号土坑を切る。底面に棺座と推定される4個の川原石が認められる。
35	H-12・13Gr	円形	I a類	100×18		底面に棺座と推定される2個の川原石が認められる。
36	H-14Gr	円形	I a類	113×130×16	六道銭	底面に棺座と推定される4個の川原石が認められる。
37	H-12Gr	円形	I b類	100×27	美濃焼・鉄釉天目碗片	71号土坑に切られる。
38	H・I-14Gr		I a類		かわらけ、内耳、播鉢	底面に棺座と推定される4個の川原石が認められる。
39	H-12Gr	楕円形	I b類	□×28	猿投灰釉陶器片	34、37号土坑に切られる。
40	G-6Gr	楕円形	I b類	□×20		26号土坑を切り、41号土坑に切られる。
41	G-7Gr	楕円形	I b類	□×22		40号土坑に切る。
42	G-6Gr		V類	80×35		袋状を呈する。
43	G-3Gr	隅丸長方形	Ⅲ類	140×56		
44	F・G-4Gr	隅丸長方形	Ⅲ類	66×100×24	かわらけ2枚、六道銭4枚	2号住居跡を切る。
45	F-4Gr	隅丸長方形	Ⅲ類	90×180×27		3号溝に切られる。
46	G-4Gr	隅丸長方形	Ⅲ類	130×35		攪乱に切られる。
47	G-5Gr	不整形長方形	Ⅲ類	84×110×23		
48	G-8Gr		Ⅵ類	165×18		49号土坑に切られる。
49	G・H-8Gr	隅丸方形	Ⅵ類	130×135×35	かわらけ	48、50号土坑を切る。
50	G・H-7・8Gr	楕円形	Ⅵ類	170×24	かわらけ、常滑・甕	49号土坑に切られる。
51	H-9Gr	楕円形	Ⅵ類	□×15		52号土坑に切られる。
52	H-9Gr	隅丸長方形	Ⅲ類	126×10		51号土坑を切る。
53	H-11Gr	隅丸長方形	Ⅲ類	100×25		
54	A-2Gr	隅丸長方形	Ⅲ類	98×122×42		1号溝を切る。
55	C-2Gr	隅丸方形	Ⅲ類	76×74×42	硯	1号溝を切る。
56	I-13Gr	隅丸長方形	Ⅵ類	135×100×60		79号土坑に切られる。
57	I-14Gr	円形	Ⅵ類	150×26		
58	I-14Gr	隅丸長方形	Ⅵ類	136×280×37		
59	G-5Gr	隅丸方形	Ⅵ類	136×140×50	青磁片	60号土坑を切る。
60	G-5Gr	隅丸方形	Ⅵ類	106×148×40		59号土坑に切られる。
61	G-4・5Gr	隅丸方形	Ⅵ類	196×230×12		攪乱、47号土坑に切られる。
62	G-5Gr	隅丸長方形	Ⅵ類	127×192×8		3号住居跡を切る。
63	H-13Gr	不整形円形	Ⅵ類	60×28		
64	G-9Gr	不整形円形	Ⅱ類	40×44×9	かわらけ	遺構確認面で遺物が出土しているため、上面が削平されたものと推定される。
65	H・I-12Gr	楕円形	I b類	125×24		
66	I-12Gr	不整形円形	Ⅵ類	80×78		
67	H・I-12Gr	円形	Ⅵ類	168×50	六道銭、	
68	I-12Gr	隅丸方形	Ⅵ類	170×82	青磁片	
69	H・I-13・14Gr	不整形円形	Ⅵ類	190×188×55	かわらけ片	
70	H・I-13Gr	不整形円形	I a類	170×153×30	六道銭、かわらけ	底面に3個の川原石が認められる。
71	H-12Gr	隅丸方形	Ⅵ類	224×48		1号溝と同種の埋積土
72	H-10Gr	隅丸方形	Ⅲ類	153×140×6	かわらけ片	74号土坑に切られる。
73	H-10Gr	隅丸方形	Ⅲ類	174×30		74号土坑を切る。
74	H-10Gr	隅丸長方形	Ⅳ類	128×315×18～28	かわらけ1枚	底面に円形の掘り込みが認められる。
75	H-11・12Gr	隅丸長方形	—	130×480×35	土師器坏片	71号土坑に切られる。
76	H-12Gr		Ⅵ類	□×7		
77	H-12Gr	楕円形	I b類	□×32		32号土坑に切られる。
78	G-6Gr	円形	I b類			22、24号土坑に切られる。
79	H・I-13・14Gr	隅丸方形	Ⅵ類	380×20	土師器坏	中央の埋積土下層に炭化物が集中し、底面が一部焼けていた。
80	D-2Gr	楕円形	—	230×34	土師器坏、足高台	1号溝に切られる。

5号土坑（第18・29図、図版3、第9表）

本跡はG-4グリットに位置し、南東約1mに43号土坑、西約1mに44号土坑が隣接する。平面形は円形、大きさは上面96×100cm、底面74×86cm、深さ37cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。63号土坑と近似している。遺物は土師器・甕の破片が出土。

6号土坑（第18図）

本跡はF-2グリットに位置し、2号住居跡、4号住居跡を切る。南東約70cmに2号土坑が隣接する。平面形は円形、大きさは上面90×90cm、底面78×78cm、深さ16cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

7号土坑（第18図、図版3）

本跡はG-6グリットに位置し、9号土坑に切られ、8号土坑、26号土坑を切っている。平面形は円形、大きさは上面100×100cm、底面88×84cm、深さ28cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。底面には20cm前後の礫が3個認められた。礫は平坦な面を上に向け、底面より約10cm上で、礫上面が水平になるように設置されていた。埋積土は灰褐色砂質土。遺物は何も出土しなかった。

8号土坑（第18図、図版3）

本跡はG-6グリットに位置し、7号土坑に切られる。平面形は円形、大きさは上面径100cm、底面径86cm、深さ25cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。底面に礫が1個認められた。埋積土は灰褐色砂質土。遺物は何も出土しなかった。

9号土坑（第18・29図、図版4・14、第9表）

本跡はG-6グリットに位置し、7号土坑を切っている。26・27号土坑とは隣接するが、切り合いは認められない。西約30cmに10号土坑が隣接する。平面形は不整円形、大きさは上面110×100cm、底面80×72cm、深さ23cmを測る。壁はやや外傾して立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は龍泉窯系・青磁碗片が出土した。

10号土坑（第19図、図版4）

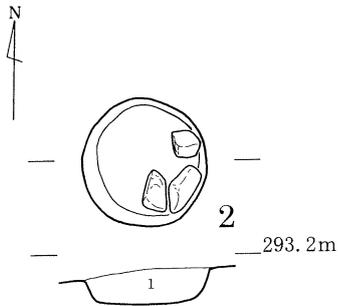
本跡はG-6グリットに位置し、東側に9号土坑、西側に11・12号土坑が隣接する。平面形は円形、大きさは上面104×100cm、底面86×80cm、深さ16cmを測る。壁はやや外傾し、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色砂質土。遺物は何も出土しなかった。

11号土坑（第19図）

本跡はG-6・7グリットに位置し、一部調査区外に延びている。また、12号土坑、5号住居跡を切っている。平面形は円形、大きさは上面102cm、底面86cm、深さ16cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色砂質土。遺物は何も出土しなかった。

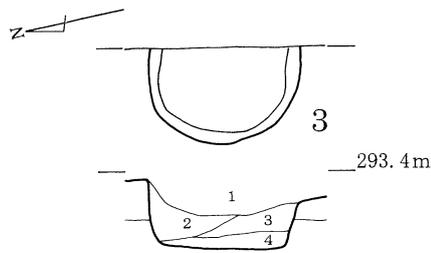
12号土坑（第19図）

本跡はG-7グリットに位置し、一部調査区外に延びている。また、11号土坑に切られている。北に13号土坑が隣接する。平面形は円形と推定され、大きさは径80cm、深さ11cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、床面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色砂質土。遺物は何も出土しなかった。



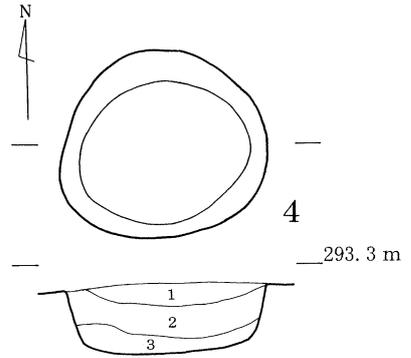
2号土坑

1. 灰褐色土 (ソフト、径2~4mm礫多く、径5mm淡褐色土塊、炭化物少量含む)



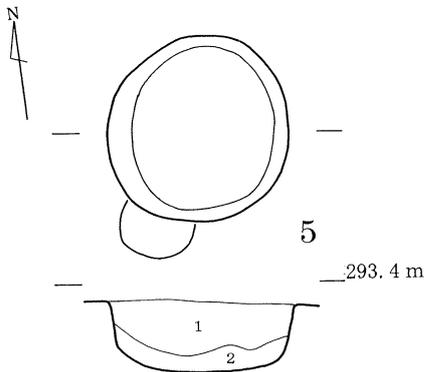
3号土坑

1. 灰褐色土 (締まる、径2~4mm白色粒多く、炭化物若干含む)
2. 灰褐色土 (ややソフト、炭化物若干、礫少量含む)
3. 灰褐色土 (淡黄褐色土塊多く、白色粒少量含む)
4. 暗灰褐色土 (締まり弱い、径2~3mm礫少量含む)



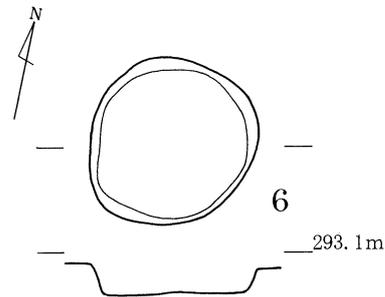
4号土坑

1. 暗灰褐色土 (径2~3mm礫少量、径5mm淡黄褐色土塊少量含む)
2. 暗灰褐色土 (締まりなし、径2~3mm礫少量、径3mm淡黄褐色土塊少量含む)
3. 暗灰褐色土 (締まりなし、径3~8mm淡黄褐色土塊多く、炭化物若干含む)



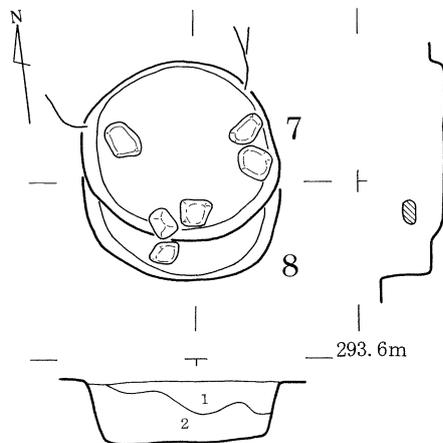
5号土坑

1. 灰褐色土 (締まりなし、径5~10mm黒色土、淡黄褐色土塊多量に含む)
2. 灰褐色土 (1層に比べ、塊が少ない)



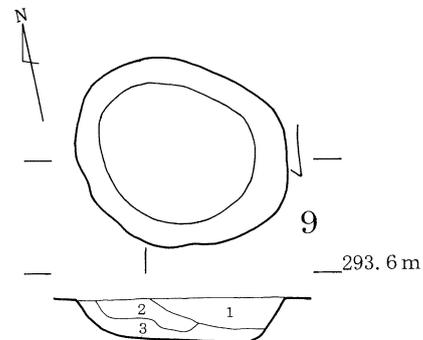
6号土坑

1. 灰褐色土 (締まりなし、径1~2mm礫多く、炭化物少量含む)



7号土坑

1. 灰褐色砂質土 (締まる、径1~1.5cm黄褐色砂質土塊多量に含む)
2. 灰褐色砂質土 (やや締まる、径1~3mm粗砂、径1~1.5cm黄褐色土塊少量含む)



9号土坑

1. 灰褐色砂質土 (1~3mm粗砂、径3cm黄褐色土塊少量含む)
2. 黄褐色砂質土 (締まる、灰褐色砂質土を含む)
3. 灰褐色砂質土 (締まる、粒子若干、黄褐色土塊少量含む)



第18図 土坑 (1)

13号土坑（第19・29図、図版4・14、第9表）

本跡はG-7グリットに位置し、4号溝に切られる。北に18号土坑、南に12号土坑が隣接する。平面形は円形、大きさは上面104×100cm、底面96×92cm、深さ35cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色砂質土。遺物は埋積土上位から龍泉窯系・青磁鎬蓮弁文碗の破片が出土した。また、土師器・坏、かわらけの破片が出土。

14号土坑（第19・29図、図版4、第9表）

本跡はG-7グリットに位置し、15号土坑を切っている。また、南に10号土坑、西に13号土坑、北に18号土坑が隣接する。平面形は円形、大きさは上面116×110cm、底面100×96cm、深さ25cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがる。底面はほぼ平坦、底面の中央から北東、南東、南西、北西方向に各1個の計4個、径10～20cmほどの礫が認められた。礫は平らな面を上にし、上面が底面より13～16cmほどの所で平らになるように設置してあった。埋積土は灰褐色土。遺物は土師器・小皿片が出土。

15号土坑（第19図）

本跡はG-7グリットに位置し、14号土坑に切られている。平面形は円形と推定できるが、大きさは計測不能である。深さ6cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。遺物は何も出土しなかった。

16号土坑（第19・29図、図版4、第9表）

本跡はG-7グリットに位置し、東に41号土坑、西に14号土坑、15号土坑、南に9号土坑が隣接する。平面形は円形、大きさは上面108×105cm、底面93×96cm、深さ20cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色砂質土。遺物はかわらけの破片が出土。

17号土坑（第19図）

本跡はG-7グリットに位置している。平面形は円形、大きさは上面86×87cm、底面41×35cm、深さ13cmを測る。壁は外傾し、底面は丸底。全体に断面はすり鉢状を呈する。埋積土は暗灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

18号土坑（第19図、図版4）

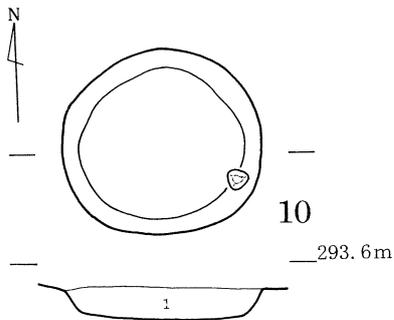
本跡はG-7グリットに位置し、4号溝に切られている。また、北西に1号集石遺構、南西に13号土坑が隣接する。平面形は円形で、大きさは上面87×102cm、底面80×90cm、深さ28cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色砂質土。遺物は何も出土しなかった。

19号土坑（第20図）

本跡はG-6グリットに位置し、若干、調査区外に延びている。また、20号土坑、21号土坑を切っている。平面形は円形、大きさは上面120cm、底面105cm、深さ34cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。底面の北・西壁際には25cmほどの礫が2個認められた。礫は平らな面を上にし、底面より7cmほどの所で、水平にしていた。埋積土は、灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

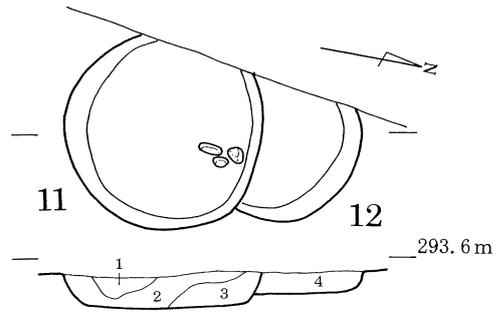
20号土坑（第20図）

本跡はG-6グリットに位置し、19号土坑に切られている。平面形は円形と推定されるが、平面の大きさは計測不能。深さ14cmを測る。壁は垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。



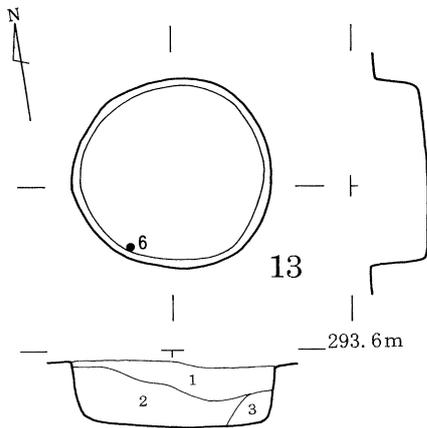
10号土坑

1. 灰褐色砂質土 (締まる、1~3mm粗砂多く、5~10mm黄褐色砂質土塊少量含む)



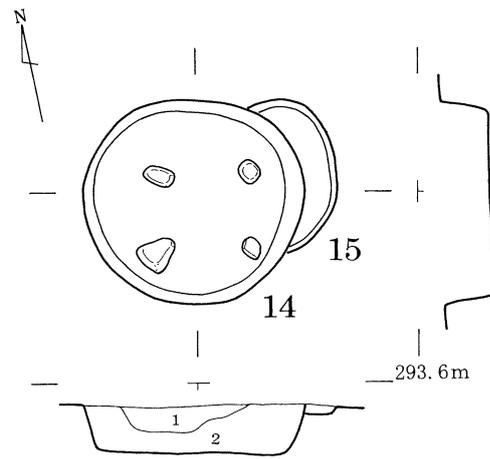
11・12号土坑

1. 黄褐色砂質土 (やや締まる、灰褐色砂質土少量含む)
2. 灰褐色砂質土 (締まる、径5mm黒色土塊、径1~2mm粗砂少量含む)
3. 灰褐色砂質土 (締まりなし、粗砂少量含む)
4. 灰褐色砂質土 (締まりなし、やや暗い、粗砂若干含む)



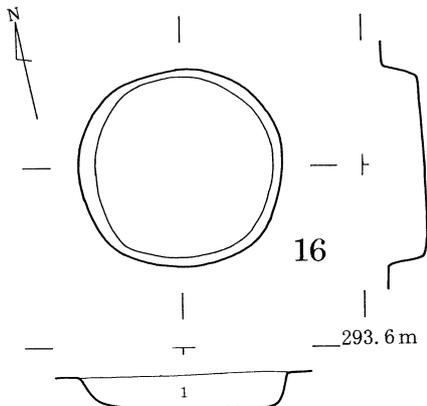
13号土坑

1. 灰褐色砂質土 (締まる、径1~3mm粗砂多く含む)
2. 灰褐色砂質土 (やや締まる、径1~3mm粗砂少量含む、サビ痕多い)
3. 灰褐色砂質土 (締まりなし、径1~3mm粗砂少量、黄褐色砂多く含む)



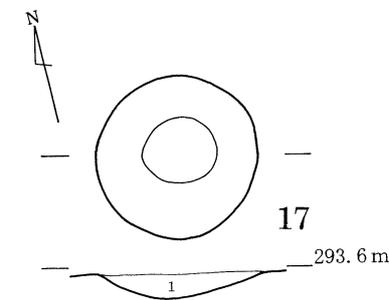
14号土坑

1. 灰褐色砂質土 (締まりなし、径1~3mm粗砂若干、黄褐色土砂多く含む)
2. 灰褐色砂質土 (やや粘性、径1~3mm粗砂、炭化物若干含む)



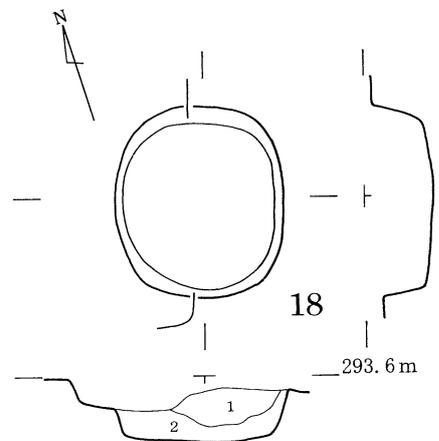
16号土坑

1. 灰褐色砂質土 (締まりなし、径1~3mm粗砂少量、径1~2cm黄褐色土塊多く、炭化物若干含む)



17号土坑

1. 暗灰褐色土 (締まる、粗砂少量、径3~4cm黄褐色土塊多く含む)



18号土坑

1. 灰褐色砂質土 (やや締まる、径1~2cm淡褐色土塊を含む)
2. 灰褐色砂質土 (1層より淡褐色土多く、炭化物若干含む)

第19図 土坑 (2)



21号土坑（第20・29図、図版4・14、第9表）

本跡はG-6グリットに位置し、22号土坑を切り、19号土坑に切られる。平面形は楕円形、大きさは上面104×144cm、底面95×133cm、深さ26cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。底面中央と四方に20～25cmほどの礫が5個認められた。礫は平らな面を上に、底面より7cmほどのところで水平になるように据えてあった。埋積土は灰褐色土。第2層が礫と同じ層に対応する。遺物は中央、南西よりの底面上より美濃焼・鉄釉小坏片が1点出土した。時期は16世紀後半と推定される。

22号土坑（第20・29図、図版4、第9表）

本跡はG-6グリットに位置し、21号土坑に切られ、23号土坑を切っている。平面形は不整形円形、大きさは上面157cm、深さ22cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。底面には東壁際、南壁際、北壁際の三方に20cmほどの礫が3個認められた。礫は平らな面を上に、底面より5cmほど上位で礫の上面が水平になるようにして設置してあった。埋積土は灰褐色土。第5層が礫と同じレベルに対応する。遺物はかわらけ片、土師器・坏、縄文・五領ヶ台式の破片が出土した。

23号土坑（第20・29図、図版4・12、第9表）

本跡はG-6グリットに位置し、22号土坑に切られている。平面形は不整形円形、平面の大きさは計測不能。深さ18cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は試掘調査でかわらけが出土している。

24号土坑（第20図）

本跡はH-6グリットに位置している。遺構は周囲の22号土坑、8号土坑などを調査した後確認した。その為遺構の外周はほとんどが切られ、遺存状態が悪かった。また、南壁に78号土坑がある。平面形は周囲のものから判断して、円形と推定される。大きさは平面規模が計測不能、深さは22cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は淡褐色土。遺物は何も出土しなかった。

25号土坑（第20・29図、図版4・14、第9表）

本跡はH-9グリットに位置し、東に52号土坑が隣接する。平面形は不整形円形、大きさは上面65×77cm、底面48×53cm、深さ46cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物はかわらけ片、瀬戸灰釉卸皿片が出土した。時期は15世紀代と推定される。

26号土坑（第22図）

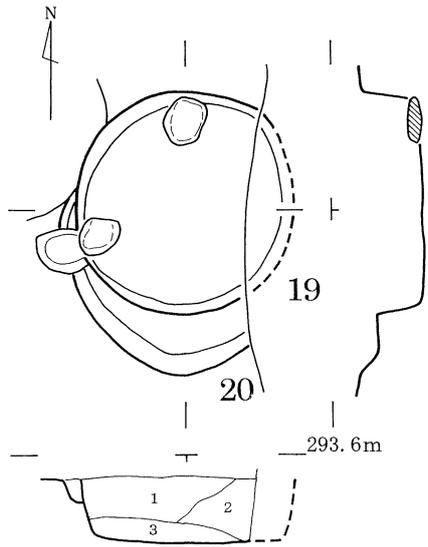
本跡はG-6グリットに位置し、東側調査区外に延び、27号、40号土坑に切られている。平面形は円形と推定される。深さは34cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は茶褐色土。遺物は何も出土しなかった。

27号土坑（第22図）

本跡はG-6グリットに位置し、26号土坑を切り、攪乱に切られている。東側調査区壁面の土層観察で確認し、平面形を確認することはできなかった。深さは27cmを測る。底面はほぼ平坦。埋積土は茶褐色土。遺物は何も出土しなかった。

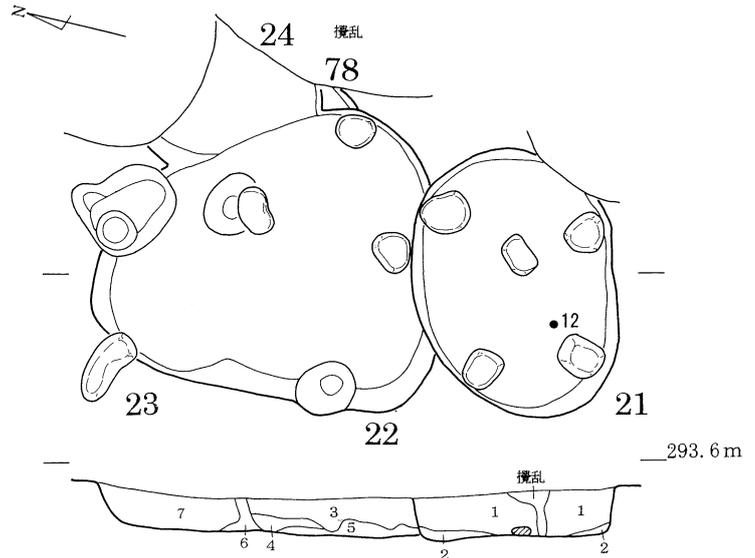
28号土坑（第20図）

本跡はH-11グリットに位置し、東に53号土坑が隣接している。平面形は円形と推定され、大きさは上面80



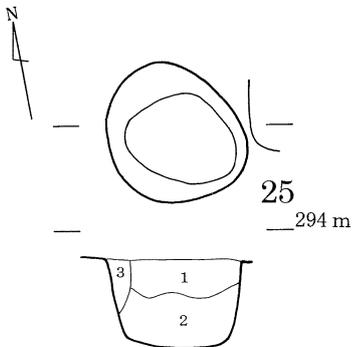
19号土坑

1. 灰褐色土 (締まる、径1 cm 淡褐色土塊、炭化物多く含む、サビ痕で赤化)
2. 灰褐色土 (締まる、1層に比べ炭化物が少ない)
3. 灰褐色土 (締まる、1層より淡褐色土塊少ない)



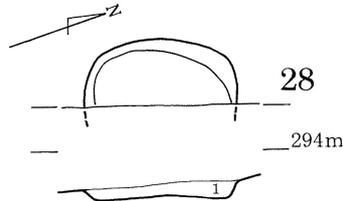
21・22・23号土坑

1. 灰褐色土 (締まる、径1~2 cm 淡褐色土塊、茶褐色土塊多く、炭化物少量含む)
2. 灰褐色土 (締まる、淡褐色土塊多く含む、粘り床か)
3. 灰褐色土 (締まる、径1~2 cm 淡褐色土塊少量、茶褐色土塊多量に含む)
4. 灰褐色土 (3層より淡褐色土塊多く含む)
5. 淡褐色土 (やや締まる、茶褐色土塊多く含む)
6. 淡褐色土 (ややソフト、サビ痕含む)
7. 灰褐色土 (やや締まる、径1~2 cm 灰褐色土塊、黄色土塊多量、黒色土塊若干含む)



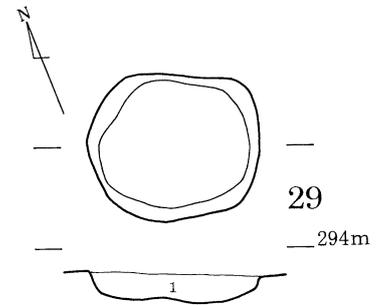
25号土坑

1. 灰褐色土 (締まる、礫多量、サビ痕多く含む)
2. 灰褐色土 (締まる、礫多量、黄褐色砂質土多く含む)
3. 灰褐色土 (締まる、サビ痕多量に含む)



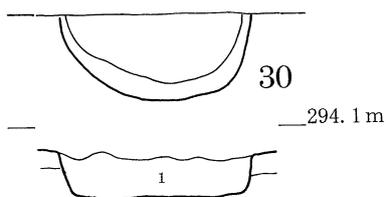
28号土坑

1. 灰褐色土 (締まる、径0.5~1 cm 淡灰砂質土塊少量、炭化物微量含む)



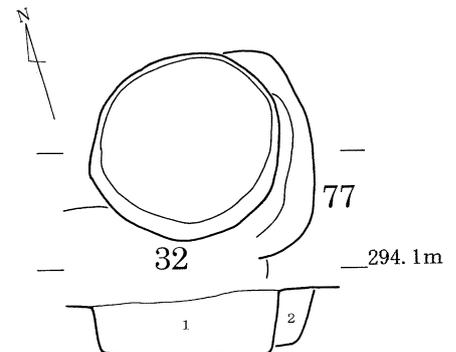
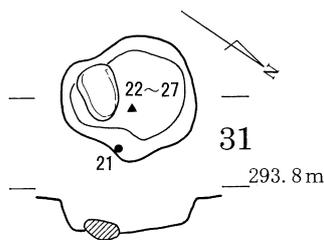
29号土坑

1. 灰褐色土 (締まる、径1 cm 黒色土、灰色微砂塊多く含む)



30号土坑

1. 灰褐色土 (締まりなし、径2~3 mmの粗砂を多く、炭化物若干含む)



32号土坑

1. 灰褐色土 (やや締まる、サビ痕多い、径1~2 mm粗砂少量、径1~2 cm 淡褐色土塊若干含む)

第20図 土坑 (3)



cm、底面72cm、深さ16cmを測る。壁は外傾して立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

29号土坑（第20・29図、第9表）

本跡はH-11・12グリットに位置し、75号土坑、76号土坑を切っている。平面形は不整円形、大きさは上面90×78cm、底面80×68cm、深さ13cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は土師器小皿（20）の破片が出土しているが、埋積土に混入したものと推定される。

30号土坑（第20図）

本跡はH-11・12グリットに位置し、東側調査区外に延びている。また、西に75号土坑が隣接する。平面形は円形と推定され、大きさは上面100cm、底面92cm、深さ18cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

31号土坑（第20・29図、図版5・15、第9・24表）

本跡はH-11グリットに位置している。平面形は不整円形、大きさは上面70×65cm、底面60×40cm、深さ18cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。底面の東寄りに28cmほどの礫が、平坦な面を上にして認められた。遺物の出土状況は遺構確認面の東壁際より土師器小皿（21）が逆位で出土し、土坑底面より六道銭6枚（22～27）が出土した。六道銭の出土により本土坑は土壙墓と推定される。しかし、土師器小皿の時期は本調査区で確認した土壙墓のいずれの時期とも符合しないため、出土位置から考えて本土坑に伴わないものと考えられる。

32号土坑（第20・26・29図、第9表）

本跡はH-12グリットに位置し、75号土坑、77号土坑を切っている。平面形は円形、大きさは上面96×100cm、底面86×88cm、深さ32cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は土師器小皿、かわらけ片が出土した。

33号土坑（第21図）

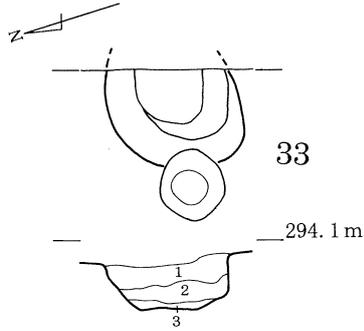
本跡はI-13グリットに位置し、東側調査区外に延びている。また、西側は掘り込みと重複している。平面形は円形と推定され、大きさは上面70cm、底面48cm、深さ23cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。また、遺構は砂礫層を掘り込んでいるため、底面上に黄褐色砂質土を埋めた厚さ4cmの貼り床状のものが認められた。埋積土は茶褐色土。遺物は何も出土しなかった。

34号土坑（第21・29図、図版5・12、第9表）

本跡はH-12・13グリットに位置し、35号土坑、39号土坑を切っている。平面形は円形、大きさは上面95×104cm、底面77×90cm、深さ32cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。底面の北東・南東・南西・北西方向に径17×30cmほどの礫が平らな面を上にして認められた。平らな面は遺構の底面から10cmを測り、ほぼ水平に設置されていた。埋積土は灰褐色土。遺物はかわらけ片が出土した。

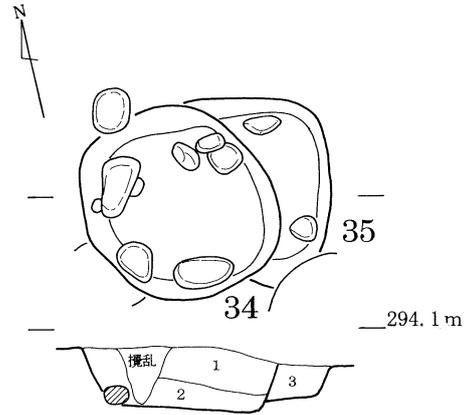
35号土坑（第21図、図版5）

本跡はH-12・13グリットに位置し、34号土坑に切られている。平面形は円形と推定され、大きさは上面100cm、底面78cm、深さ18cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。底面には北東・南東に径10～14cmの礫が平らな面を上にして認められた。平らな面は遺構の底面より13cmほどを測り、ほぼ水平に設



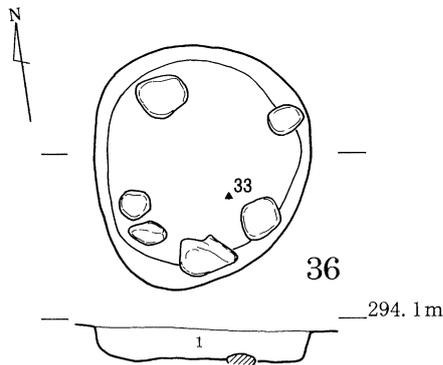
33号土坑

1. 茶褐色土 (縮まりなし、径0.5mmの黄褐色砂質土塊、径1~1.5cmの礫若干含む)
2. 茶褐色土 (縮まりなし、径1cm黄褐色土塊多く、炭化物若干含む)
3. 黄褐色砂質土 (貼り床)



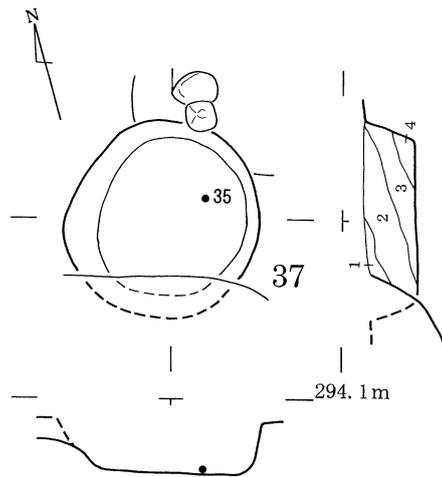
34・35号土坑

1. 灰褐色土 (縮まる、径1cm淡褐色土塊、粗砂少量含む)
2. 灰褐色土 (縮まる、径2~3mm粗砂多く、炭化物若干含む)
3. 灰褐色土 (やや縮まる、径2~3cm淡褐色土塊、炭化物若干含む)
4. 灰褐色土 (縮まりなし、やや淡い、粒子少ない)



36号土坑

1. 暗灰褐色土 (縮まる、径2~3mm粗砂少量、炭化物若干含む)

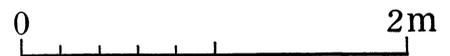


37号土坑

1. 灰褐色土 (縮まる、径2~3mm粗砂炭化物若干含む)
2. 灰褐色土 (縮まる、径1~2mm粗砂少量、径2~3cm礫若干、径1cm灰色土、淡黄色土塊、炭化物多く含む)
3. 灰褐色土 (やや縮まる、径1~2mm粗砂少量、灰色土、黄色土塊、炭化物少量含む)
4. 灰褐色土 (やや縮まる、径3~4cm黄色土塊多く、炭化物少量含む)



38



第21図 土坑 (4)

置されていた。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

36号土坑（第21・29図、図版5・15、第9・24表）

本跡はH-14グリットに位置し、北に38号土坑が隣接している。平面形は円形、大きさは上面113×130cm、底面100×108cm、深さ16cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。底面の北東・南東・南西・北西には径15～25cmの礫が平らな面を上にして認められた。礫の平らな面は遺構の底面より約7cm上で水平になるように設置されていた。埋積土は暗灰褐色土である。遺物の出土状況は中央やや南よりの埋積土中位から銭が1枚（33）出土した。

37号土坑（第21・29図、図版14、第9表）

本跡はH-12グリットに位置し、71号土坑に切られている。平面形は円形と推定され、大きさは上面100cm、底面75cm、深さ27cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土である。遺物の出土状況は中央部底面より美濃焼・鉄釉天目茶碗の破片が1点出土した。

38号土坑（第21・29図、第9表）

本跡は調査区北端のH・I-14グリットに位置している。南に36号土坑が隣接している。この周辺は耕作が深く、確認面上で礫層が露出していた。その為、本遺構の周辺には礫が多量に集中している。その中でも、比較的大きく、上面が平らな礫が数個確認された。他の遺構の状況から、これらの礫が遺構に伴うものとし、遺構はすでに削平されたものと考えられる。遺物はかわらけ、内耳土器、播鉢が出土した。

39号土坑（第22・29図、第9表）

本跡はH-12グリットに位置し、34号土坑、37号土坑に切られている。遺構はこれらの遺構の調査を行った後確認されたため、形状を把握しきれないが、平面形は円形と推定される。深さは28cmを測る。埋積土は灰褐色土である。遺物は灰釉陶器片が出土。確認面上で礫が確認されている。

40号土坑（第22図）

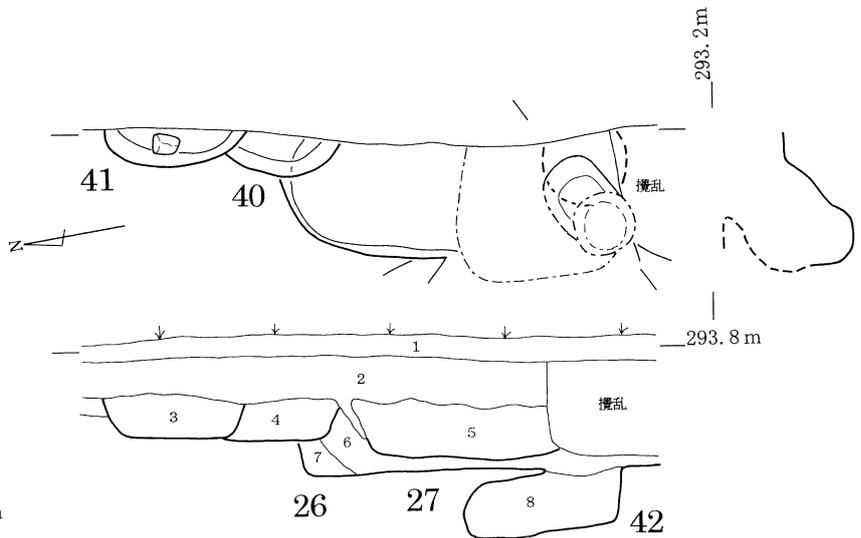
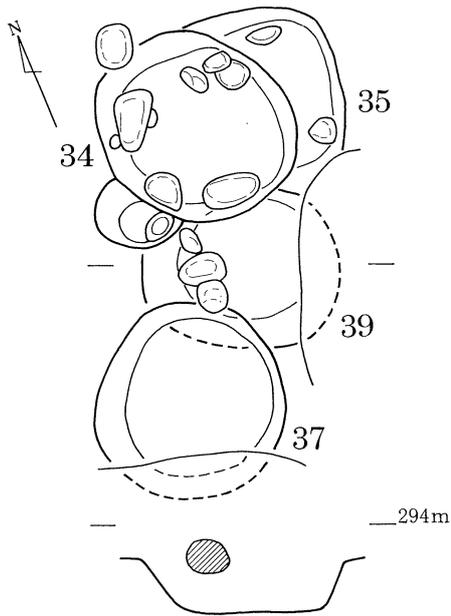
本跡はG-6グリットに位置し、東側が調査区外に延びている。また、41号土坑に切られ、27号土坑を切っている。平面形は円形と推定されるが、平面の大きさは計測不能である。深さは20cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は茶褐色土。遺物は何も出土しなかった。

41号土坑（第22図）

本跡はG-7グリットに位置し、東側が調査区外に延びている。また、40号土坑を切っている。平面形は円形と推定される。大きさは上面72cm以上、底面38cm以上、深さ22cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

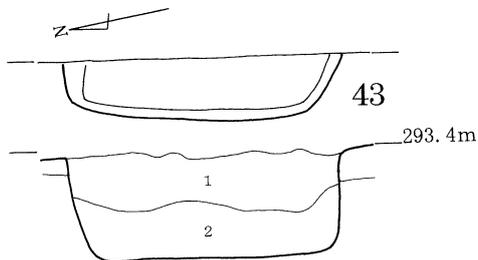
42号土坑（第22・29図、図版5、第9表）

本跡はG-6グリットに位置し、東側が調査区外に延びている。また、7号土坑、26号土坑、攪乱に切られている。その為、確認面での平面形、大きさ共に不明といわざるを得ない。底面の形状は隅丸方形と推定され、大きさは80cm、深さは27号土坑の底面からであるが35cmを測る。壁は南壁の一部がほぼ垂直に立ちあがり、西壁から北壁にかけてオーバーハングする。底面は南から北に向かって傾斜する。底面の南壁際には大きさ径35×55cm、深さ36cmの小穴が1口認められる。埋積土は淡茶褐色土。本跡は確認面で遺構を認めることはできなかったが、南よりに出入り口状の小穴を持つ、袋状土坑である。その形状から、地下式坑と考えられる。遺



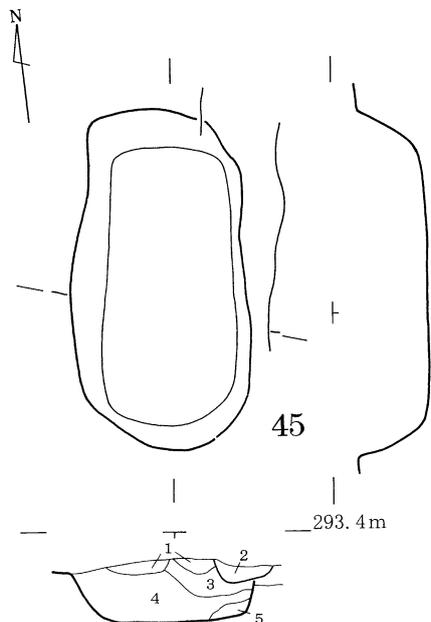
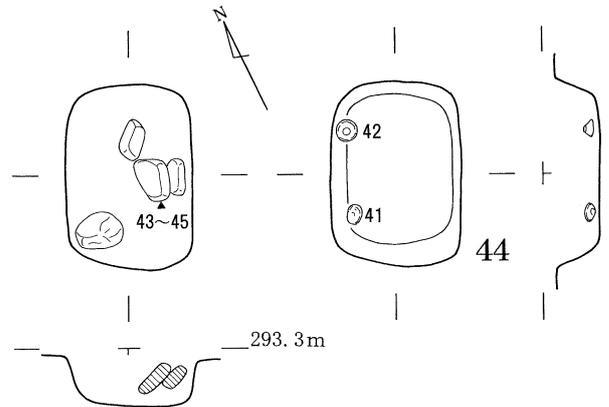
26・27・40・41・42号土坑

1. 表土 (黒色土)
2. 灰色土 (鉄分のため赤化)
3. 灰褐色土 (縮まりなし、5mmの黒色土塊、礫多く含む)
4. 茶褐色土 (淡褐色土塊多く、炭化物若干含む)
5. 茶褐色土 (黒色土塊、淡褐色土塊多く含む)
6. 茶褐色土 (径2~3cm淡褐色土塊多く含む)
7. 茶褐色土 (淡褐色土塊多く含む)
8. 淡茶褐色土 (径5mm茶褐色土、淡褐色土塊多く含む)



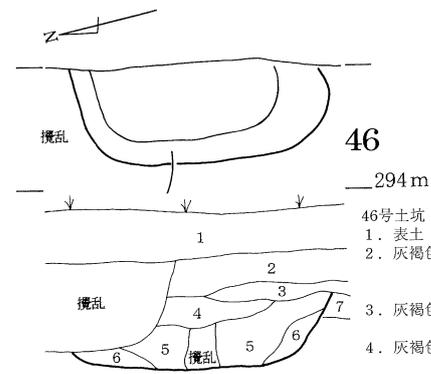
43号土坑

1. 淡褐色土 (縮まる、径5~10mm黒色土塊、褐色土多く含む)
2. 淡褐色土 (1層より径5~10mm黒色土塊少ない)



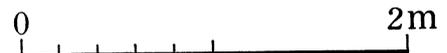
45号土坑

1. 暗茶褐色土 (縮まる、径1~3mm粗砂多く含む)
2. 暗茶褐色土 (縮まる、径1~3mm粗砂少量、径1~2cm淡褐色土塊多く含む、3号溝の埋積土)
3. 茶褐色土 (縮まる、径1~2mm白色粒少量、径1~2cm淡褐色土塊、サビ痕多く含む)
4. 茶褐色土 (やや縮まる、径1~2mm白色粒、炭化物少量、径1~2cm淡褐色土塊多く含む)
5. 茶褐色土 (やや縮まる、淡褐色土多く含む)



46号土坑

1. 表土
2. 灰褐色土 (耕作土、径1~3mm礫多量に含む、鉄分多量に含む、鉄分で赤化)
3. 灰褐色土 (径2~3mm礫少量含む、若干鉄分で赤化)
4. 灰褐色土 (径3~4mm礫少量含む、鉄分でやや赤化)
5. 茶褐色土 (縮まりなし、白色粒、黒色土、炭化物若干含む)
6. 茶褐色土 (縮まりなし、淡褐色土多く含む)



第22図 土坑 (5)

物は土師器坏片が出土した。

43号土坑（第22図）

本跡は調査区の南東隅、G-3グリットに位置し、一部調査区外に延びている。平面形は隅丸長方形と推定され、大きさは上面140×34cm以上、底面は126×26cm以上、深さ56cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は淡褐色土。遺物は何も出土しなかった。

44号土坑（第22・29図、図版5・12・15、第9・24表）

本跡はF・G-4グリットに位置し、2号住居跡を切る。西約20cmに45号土坑が隣接する。平面形は隅丸長方形、大きさは上面66×100cm、底面54×78cm、深さ24cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物の出土状況は埋積土の上位より六道銭（43～45）3枚、底面の西壁際よりかわらけが1枚（41）は正位、1枚（42）は逆位で出土した。六道銭は土坑の埋積土をふるいに掛けた結果、合わせて6枚となった。また、確認面付近から20cm前後の扁平な礫が4個出土した。本跡から骨片などは認められなかったが、六道銭、かわらけの出土から土壙墓と推定される。本跡の時期は15世紀と推定される。

45号土坑（第22・30図、図版5・15、第9表）

本跡はF-4グリット、44号土坑の西側に隣接し、2号住居跡を切り、3号溝に切られている。平面形は隅丸長方形、大きさは上面90×180cm、底面70×150cm、深さ27cmを測る。壁はやや外傾し、底面はほぼ平坦である。埋積土は茶褐色土。遺物は石鏃が出土したが、1号土坑が隣接していることから、流れ込みと推定される。

46号土坑（第22図）

本跡はG-4グリットに位置し、東側が調査区外に延びている。また、攪乱に切られている。平面形は隅丸長方形と推定される。大きさは長軸方向が上面130cm、底面93cm、深さ35cmを測る。主軸方向は、N-6°-E。壁はやや外傾して立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は茶褐色土。遺物は何も出土しなかった。

47号土坑（第23・30図、図版6、第9表）

本跡はG-5グリットに位置し、61号土坑、3号住居跡を切っている。平面形は不整形、大きさは上面84×110cm、底面65×95cm、深さ23cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は茶褐色土。遺物は土師器甕片が出土した。

48号土坑（第23図、図版6）

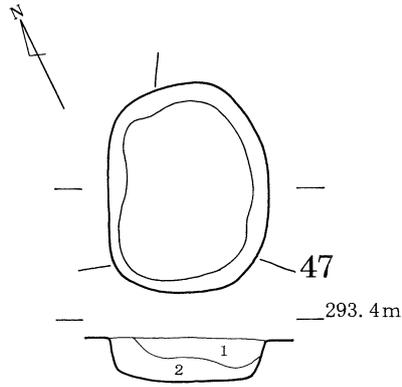
本跡はG-8グリットに位置し、49号土坑、4号溝に切られている。平面形は方形と推定され、大きさは上面165cm、深さ18cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

49号土坑（第23・30図、図版6）

本跡はG・H-8グリットに位置し、48号土坑、50号土坑を切っている。平面形は方形、大きさは上面130×135cm、底面103×105cm、深さ35cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、東壁の一部は自然石の側面を利用している。底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物はかわらけ片が出土。

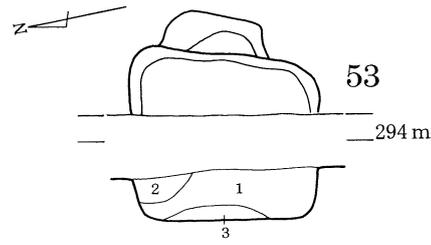
50号土坑（第23・30図、図版6・14、第9表）

本跡はG・H-7・8グリットに位置し、東側が調査区外に延びている。また、49号土坑に切られ、北壁の



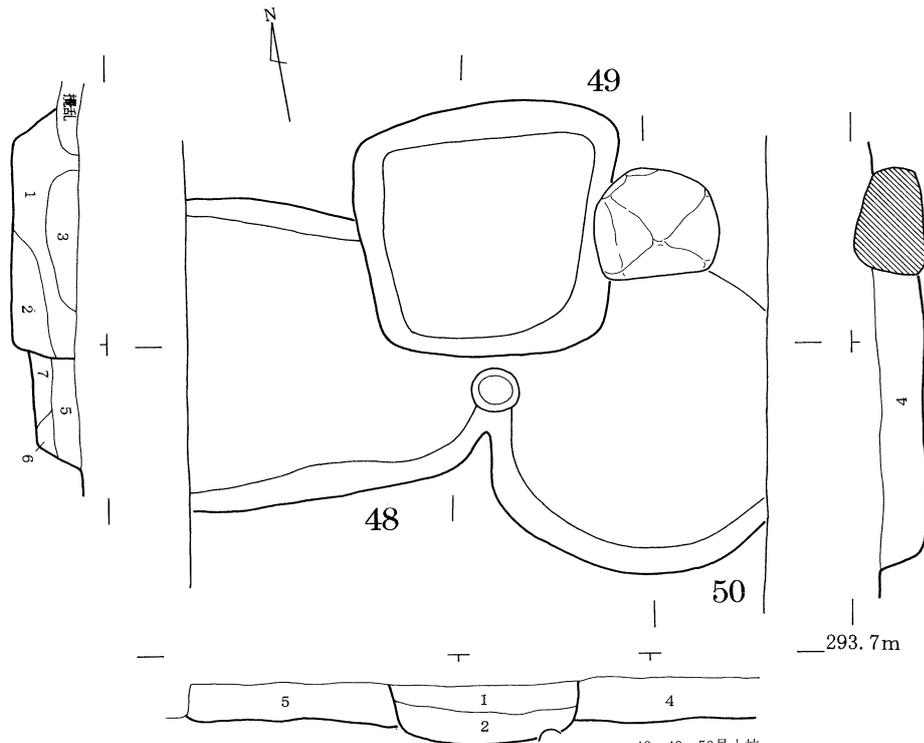
47号土坑

1. 茶褐色土 (縮まりなし、径1~2cm灰色土塊多く、炭化物若干含む)
2. 茶褐色土 (縮まりなし、径1~2cm灰色土塊少量、炭化物若干含む)



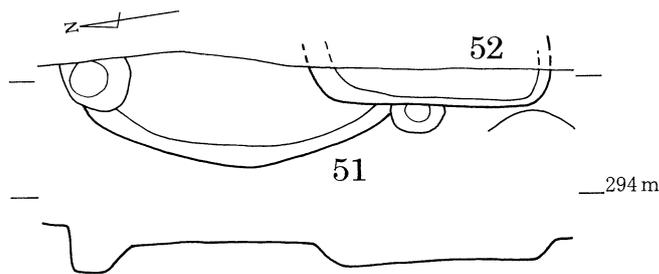
53号土坑

1. 灰褐色土 (縮まる、粗砂多量、径1cm淡褐色土塊多く、炭化物若干含む)
2. 灰褐色土 (縮まる、淡褐色土塊多く含む)
3. 灰褐色土 (1層より淡褐色土多く含む)



48・49・50号土坑

1. 灰褐色土 (やや縮まる、粗砂多く、径1~2cm黄褐色砂塊少量含む)
2. 灰褐色土 (やや縮まる、3cmほどの礫、粗砂多量、径1cmほどの黄褐色塊含む)
3. 灰褐色土 (縮まる、白色粒、炭化物少量、粘性灰色土塊多く含む)
4. 茶褐色土 (縮まる、粗砂少量、灰褐色土の赤化サビ痕含む)
5. 灰褐色土 (縮まる、白色粒、サビ痕多く含む)
6. 灰褐色土 (やや縮まる、黄褐色砂、黒色土含む)
7. 黄褐色土 (茶褐色土塊、灰褐色土塊少量含む)



51号土坑

1. 灰褐色土 (径2~5mm黄色粒多量に含む)

52号土坑

1. 灰色土 (粗砂多量に含む)



第23図 土坑 (6)

一部が攪乱に切られている。平面形は円形、大きさは上面170cm、底面145cm、深さ24cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、北壁の一部は自然石の側面を利用している。底面は平坦である。埋積土は茶褐色土。遺物はかわらけ片、常滑の甕片が出土。

51号土坑（第23図）

本跡はH-9グリットに位置し、東側の調査区外に延びている。また、52号土坑に切られている。平面形は楕円形と推定される。平面形の大きさは計測不能。深さは15cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

52号土坑（第23図）

本跡はH-9グリットに位置し、東側の調査区外に延びている。また、51号土坑を切っている。平面形は隅丸長方形と推定される。大きさは126cm、深さ10cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰色土。遺物は何も出土しなかった。

53号土坑（第23図）

本跡はH-11グリットに位置し、西に28号土坑が隣接する。平面形は隅丸長方形と推定され、大きさは上面100cm、底面88cm、深さ25cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

54号土坑（第24図）

本跡は調査区の南西隅、A-2グリットに位置し、一部調査区外に延びている。また、1号溝を切っている。平面形は隅丸方形、大きさは上面98×122cm、底面82×102cm、深さ42cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はやや南に傾斜する。埋積土は暗褐色土。遺物は何も出土しなかった。

55号土坑（第24・30図、図版6・15、第9表）

本跡は調査区の南西、C-2グリットに位置する。1号溝と重複し、切っているものと推測される。平面形は隅丸方形、大きさは上面76×74cm、底面62×60cm、深さ42cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土で54号土坑に近似する。遺物は硯の破片が出土。

56号土坑（第24・30図、図版14、第9表）

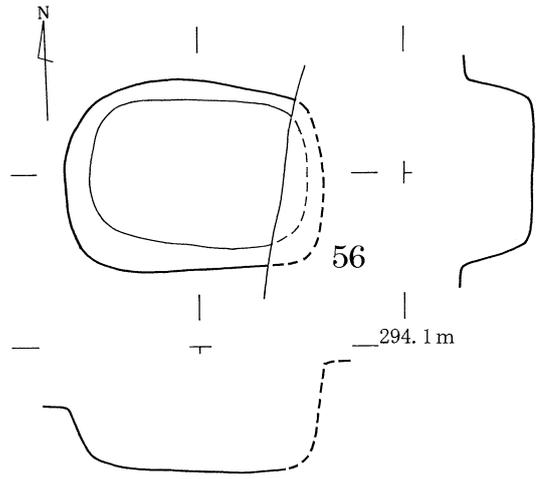
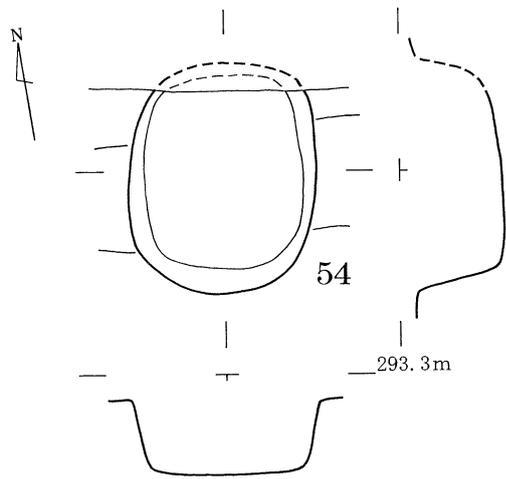
本跡はI-13グリットに位置し、79号土坑に切られ、東側調査区外に延びている。平面形は隅丸方形、大きさは上面135×100cm、底面112×78cm、深さは確認面から60cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は茶褐色土である。遺物は灰釉陶器、土師器小皿、かわらけの破片が出土。

57号土坑（第24図、図版6）

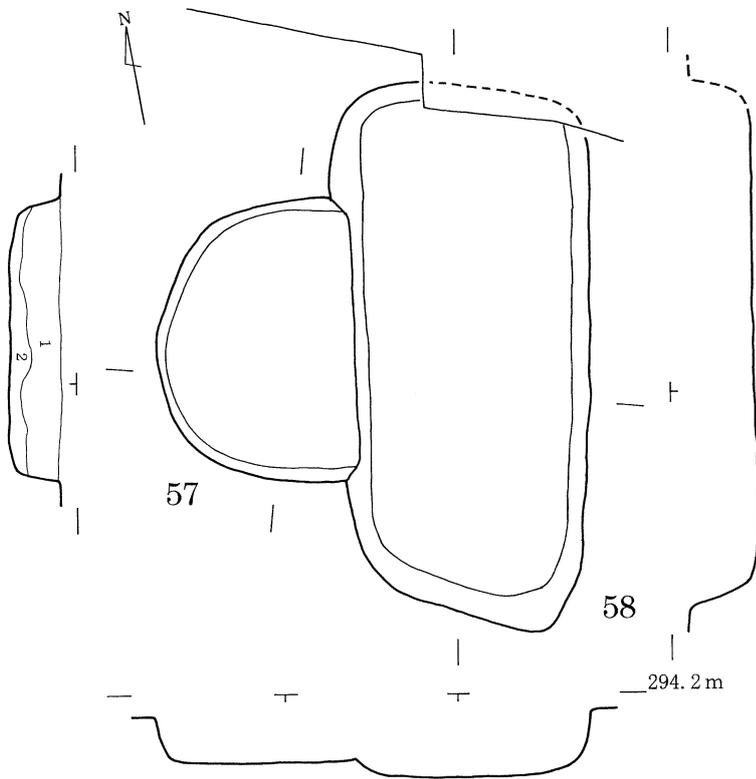
本跡は調査区の北端、I-14グリットに位置し、58号土坑を切っている。また、西に38号土坑が隣接している。平面形は円形、大きさは上面150cm、底面136cm、深さ26cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。

58号土坑（第24・30図、図版6・14、第9表）

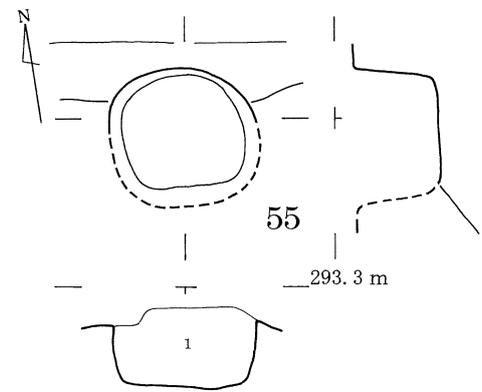
本跡は調査区の北端I-14グリットに位置し、57号土坑を切っている。平面形は隅丸長方形、大きさは上面で136×280cm、底面107×260cm、深さ37cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は



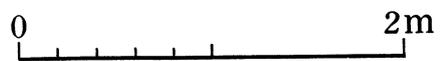
56号土坑
1. 茶褐色土 (径1~2cmの礫を少量、黄褐色土塊若干含む)



57号土坑
1. 灰褐色土 (縮まりなし、やや砂質、径5cmの礫を多く含む)
2. 灰褐色土 (1層より砂層を多く含む)



55号土坑
1. 灰褐色土 (縮まり弱い、径0.2~1mm白色粒少量、炭化物若干含む)



第24図 土坑 (7)

暗茶褐色土。遺物は常滑・播鉢の体部片が出土。

59号土坑（第25・30図、図版6・14、第9表）

本跡はG-5グリットに位置し、60号土坑を切っている。また、北に6号溝が隣接する。平面形は隅丸方形、大きさは上面136×140cm、底面120×126cm、深さ50cmを測る。主軸方向はN-10°-E。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は北東隅の埋積土上位から龍泉窯系・青磁盤片（60）が1点出土した。土坑はその形状から、方形竪穴とも考えられる。

60号土坑（第25・30図、図版6、第9表）

本跡はG-5グリットに位置し、59号土坑に切られる。平面形は隅丸方形、大きさは上面106×148cm、底面130×154cm、深さ40cmを測る。主軸方向はN-13°-E。壁は内傾し、一部袋状になっている。底面はほぼ平坦である。埋積土は淡褐色土。遺物は土師器足高台坏、内耳土器の破片が出土した。土坑はその形状から方形竪穴とも考えられる。

61号土坑（第25・30図、図版14、第9表）

本跡はG-4・5グリットに位置し、47号土坑と攪乱に切られている。平面形は隅丸方形と推定され、大きさは上面196×230cm、深さ12cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は白磁皿の破片が出土。遺構は調査区内に同様の遺構が認められないことから、時期は不明とする。

62号土坑（第25図、図版6）

本跡はG-5グリットに位置し、3号住居跡を切っている。平面形は隅丸長方形、大きさは上面127×192cm、底面は114×180cm、深さ8cmを測る。主軸方向はN-13°-E。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。遺構は調査区内に同様の遺構が認められないことから、時期は不明とする。

63号土坑（第25図）

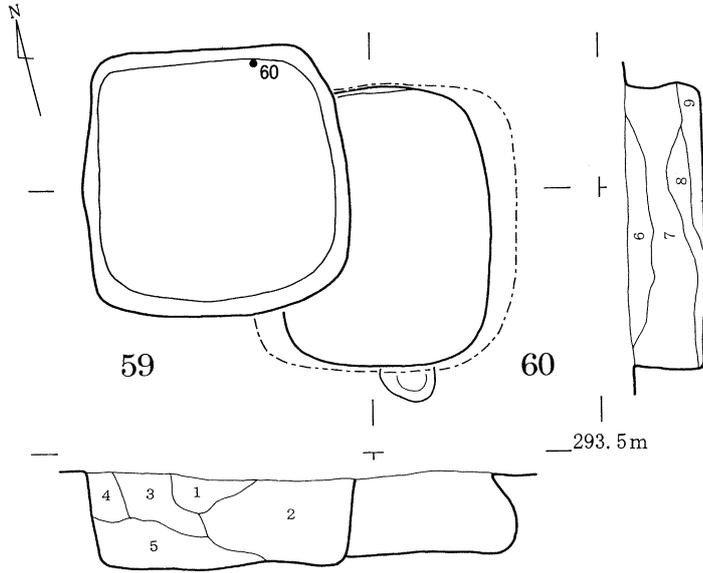
本跡はH-13グリットに位置し、北側を攪乱に切られている。平面形は不整楕円形、大きさは上面60×76cm以上、底面38×70cm以上、深さ28cmを測る。壁は外傾して立ちあがり、底面は丸底気味である。埋積土は茶褐色土。遺物は何も出土しなかった。埋積土上位に礫が多量に確認されたが、人為的なものとは認められない。

64号土坑（第25・30図、図版6・12、第9表）

本跡はG-9グリットに位置し、西に2号集石遺構が隣接する。平面形は不整円形、大きさは上面40×44cm、深さ9cmを測る。壁は外傾して立ちあがり、底面は平坦、概ねすり鉢状を呈している。埋積土は灰褐色土。遺物は遺構確認面でかわらけ（65）が正位で出土した。本跡は礫層で確認し、淡褐色土の地山は認められなかった。その為、遺構の確認状況は不鮮明であった。また、遺構の掘り込みも浅く、確認面で遺物が出土したことから、上面はすでに削平されたものと推定される。

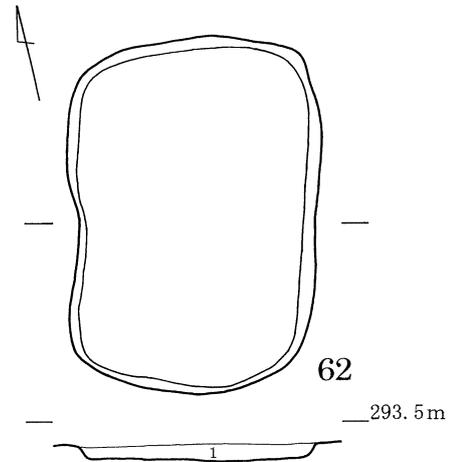
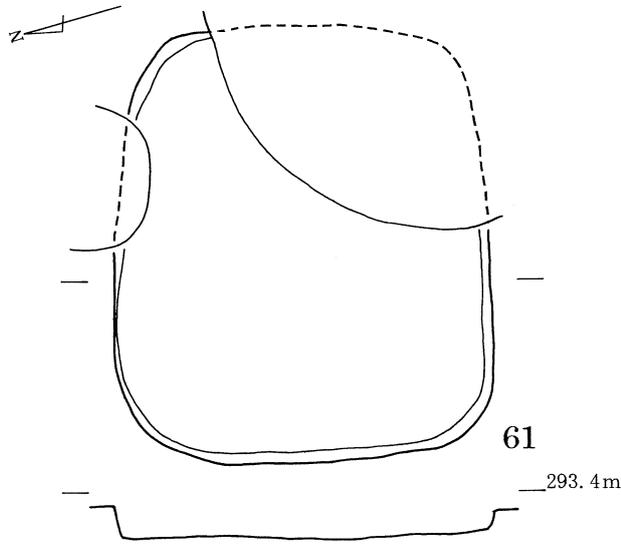
65号土坑（第26図、図版7）

本跡はH・I-12グリットに位置し、32号土坑に切られ66号土坑・67号土坑を切っている。平面形は円形、大きさは上面125cm、底面94cm、深さ24cmを測る。壁は外傾して立ちあがり、底面はやや丸底気味で、全体にすり鉢形を呈する。埋積土は灰色土である。遺物は何も出土しなかった。



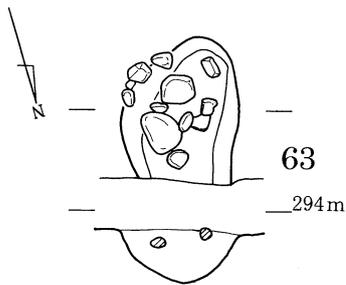
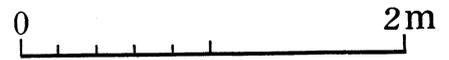
59・60号土坑

1. 灰褐色土 (締まりなし、粒子少ない、サビ痕多く赤化)
2. 灰褐色土 (締まりなし、径1cm程の灰色土塊多く含む)
3. 灰褐色土 (締まりなし、径1cm灰色土塊多く、黒色土塊少量含む)
4. 灰褐色土 (締まりなし、灰色土多く含む)
5. 灰褐色土 (締まりなし、黒色土多く含む)
6. 淡褐色土 (やや締まる、径2~3cm黒色土塊少量、粒子若干含む)
7. 淡褐色土 (やや締まる、径0.5~1cm灰色土、黒色土塊多く含む)
8. 淡褐色土 (やや締まる、径1~2cm黄褐色土、黒色土塊含む)
9. 淡褐色土 (やや締まる、黄褐色土、黒色土塊多量含む)



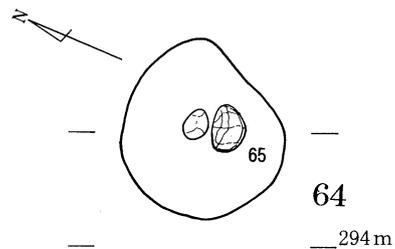
62号土坑

1. 灰褐色土 (締まりなし、径1~1.5cm淡褐色土多く含む、サビ痕で赤化)



63号土坑

1. 灰褐色土 (径3~5mm礫多く含む)



64号土坑

1. 茶褐色土 (砂質、粒子若干、炭化物少量含む)



第25図 土坑 (8)

66号土坑（第26・30図、図版7、第9表）

本跡はI-12グリットに位置し、遺構は65号土坑や67号土坑、68号土坑と共に平面を確認し掘り下げを行った。掘り下げ完了後の、調査区東側壁面の土層観察により、個別の遺構であることが判明した。遺構は東側調査区外に延び、65号土坑に切られている。平面形は不整形と推定され、大きさは上面80cm、底面61cm、深さ78cmである。壁はやや外傾して立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は茶褐色土である。遺物は弥生土器の壺の破片が出土した。

67号土坑（第26・30図、図版7・15、第9・24表）

本跡はH・I-12グリットに位置し、65号土坑・68号土坑に切られている。平面形は円形と推定され、上面168cm、底面163cm、深さ50cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋積土は茶褐色土である。遺物の出土状況は埋積土上層より、銭が2枚（67、68）出土した。

68号土坑（第26・30図、図版7・14、第9表）

本跡はI-12グリットに位置し、66号土坑と同様の調査経過をたどった。遺構は東側調査区外に延び、67号土坑を切っている。平面形は隅丸方形と推定され、大きさは底面170cm、深さ82cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は暗茶褐色土である。底面上7～12cmに厚さ6～12cmの地山と推定される褐色砂を確認した。東側の土層観察では褐色砂下に薄く茶褐色土が堆積し、一見袋状土坑のような土層である。茶褐色土の層が薄く部屋にしては狭く感じられる。しかし、天井が落下したと考えれば、地下式坑の可能性はある。遺物は龍泉窯系・青磁劃花文碗（69）、内耳土器（70）の破片が出土した。

69号土坑（第26・30図、第9表）

本跡はH・I-13・14グリットに位置し、79号土坑に切られている。平面形は不整形、大きさは上面190×188cm、底面100×150cm、深さ55cmである。壁は外傾して立ちあがり、底面は丸底気味で、全体にすり鉢状を呈している。砂礫層を掘り込んでいるため遺構の遺存状況は悪かった。埋積土は茶褐色土を主体とし、砂・礫を多く含み締まりがない、下層に黄褐色砂質土塊を若干含む。遺物はかわらけ片（71）が出土した。

70号土坑（第26・30図、第9表）

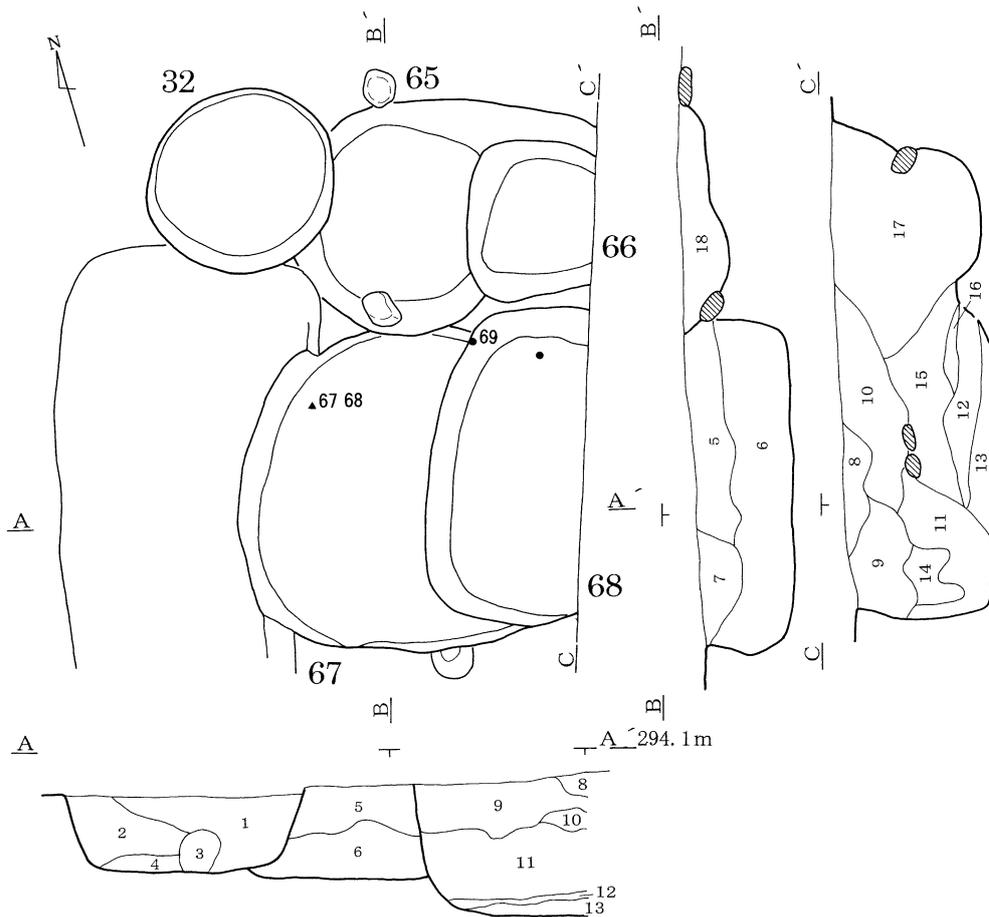
本跡はH・I-13グリットに位置し、79号土坑に切られている。平面形は不整形、大きさは上面170×153cm、底面133×102cm、深さ30cmを測る。壁は外傾して立ちあがり、底面はほぼ平坦である。底面の中央北、南、西側の三方に径25cmほどの礫が平らな面を上にし、3個認められた。礫の上面は遺構の底面より13cm上で水平になるようにすえてあった。埋積土は暗灰褐色土を主体とし、やや締まる下層は砂を含む。遺物は土師器坏、かわらけ、内耳土器が出土し、いずれも破片である。

71号土坑（第28図、図版7）

本跡はH-12グリットに位置し、西側調査区外に延びている。また、37号土坑、75号土坑を切っている。平面形は隅丸方形と推定され、大きさは上面224cm、底面124×96cm、深さ48cmを測る。壁は外傾して立ちあがり、底面は丸底気味であり、全体にすり鉢状を呈する。埋積土は灰色微砂。1号溝と近似する。遺物は何も出土しなかった。

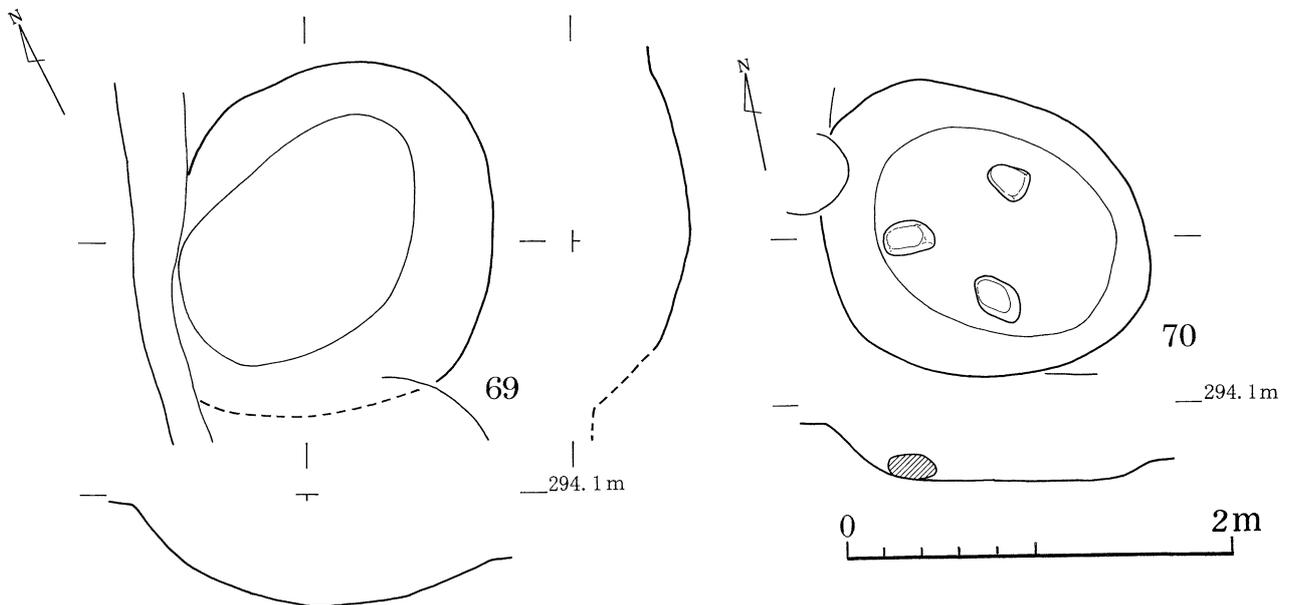
72号土坑（第27・30図、図版7、第9表）

本跡はH-10グリットに位置し、74号土坑に切られている。また、東に51号土坑が隣接する。平面形は隅丸方形、大きさは上面153×140cm、底面135×125cm、深さ6cmを測る。壁はやや外傾して立ちあがり、底面は平



65・66・67・68号土坑

1. 灰褐色土 (縮まる、径2~3mm粗砂、径1cmの灰色土塊多く、炭化物若干含む)
2. 灰褐色土 (1層より黄色土塊多く、炭化物若干含む)
3. 灰色土 (灰褐色土少量含む)
4. 灰褐色土 (径3~5cm黄褐色土塊多く、炭化物若干含む)
5. 茶褐色土 (縮まりなし、鉄分でやや赤化)
6. 茶褐色土 (やや縮まる、径5~10mm灰褐色土塊多量、炭化物若干、径3cm礫少量含む)
7. 茶褐色土 (縮まる、粗砂多く、炭化物ブロック状に含む)
8. 赤褐色土 (縮まる、径0.2~0.3mm礫少量含む、鉄分で赤化)
9. 暗茶褐色土 (縮まりなし、径0.2~0.3mm礫少量、炭化物若干、腐植土含む)
10. 茶褐色土 (縮まりなし、径2~3mm粗砂多く、炭化物若干含む)
11. 暗茶褐色土 (縮まりなし、粗砂若干、径5mm黄褐色土、炭化物若干含む)
12. 褐色砂 (茶褐色土塊少量、径3~5cm礫少量含む)
13. 茶褐色土 (砂少量、径2~4cm礫若干含む)
14. 暗茶褐色土 (縮まりなし、粒子8層より少なく、腐植土多く含む)
15. 茶褐色土 (縮まりなし、径3~5cmの礫、粗砂、炭化物少量含む)
16. 茶褐色土 (縮まりなし、砂多く含む)
17. 茶褐色土 (縮まりなし、礫多く、炭化物若干含む)
18. 灰色土 (縮まりなし、サビ痕多く、粗砂多量に含む)



第26図 土坑 (9)

垣である。埋積土は灰褐色土。遺物はかわらけ片（76）が出土した。

73号土坑（第27図、図版7）

本跡はH-10グリットに位置し、東側調査区外に延びている。また、74号土坑を切っている。平面形は隅丸方形、大きさは上面174cm、底面146cm、深さ30cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物は何も出土しなかった。本跡中央埋積土中に礫が東西方向の直線に確認された。

74号土坑（第27・30図、図版7・12・14・15、第9表）

本跡はH-10グリットに位置し、72号土坑を切り、73号土坑に切られている。平面形は隅丸長方形、大きさは上面128×315cm、底面115×287cm、深さは18～28cmを測る。主軸方向は、N-13°-E。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は南から北に緩く段をつけながら傾斜している。底面の北側中央には大きさ上面63×80cm、底面50×65cm、深さ6cmの円形の掘り込みが認められた。埋積土は灰褐色土。遺物の出土状況は中央やや南よりの底面上からかわらけ1点（78）が正位の状態で出土した。

75号土坑（第27・30図、図版7・14、第9表）

本跡はH-11・12グリットに位置し、32号土坑・67号土坑・71号土坑に切られ、39号土坑を切っている。平面形は長方形、大きさは上面130×480cm、底面113×455cm、深さ35cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。埋積土は灰褐色土。遺物の出土状況は中央やや南よりの底面よりやや浮いた位置で、土師器小皿（80・81）の破片が出土した。遺構の南側には浅いシミ状の掘り込みが認められたが、遺構には伴わないものと判断される。

76号土坑（第27図・31、第9表）

本跡はH-12グリットに位置し、29号土坑、71号土坑に切られている。遺構はこれらの遺構の調査を行った後確認されたため、その形状は不明である。深さは7cmを測る。埋積土は茶褐色土。遺物は土師器小皿片が出土したが、流れ込みと考えられる。

77号土坑（第20図）

本跡はH-12グリットに位置し、大部分が32号土坑に切られている。平面形は円形と推定され、深さは32cmを測る。遺物は何も出土しなかった。

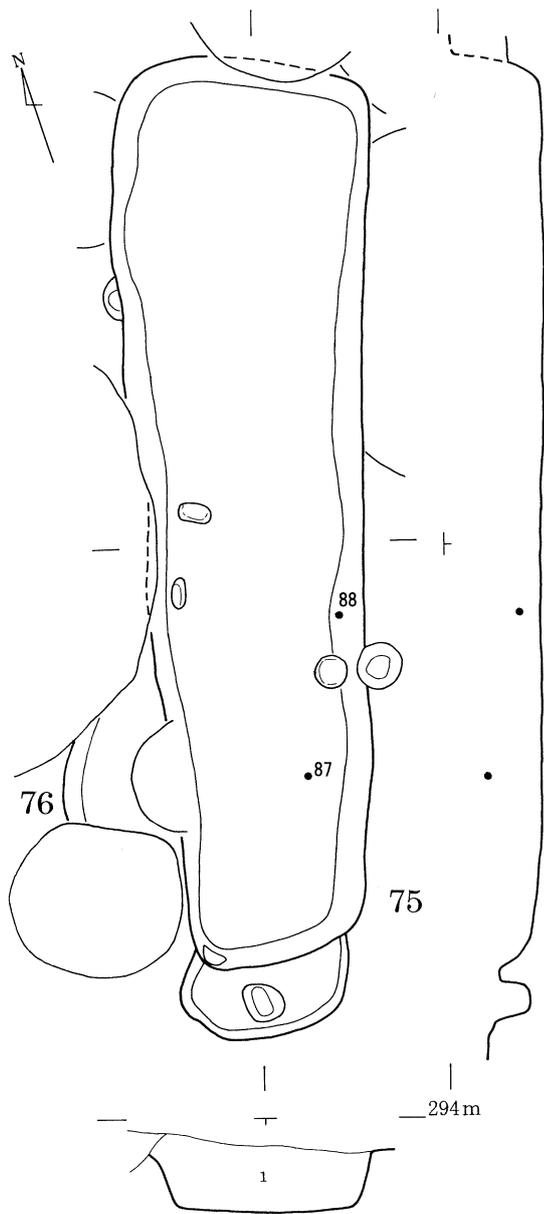
78号土坑（第20図）

本跡はG-6グリットに位置し、22号土坑、24号土坑に切られ、確認したのは南壁際のほんの僅かであった。平面形は、周辺の土坑から円形と推定される。遺物は何も出土しなかった。

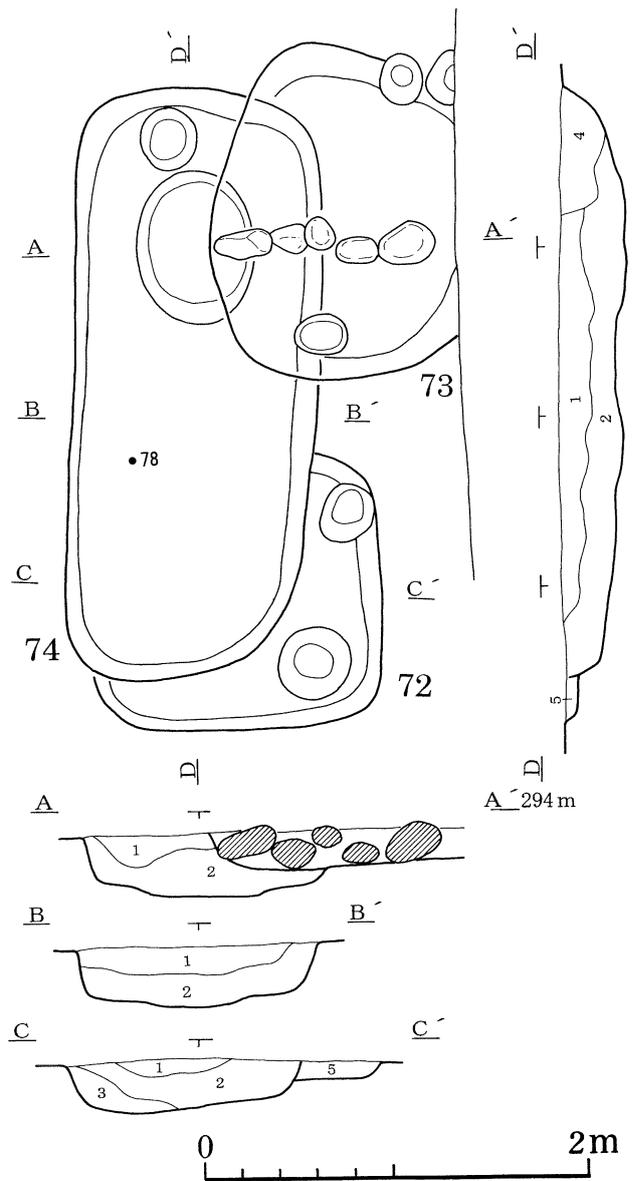
79号土坑（第28・31図、図版7・12、第9表）

本跡はH・I-13・14グリットに位置し、東側が、若干調査区外に延びている。また、56号土坑、69号土坑を切り、70号土坑に切られる。平面形は隅丸方形で、大きさは上面380cm、底面320×290cm、深さ20cmを測る。壁は外傾して立ちあがり、底面はやや中央がくぼむ。埋積土は暗茶褐色土である。底面上、厚さ6～8cmに炭化物が堆積し、中央には焼土が若干認められた。炭化物は厚さ数cmの炭化材を含むがほとんどは碎片となっている。遺物の出土状況は炭化物中よりかわらけ、土師器小皿片出土した。

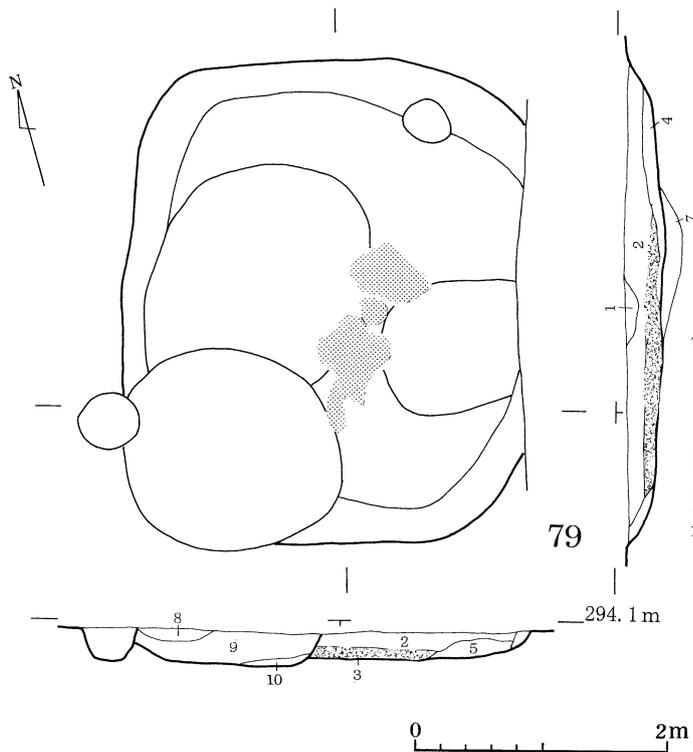
80号土坑（第28・31図、図版7・12、第9表）



75号土坑
1. 灰褐色土 (縮まる、径2~3mm粗砂、径5~10mm淡褐色土塊多く含む)

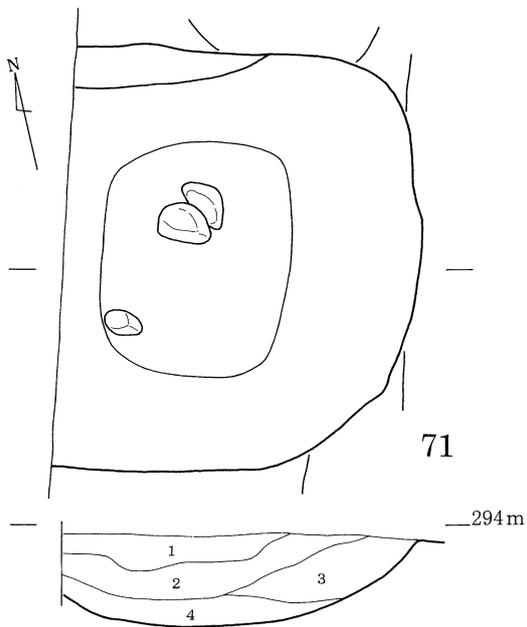


72・73・74号土坑
1. 灰褐色土 (やや縮まる、粗砂多く含む、サビ痕でやや赤化)
2. 灰褐色土 (やや縮まる、粗砂多量、径1cm程の淡褐色土塊少量含む)
3. 灰褐色土 (やや縮まる、粗砂多量、黄褐色土塊を含む)
4. 灰褐色土 (やや縮まる、粗砂多量、灰色微砂塊、炭化物若干含む)
5. 灰褐色土 (縮まる、粗砂多量、淡灰色砂多く含む)



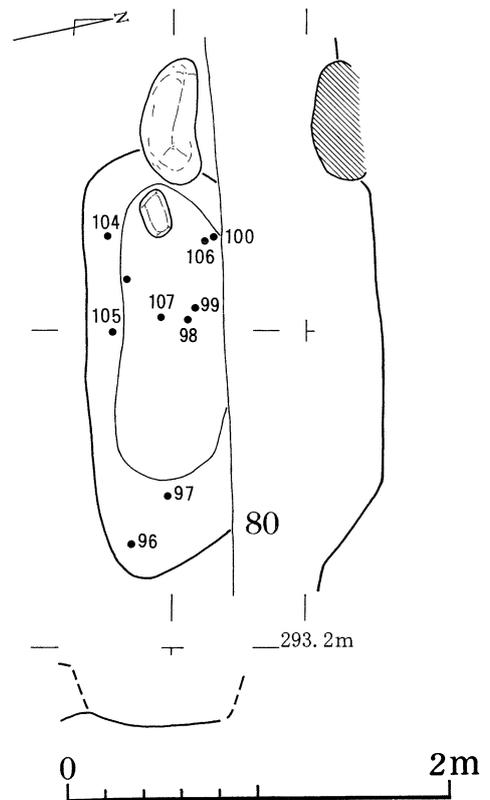
79号土坑

1. 暗茶褐色土 (縮まりなし、黄褐色砂塊若干含む)
2. 暗茶褐色土 (縮まりなし、径2~5 cmの礫少量、炭化物若干含む)
3. 暗茶褐色土 (縮まりなし、炭化物多量に含む)
4. 暗茶褐色土 (縮まりなし、砂、径2~3 mm礫少量、炭化物若干含む)
5. 茶褐色土 (縮まりなし、径2~3 mm粗砂少量、炭化物若干含む)
6. 茶褐色土 (縮まりなし、灰色土、炭化物若干、径1 cm程の黄褐色土塊含む)
7. 暗茶褐色土 (縮まりなし、砂多量に含む)
8. 灰褐色土 (やや縮まる、粗砂、炭化物若干含む)
9. 暗灰褐色土 (やや縮まる、サビ痕若干含む)
10. 暗茶褐色土 (砂を多く含む)



71号土坑

1. 灰色微砂 (ソフト、パウダー状)
2. 灰色微砂 (ソフト、パウダー状、砂層を含む)
3. 灰色微砂 (砂を含む、やや赤化)
4. 灰色微砂 (1層より粒子、砂多く、やや赤化)



第28図 土坑 (11)

本跡は調査区の南、D-2グリットに位置し、一部調査区外に延びている。また、1号溝に切られている。平面形は不整楕円形で、大きさは上面230×72cm以上、底面158×56cm、深さ34cmを測る。壁はやや外傾して立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は黒色土。遺物の出土状況は土師器坏・小皿、足高高台坏・皿の破片などが埋積土中から出土したが、完存のものは認められなかった。また、弥生土器甕片は1号住居跡の遺物と判断される。出土遺物から本跡は11世紀代と推測される。

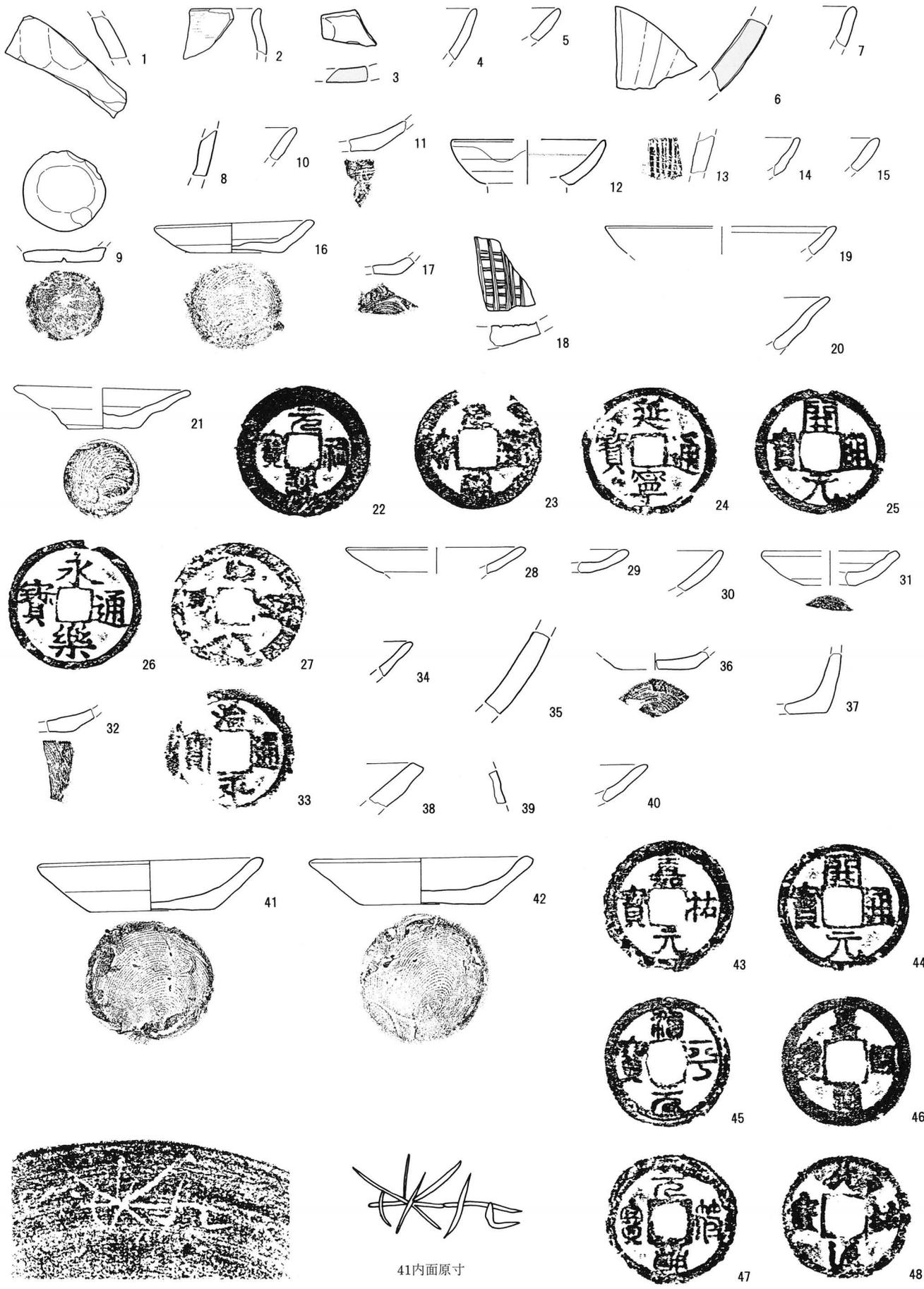
遺物

9は内底面を磨って円盤状に加工している。90も摩滅はしているが、円盤状に加工したものと推定される。41は口辺部内面に判読不明のヘラ記号が認められる。54は硯の破片で、海の一部が認められる。石材は粘板岩、重さは10gである。91は外面に黄灰色の降灰が認められる。16・78は口辺部の円周約1/4が底部付近までが三日月状に欠けている。19・31・80・81は三日月状の破片である。両者の状況から、故意に割られたものと推測される。72は内面に油煙が付着している。84は約1/2を欠損している。中央に穿孔が認められる。49は石鏃で、石材は黒曜石、重さは1g未満である。

第9表 土坑出土遺物観察表

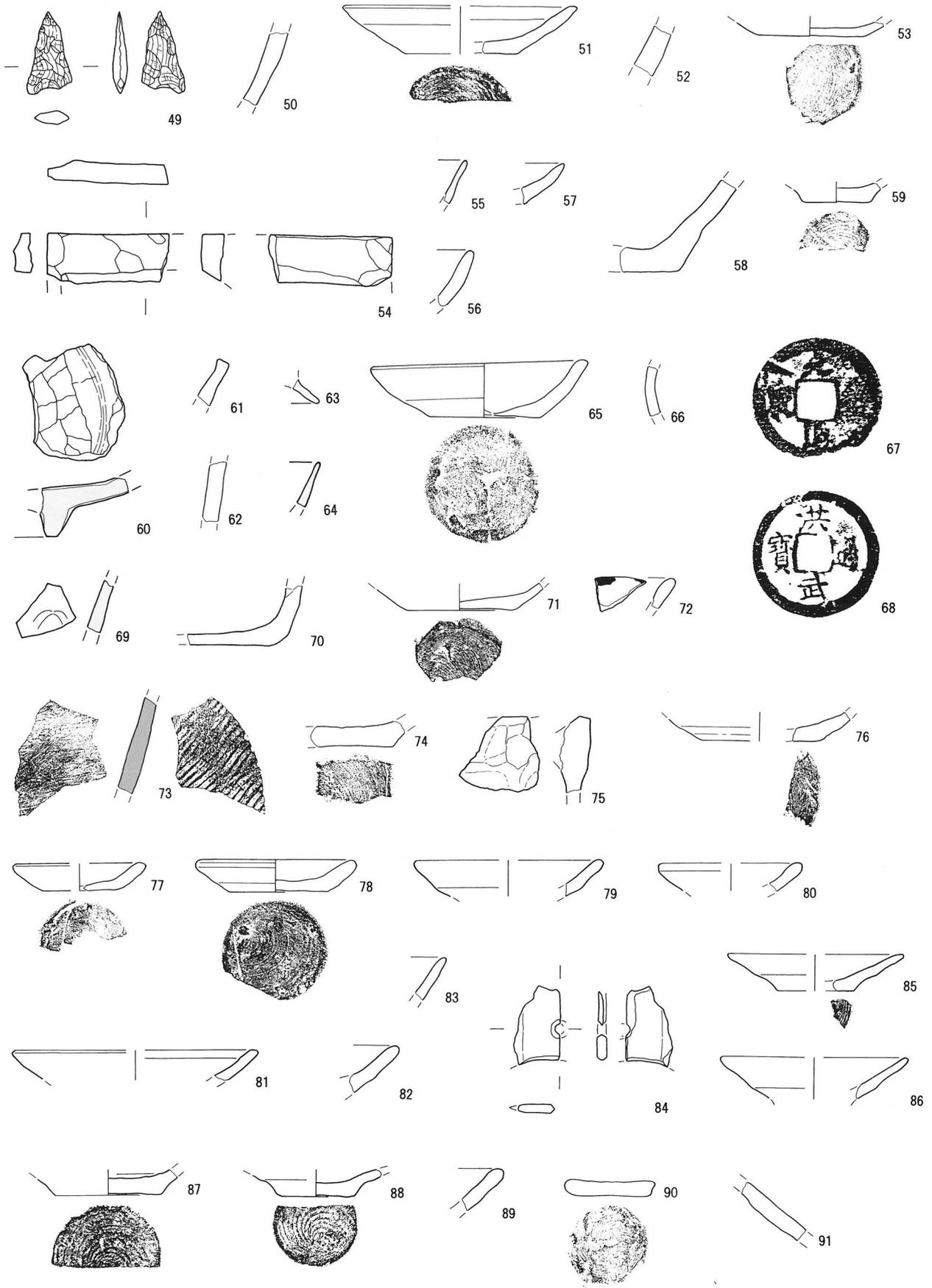
番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	4号土坑	常滑・甕	—	—	—	10R4/4	不良	石英砂		
2	5号土坑	土師器・碗	—	—	—	5YR6/6	良	普通		
3	9号土坑	龍泉窯系・青磁碗	—	—	—					中国
4	13号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	普通	微砂、金雲母		
5	13号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	普通		
6	13号土坑	龍泉窯系・青磁鑄蓮弁文碗	—	—	—					中国 14世紀
7	13号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	2.5YR6/6	普通	微砂、金雲母		
8	13号土坑	美濃焼・薬味搗鉢	—	—	—					昭和
9	14号土坑	土師器・小皿	—	4.2	—	5YR4/6	良	金雲母多い	底部糸切り	
10	16号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母少量		
11	16号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR5/6	良	金雲母少量		
12	21号土坑	美濃焼・鉄釉小坏	5.6	—	—					大塚Ⅳ期 (1580~1585年)
13	22号土坑	縄文・五領ケ台	—	—	—	7.5YR3/3	良	雲母若干		
14	22号土坑	土師器・坏	—	—	—	5YR4/3	良	普通		古墳
15	22号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母少量		
16	23号土坑	土器・かわらけ	8.4	5.1	1.8	5YR5/4	良	石英砂・金雲母少量	底部糸切り	
17	25号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR3/1	良	石英砂	底部糸切り	
18	25号土坑	瀬戸焼・灰釉皿	—	—	—					古瀬戸後期 (15世紀)
19	25号土坑	土器・かわらけ	12.8	—	—	5YR6/4	良	石英砂・金雲母少量		
20	29号土坑	土師器・小皿	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
21	31号土坑	土師器・小皿	9.6	4.1	2.5	5YR4/6	良	金雲母多量		
22	31号土坑	銭	—	—	—					元祐通宝 (1086)
23	31号土坑	銭	—	—	—					元豊通宝 (1078)
24	31号土坑	銭	—	—	—					延寧通宝 (1454) ベトナム銭
25	31号土坑	銭	—	—	—					開元通宝 (621)
26	31号土坑	銭	—	—	—					永樂通宝 (1408)
27	31号土坑	銭	—	—	—					
28	32号土坑	土師器・小皿	9.8	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
29	32号土坑	土器・かわらけ	—	—	1.3	2.5YR5/6	良	金雲母少量		
30	32号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR7/4	良	石英砂		
31	34号土坑	土器・かわらけ	7.3	3	2	5YR6/6	良	石英砂、金雲母少量	底部糸切り	
32	36号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR7/4	良	金雲母若干		
33	36号土坑	銭	—	—	—					治平通宝 (1064)
34	37号土坑	土師器・小皿	—	—	—	7.5YR6/6	やや甘い	石英砂、金雲母少量		
35	37号土坑	美濃焼・鉄釉天目茶碗	—	—	—					大塚前期 (1490~1570年頃)
36	38号土坑	土器・かわらけ	—	3.8	—	5YR6/6	良	金雲母少量		
37	38号土坑	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR5/4	良	細砂多量		
38	38号土坑	土器・搗鉢	—	—	—	10YR6/3	良	細かい金雲母若干		
39	39号土坑	猿投灰釉陶器	—	—	—					
40	42号土坑	土師器・坏	—	—	—	2.5YR5/6	良	金雲母少量、赤色粒		
41	44号土坑	土器・かわらけ	12.2	7.0	2.9	5YR5/6	良	石英砂、金雲母多く含む	口辺部内面にヘラ記号	
42	44号土坑	土器・かわらけ	12.0	7.0	2.7	5YR6/6	良	石英砂、金雲母多く含む		

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色 調	焼 成	胎 土	器形・調整の特徴	備 考
			口径	底径	器高					
43	44号土坑	銭	—	—	—					嘉祐元宝 (1056)
44	44号土坑	銭	—	—	—					開元通宝 (621)
45	44号土坑	銭	—	—	—					治平元宝 (1064)
46	44号土坑	銭	—	—	—					嘉祐通宝 (1056)
47	44号土坑	銭	—	—	—					元符通宝 (1098)
48	44号土坑	銭	—	—	—					元祐通宝 (1086)
49	45号土坑	石鏃	—	—	—					
50	47号土坑	土師器	—	—	—	5YR3/1	良	細砂多量	外面斜めケズリ、内面斜めナデ	
51	49号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母少量		
52	50号土坑	常滑・甕	—	—	—	2.5YR5/6	不良			
53	50号土坑	土器・かわらけ	—	5.5	—	7.5YR7/4	やや甘い	金雲母若干、赤色粒		
54	55号土坑	硯	—	—	—					
55	56号土坑	美濃・灰釉陶器	—	—	—	N8/0	良	蜜		O-53形式、10世紀
56	56号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	5YR5/6	良	金雲母微量		
57	56号土坑	土師器・小皿	—	—	—		良	金雲母多い		
58	58号土坑	常滑・搦鉢	—	—	—	10R5/6	不良			
59	59号土坑	土器・かわらけ	—	3.5	—	5YR6/6	良	金雲母・赤色粒若干		
60	59号土坑	龍泉窯系・青磁盤	—	—	—		良	白色、黒色微粒		中国 14世紀
61	59号土坑	土師器	—	—	—	7.5YR6/4	良	金雲母若干		
62	60号土坑	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR4/4	良	石英、粗い		
63	60号土坑	土師器・足高高台	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
64	61号土坑	白磁皿	—	—	—					中国
65	64号土坑	土器・かわらけ	11.4	6.0	3.1	7.5YR7/3	やや甘い	石英砂、金雲母多く含む		
66	66号土坑	弥生・壺	—	—	—	N3/0	良	粗砂を多く含む	外面縦ハケ後ナデ、内面横ハケ	
67	67号土坑	銭	—	—	—					元口通宝
68	67号土坑	銭	—	—	—					洪武通宝 (1368)
69	68号土坑	龍泉窯系・青磁劃花文碗	—	—	—					中国 13世紀
70	68号土坑	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR3/1	良	石英砂を含み、やや粗い		
71	69号土坑	土器・かわらけ	—	5.7	—	7.5YR7/4	良	金雲母若干		
72	70号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	2.5YR5/6	良	金雲母若干	口辺部内面に油煙付着	
73	70号土坑	須恵器・甕	—	—	—	5RP2/1	良	緻密		
74	70号土坑	土師器・坏	—	—	—	2.5YR4/4	やや良	金雲母多量		
75	70号土坑	土器・内耳土器	—	—	—	5YR4/3	良	やや粗い		
76	72号土坑	土器・かわらけ	—	6.3	—	7.5YR4/2	良	金雲母若干	底部糸切り	
77	74号土坑	土器・かわらけ	6.8	4	1.5	7.5YR7/4	良	金雲母微量	底部糸切り	
78	74号土坑	土器・かわらけ	8.0	5.3	1.8	5YR6/6	良	石英砂、金雲母少量		
79	74号土坑	土器・かわらけ	9.9	—	—	5YR6/4	良	微砂		
80	74号土坑	土器・かわらけ	7.5	—	—	7.5YR7/4	良	金雲母微量		
81	74号土坑	土器・かわらけ	13.0	—	—	7.5YR7/4	良	微砂		
82	74号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	2.5YR6/6	良	金雲母若干		
83	74号土坑	美濃焼・灰釉碗	—	—	—					古瀬戸後期 (15世紀)
84	74号土坑	磨製石鏃	—	—	—					
85	75号土坑	土師器・小皿	9.3	4.1	2	5YR6/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
86	75号土坑	土師器・小皿	9.9	—	—	7.5YR4/3	良	金雲母多量		
87	75号土坑	土師器・坏	—	5.7	—	5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
88	75号土坑	土師器・小皿	—	3.9	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
89	75号土坑	土器・かわらけ	—	—	—	2.5YR5/6	良	金雲母若干		
90	75号土坑	土師器・小皿	—	—	—	7.5YR5/4	やや不良	金雲母多量		
91	75号土坑	常滑・甕	—	—	—		良			
92	76号土坑	土師器・小皿	—	4	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
93	79号土坑	土器・かわらけ	—	4.3	—	5YR6/6	良	金雲母微量		
94	79号土坑	土師器・小皿	4.4	2.8	1.7	2.5YR4/4		金雲母やや多い		
95	79号土坑	土師器・皿	8.8	4.8	3.7	7.5YR1.7/1	良	1mmほどの金雲母多い	底部糸切り	
96	80号土坑	土師器・坏	—	5.4	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
97	80号土坑	土師器・坏	—	6.3	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
98	80号土坑	土師器・坏	—	5.5	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
99	80号土坑	土師器・坏	—	5	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
100	80号土坑	土師器・小皿	9.5	4.2	2.3	5YR4/6	良	金雲母多量		
101	80号土坑	土師器・小皿	9.6	4.7	2.2	5YR4/6	良	細かな金雲母多量	底部糸切り	
102	80号土坑	土師器・小皿	—	4.8	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
103	80号土坑	土師器・小皿	10	5	2.5	5YR4/4	良	金雲母多量		
104	80号土坑	土師器・足高高台坏	—	7	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
105	80号土坑	土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/6	やや不良	粗い赤色粒、金雲母多い		
106	80号土坑	土師器・足高高台坏	—	9	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
107	80号土坑	土師器・足高高台皿	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
108	80号土坑	弥生・壺	—	—	—	2.5YR5/6	普通		外面ハケ目、内面ミガキ	

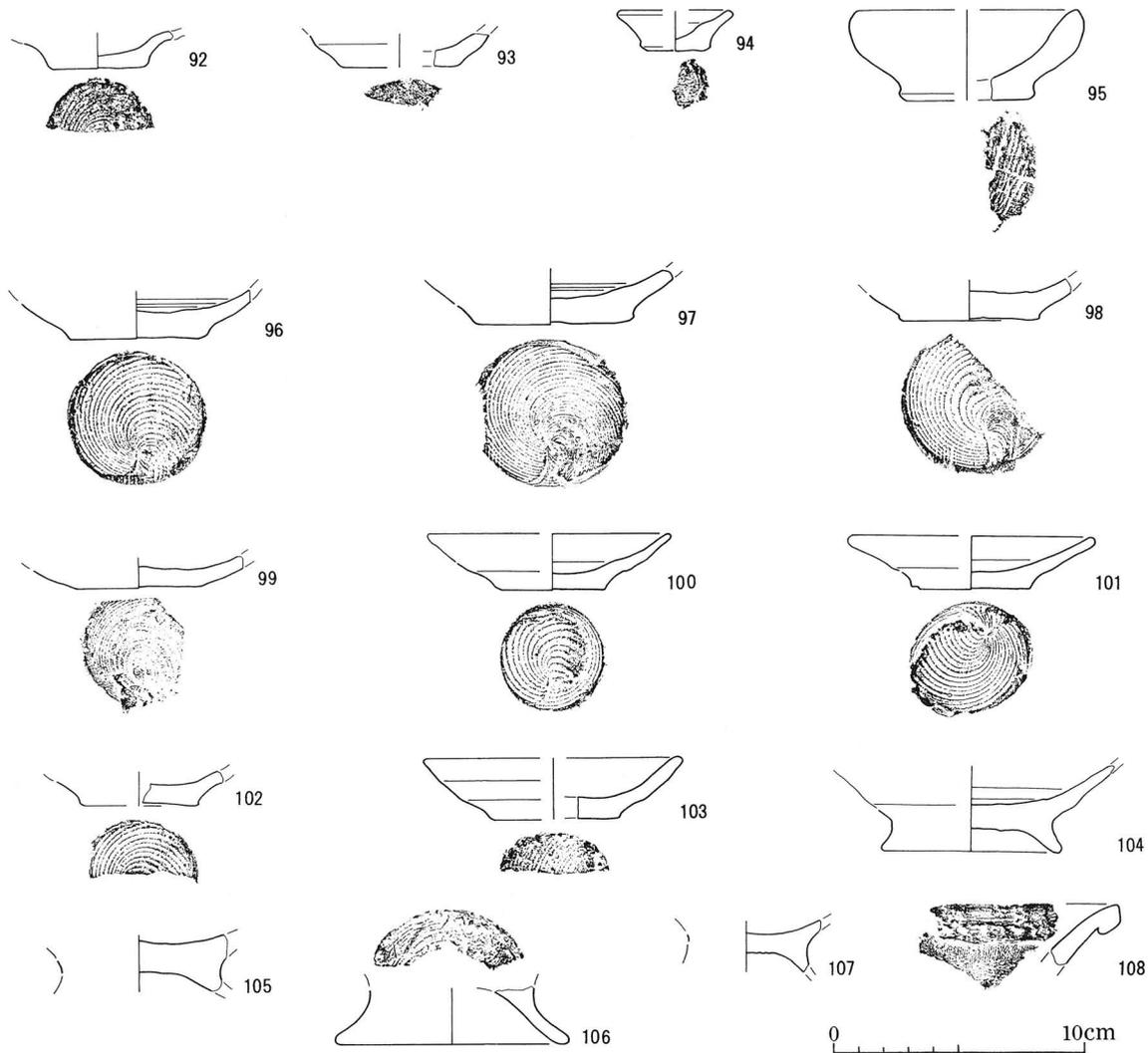


41内面原寸

第29图 土坑出土遺物 (1)



第30圖 土坑出土遺物 (2)



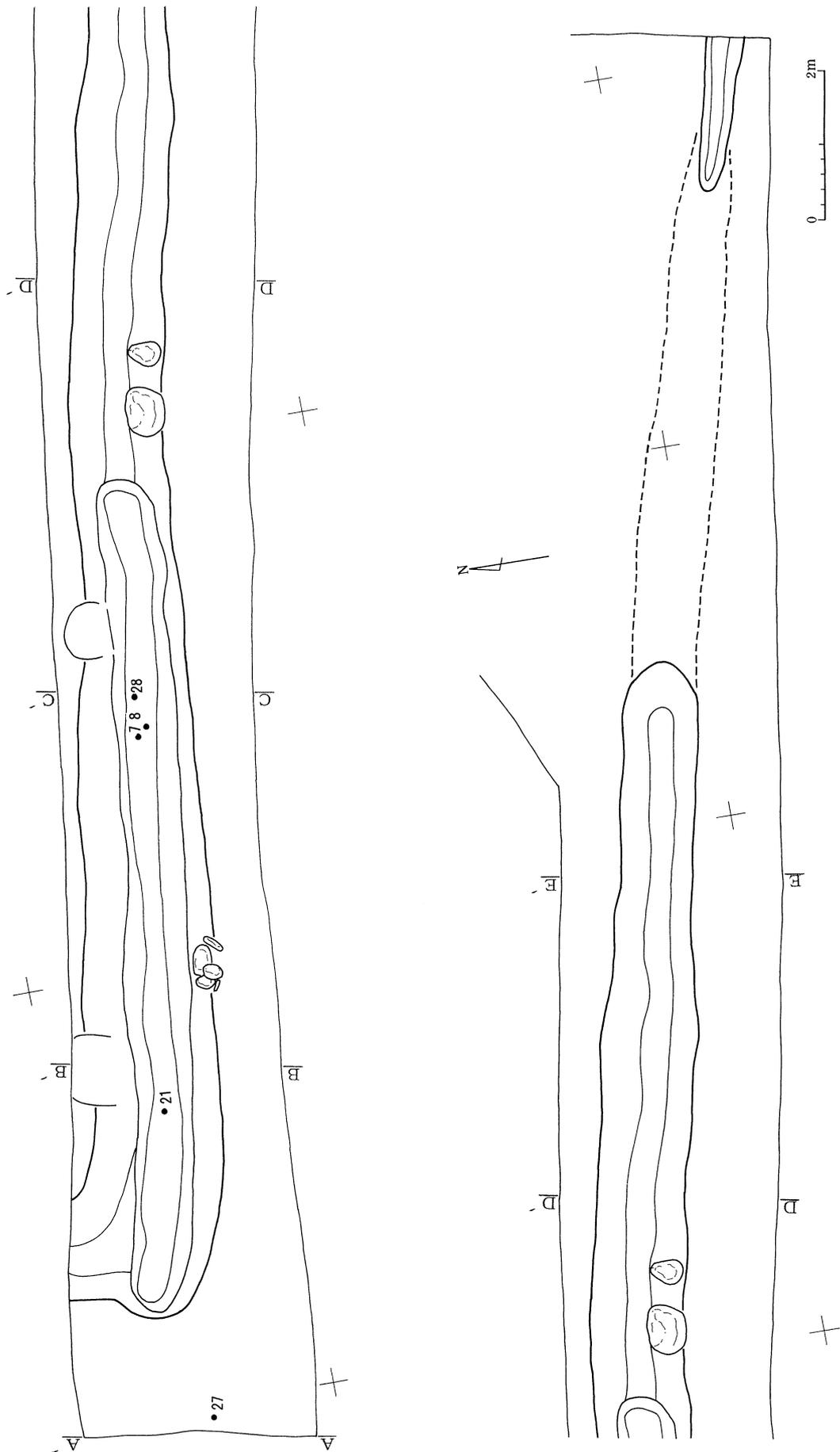
第31図 土坑出土遺物 (3)

c. 溝状遺構

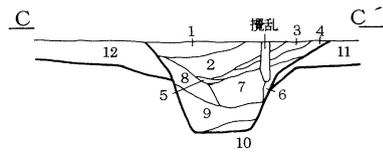
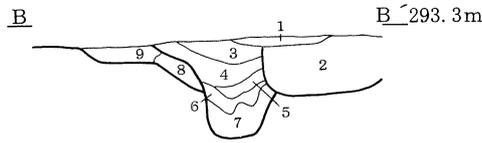
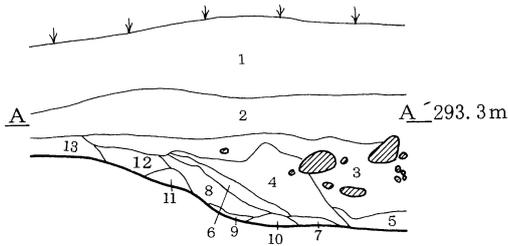
1号溝 (第32~35図、図版8・13~15、第10表)

本跡はA~G-1・2グリットに位置する。A-2グリットでは東西方向の溝が北に向きを変え調査区外に、G-1グリットから東へ調査区外に延びている。溝は2号溝、80号土坑、1号住居跡などを切り、54・55号土坑に切られている。断面はA~C-2グリットでは底面が平坦な箱薬研状をし、C-2グリットから東ではU字状をし、その間に段が認められ、東から西に向かって傾斜している。溝の大きさは上幅40~170cm、下幅25~45cm、深さは中央より西側が50~72.5cm、東側が10~42.2cmを測る。埋積土は灰白色砂を主体にしている。遺物の出土状況はA-2グリットの埋積土中位から青磁片、B-2グリットの埋積土中位からかわらけ2個体(7・8)、D-2グリットの埋積土中位から内耳土器(15)の破片が出土した。また、銅製品の細片が出土しているが、溝を切って土坑が掘られていることから、銅製品は土坑に埋納された銅銭の破片とも考えられる。

遺物は1~3が土師器坏・小皿、4~6が足高高台坏、7~9がかわらけ、10~17・23が内耳土器、18が土釜。20は美濃焼・大皿、21は龍泉窯系・青磁盤、22は灰釉・長頸壺、19は在地産の播鉢、24~26は縄文、28は凹石、29は石皿である。7・8は重なって出土し、7の外表面、8の内面に多量の油煙が付着している。18は耳の部分剥離し、接合痕が認められる。21は高台から底部が遺存しており、文様等は認められなかった。27は、先端を欠損し、石材は黒曜石、重さは1g未満。28は、石材は花崗岩、重さは637g。29は、上面に楕円形の磨り面が認められ、石材は花崗岩、重さは2.6kg。



第32图 1号沟



1号溝Aセクション

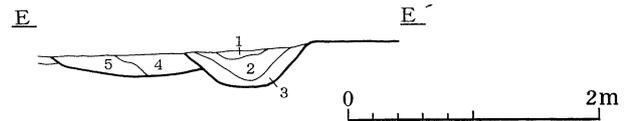
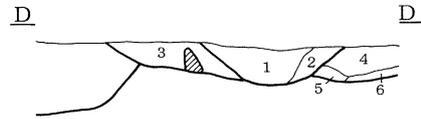
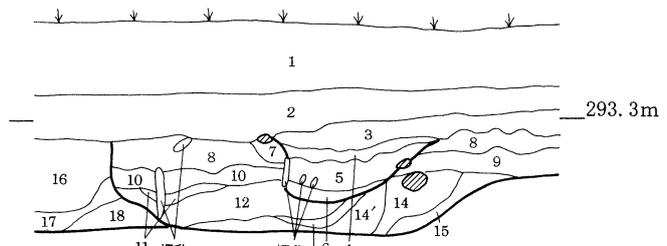
1. 表土
2. 暗茶褐色土 (締まりなし、径2~3mm粗砂多く、炭化物少量含む)
3. 暗灰褐色土 (粘性強い、径2~4mm礫多く、径10~30cmの礫を含む)
4. 灰褐色土 (やや締まる、径2~5mm粗砂多量、炭化物微量、サビ痕少量含む)
5. 暗茶褐色土 (粘性強い、径2~4mm礫多く、黄褐色砂含む)
6. 灰褐色土 (締まりなし、径2~3mm粗少量、淡褐色土多く含む)
7. 灰褐色土 (締まりなし、径2~3mm粗砂若干、径10~20mm淡褐色土塊多量、黒色土少量含む)
8. 灰褐色土 (やや粘性、径2~6mm粗砂多く、黒色土含む)
9. 灰褐色土 (やや粘性、径2~5mm粗少量、黄褐色砂多量に含む)
10. 黒色土 (やや粘性、径2~3mm粗砂少量含む)
11. 灰褐色土 (粗砂少量、径3~5cm黄褐色砂多く含む)
12. 灰褐色土 (締まる、径2~3mm粗砂多量に含む)
13. 灰褐色土 (締まる、粗砂多量、炭化物少量含む)

1号溝Bセクション

1. 黒色土 (締まりなし、径3~4mm白色粒少量含む)
2. 暗灰褐色土 (径3~4mm白色粒少量、炭化物、径10mm灰色砂、黒色土塊少量含む)
3. 暗灰褐色土 (締まりなし、径3~7mm白色粒多く、赤色粒少量含む)
4. 暗灰褐色土 (ややソフト、径3~4mm白色粒、白色砂少量含む)
5. 暗灰褐色土 (径3cm白色砂塊含む)
6. 灰褐色土 (砂質、白色砂多く含む)
7. 灰色土 (粘性強い、微砂少量含む)
8. 黒色土 (粘性なし、径3~4mm白色粒多く、炭化物少量含む)
9. 暗灰褐色土 (粘性なし、径3~5mm礫少量、サビ痕少量含む)

1号溝Cセクション

1. 灰色土 (粘性なし、径2~3mm粗砂多く、微砂含む)
2. 暗褐色土 (粘性なし、径3~5mm礫多く、炭化物少量含む)
3. 灰白色砂 (パウダー状)
4. 灰色土 (粘性ややあり、サビ若干、径3~4mm礫少量含む)
5. 灰色土 (粘性なし、4層に比べやや明るい)
6. 灰褐色土 (粘性強い、炭化物、サビ若干含む)
7. 灰白色砂 (径3cm灰色粘性土塊少量含む)
8. 灰色土 (粘性なし、灰白色砂多く、炭化物若干含む)
9. 灰色土 (やや粘性あり、砂少量含む)
10. 灰色砂 (径0.2~1.5mmの砂)
11. 黒色土 (径2mm白色粒、炭化物少量含む)
12. 暗灰褐色土 (径2mm白色粒多く、径10cm淡褐色土塊を含む)



1号溝Dセクション

1. 暗褐色土 (粘性なし)
2. 灰色土 (パウダー状、微砂を多く含む)
3. 暗灰褐色土 (白色粒少量、黒色土含む)
4. 黒色土 (粗い、径2mm白色粒多く、黒色土含む)
5. 黒色土 (灰褐色土粘性土塊多く含む)
6. 黒色土 (ソフト、粒子少ない)

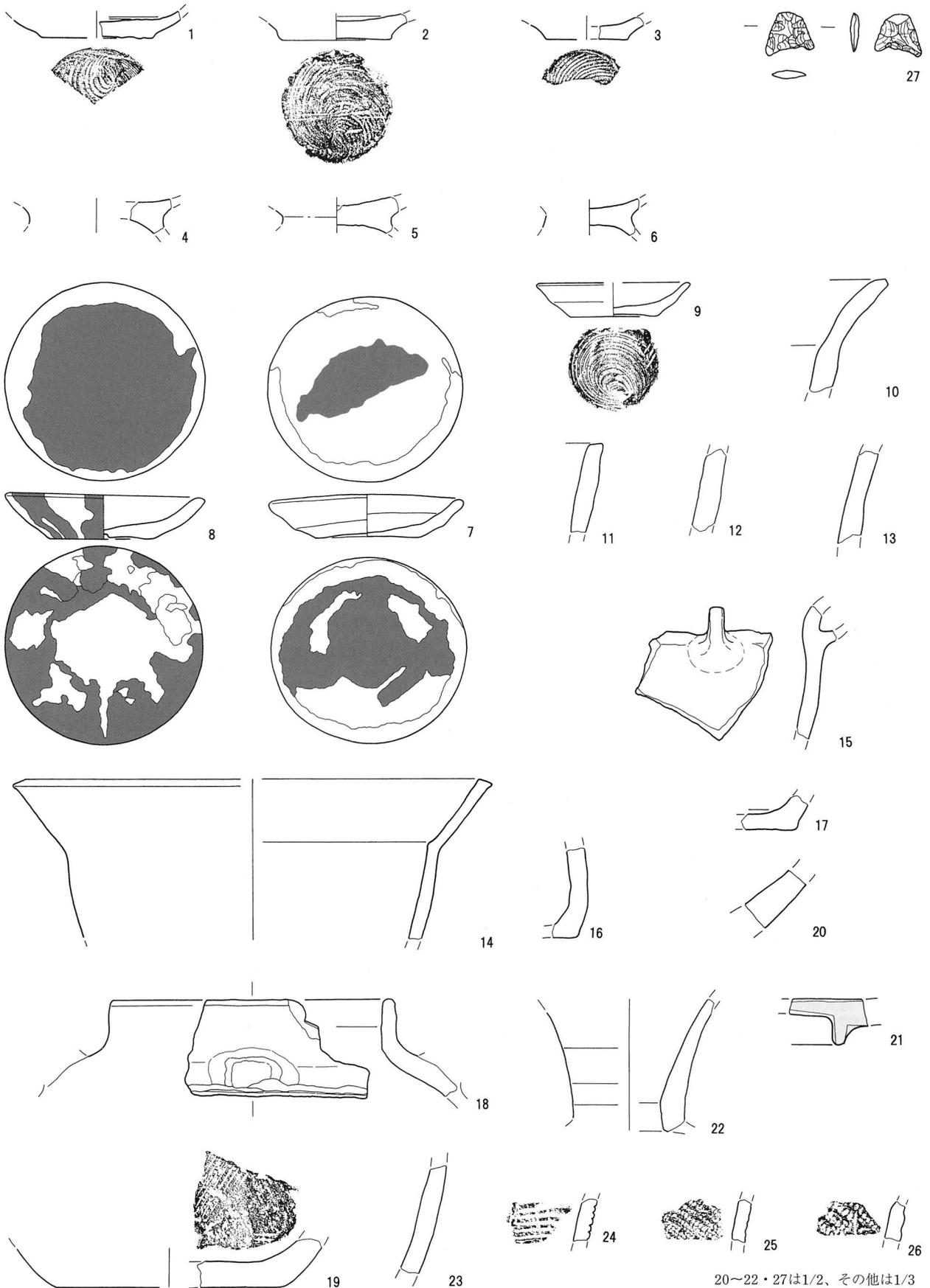
1号溝Eセクション

1. Cセクション2層に対応する
2. Cセクション7層に対応する
3. Cセクション9層に対応する
4. 暗灰褐色土 (径2~3mm白色砂少量含む)
5. 暗灰褐色土 (径10mm淡褐色土塊多く含む)

1号溝Fセクション

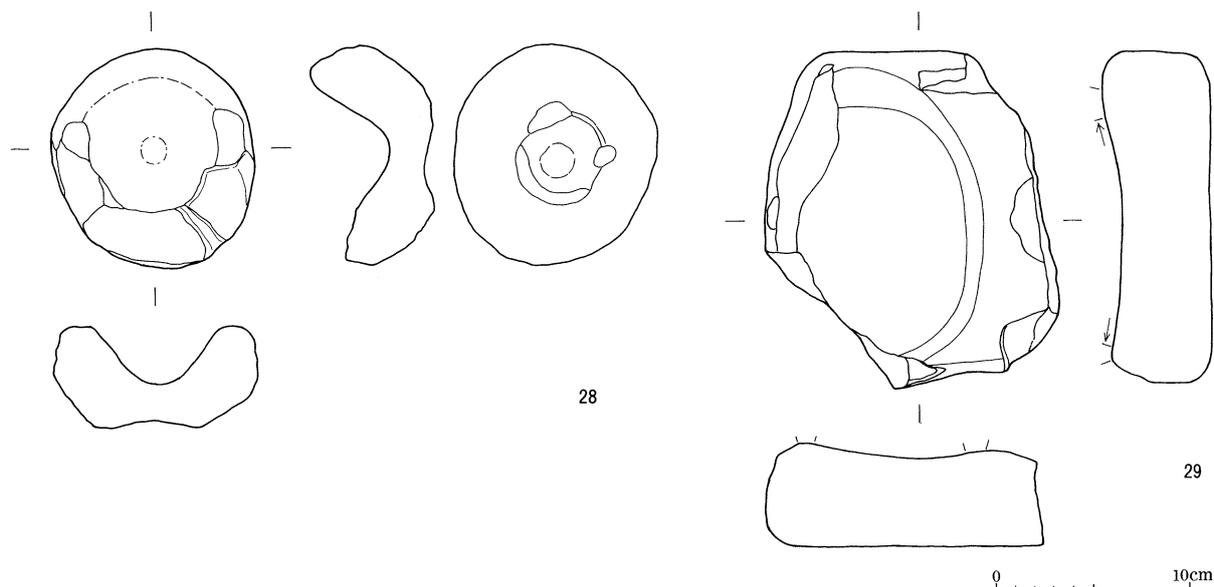
1. 表土
2. 暗茶褐色土 (締まりなし、径2~3mm粗砂多く、炭化物少量含む)
3. 灰褐色土 (砂質、径2~3mm粗砂少量含む)
4. 淡灰褐色土 (パウダー状)
5. 灰褐色土 (粘性強い、径1~2mm粗砂、微砂少量含む)
6. 暗灰褐色土 (やや粘性、径1~5mm粗砂少量含む)
7. 灰褐色土 (やや粘性、淡褐色土多く含む)
8. 黒色土 (径1~3mm粗砂少量含む)
9. 茶褐色土 (やや締まる、径0.5~1mm白色粒、径1~3mm粗砂少量含む)
10. 茶褐色土 (径1~2mm粗砂少量含む)
11. 茶褐色土 (10層よりやや多い)
12. 暗茶褐色土 (径1~2mm粗砂少量、径5cm程の礫を含む)
13. 暗茶褐色土 (やや粘性、径5cm黄褐色砂塊含む)
14. 黒色土 (やや粘性、径1~2mm粗砂少量、炭化物若干含む)
- 14'. (14層との間にサビ痕含む)
15. 灰褐色土 (締まる、径10cm淡黄褐色土塊、黒色土、径1~2mm粗砂少量含む)
16. 暗灰褐色土 (粘性強い、径2~4mm礫多く、径10~30cmの礫を含む)
17. 暗灰褐色土 (粘性強い、径2~4mm礫多く、黄褐色砂含む)
18. 茶褐色土 (やや粘性、径0.5~1mm白色砂極少量、炭化物少量、黒色土を含む)

第33図 1・2号溝セクション



20~22・27は1/2、その他は1/3

第34図 1号溝出土遺物(1)



第35図 1号溝出土遺物(2)

2号溝(第36~38図、図版13・14、第11表)

本跡はA~G-1・2グリットに位置する。1号溝と同様にA-2グリットから北へ、G-1グリットから東へ調査区外に延びている。A~C-2グリットでは1号溝に切られているため形状は判断できないが、D~F-1・2グリットでは断面U字状をしていた。溝の大きさは上幅110~200cm、下幅45cm、深さ42~70cmを測る。埋積土は灰褐色土である。E-1グリットではわずかに焼土が認められる。遺物は、F-1グリットから土師器坏(1)の完形品が出土した。出土位置から2号溝に含めたものの出土層位は確認面上の包含層に近い位置から出土している。また、土師器坏、足高高台坏の破片が1号溝との重複部分を除く溝全体より出土し、特にA-2グリットのコーナー付近の埋積土下層より多量に出土した。弥生土器(44)はその出土位置から、1号住居跡のものと考えられる。

遺物は、1~3・5が土師器坏、6~19は土師器小皿、21~33は土師器足高高台坏、34~40は土師器足高高台小皿、41は弥生土器高坏、42は土師器坏、43は土師器甕、44は弥生土器壺、45は土師器壺、46・47は灰釉陶器長頸壺、48~51は縄文、52は石皿である。2・3・5・9・12・21~28の内底面にロクロ水引きの痕跡認められる。20は15世紀後半。21は底部中央に穿孔が認められる。32・33は高台部の剥離の跡に糸切り痕が認められる。46は内外面に緑灰色の降灰が認められる。47は外面に緑色の釉垂れが認められ、焼台が付着している。内面に緑灰色の降灰が認められる。48は山形に区画し、格子目の集合沈線文が施されている。49~51は地文縄文。52は大型の石皿、石材は花崗岩、重さは3.6kg。表面が熱を受け剥離している。

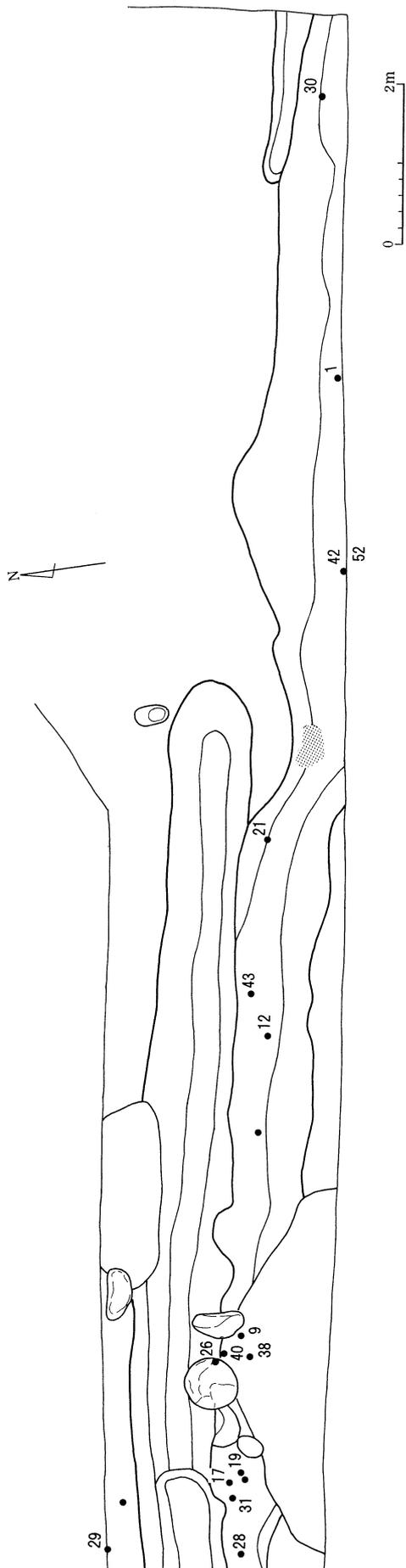
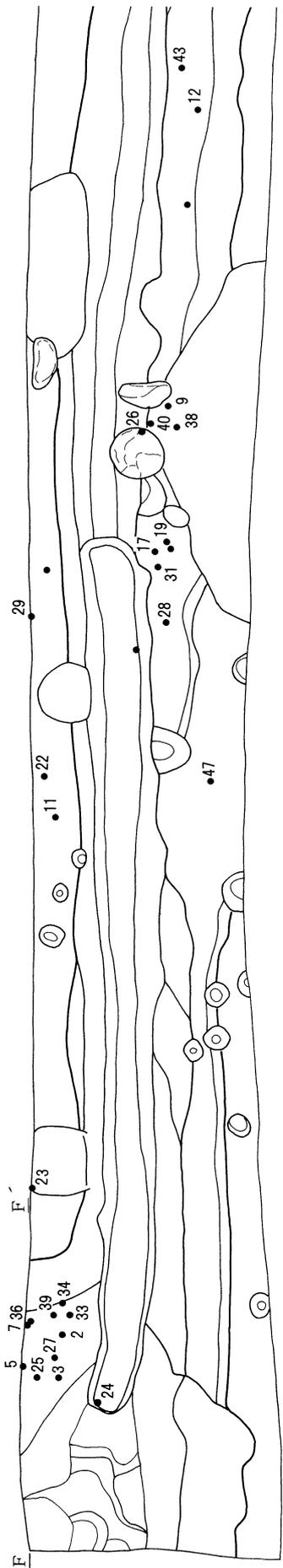
3号溝(第39図、図版8、第12表)

本跡はF-4・5グリットに位置し、45号土坑を切っている。逆U字状の半分ほどが確認され、F-5グリットで調査区外に延びている。F-4グリットでは2号住居跡と重複し、確認できなかった。断面U字状をし、大きさは上幅37~50cm、深さ8~12.4cmを測る。埋積土は茶褐色土。

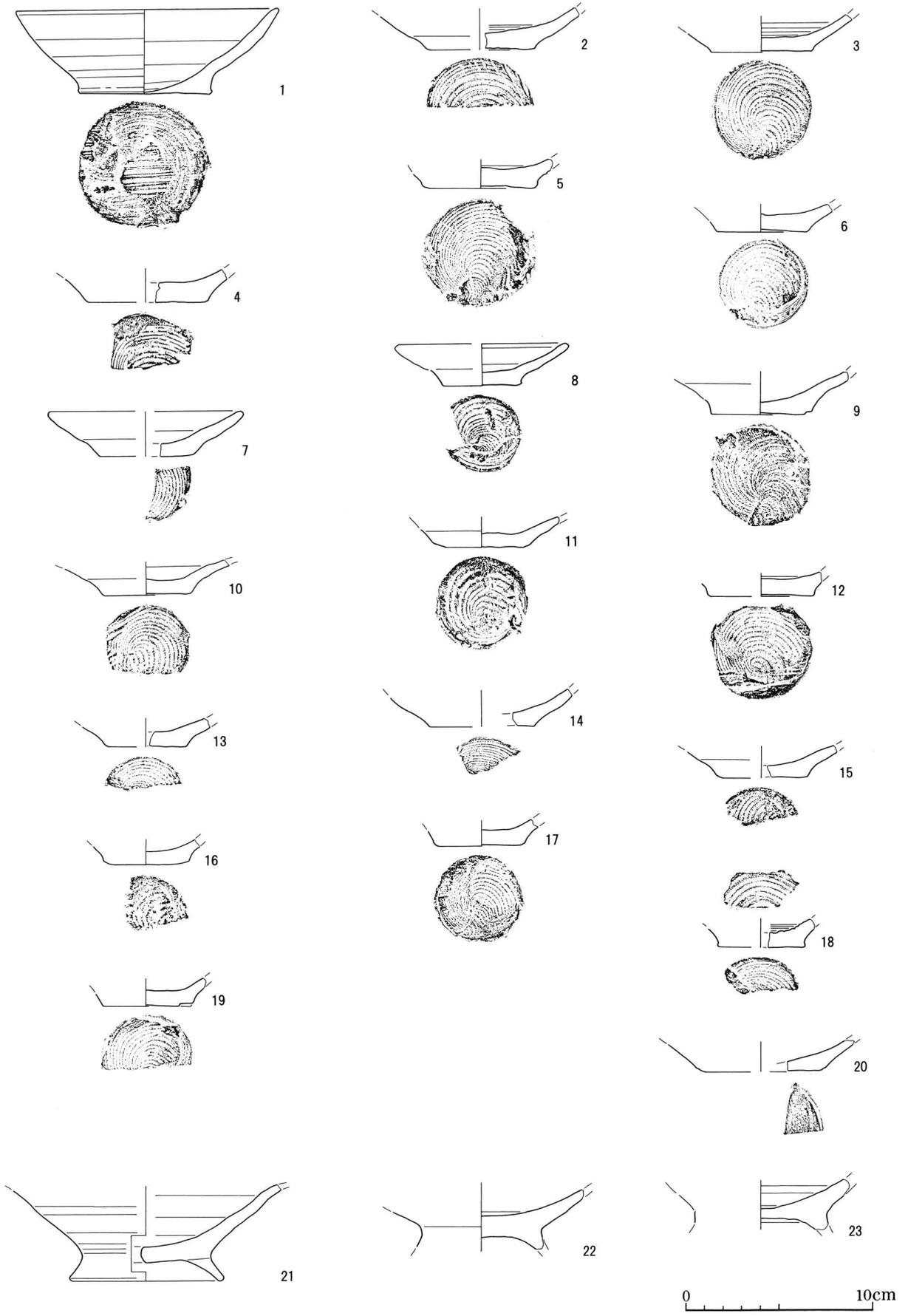
遺物は1・2が縄文土器(五領ヶ台式)である。1は頸部に斜めの集合沈線文が施され、2は縦の沈線により区画され、地文に縄文が施される。遺物は付近に1号土坑があるため、埋積土に混じったものと考えられる。その為、本遺構の時期を特定することが難しい。

4号溝(第40図、図版8、第13表)

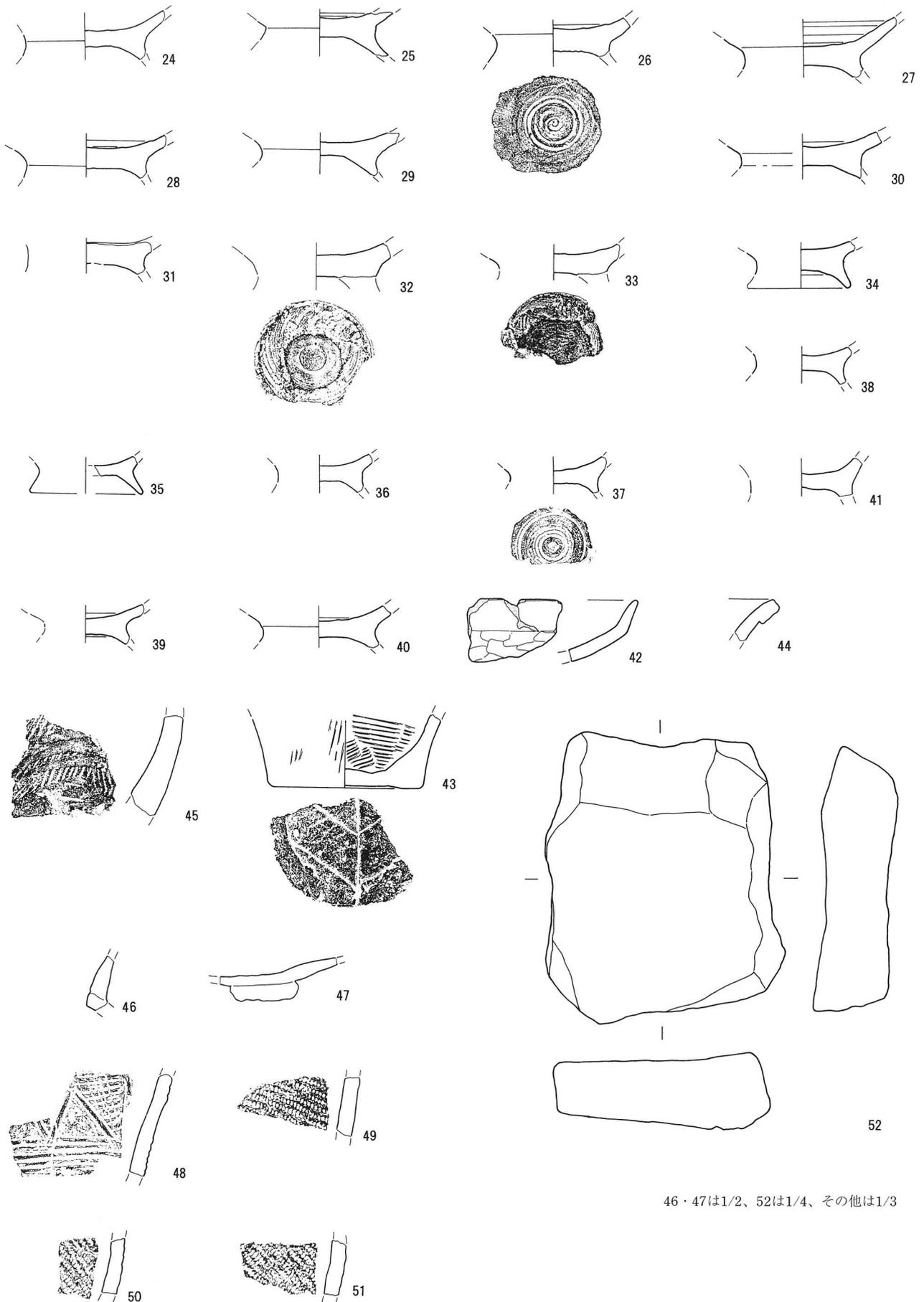
本跡はG-7・8グリットに位置し、13・18・48号土坑を切っている。南北5.7m、幅75cmを確認し、深さ10



第36图 2号溝



第37图 2号沟出土遺物(1)



46・47は1/2、52は1/4、その他は1/3

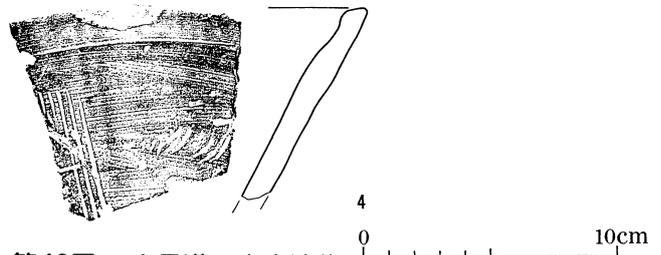
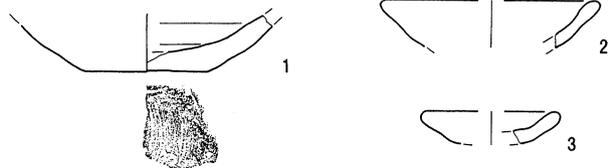
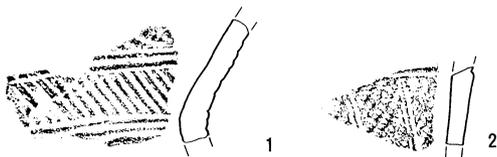
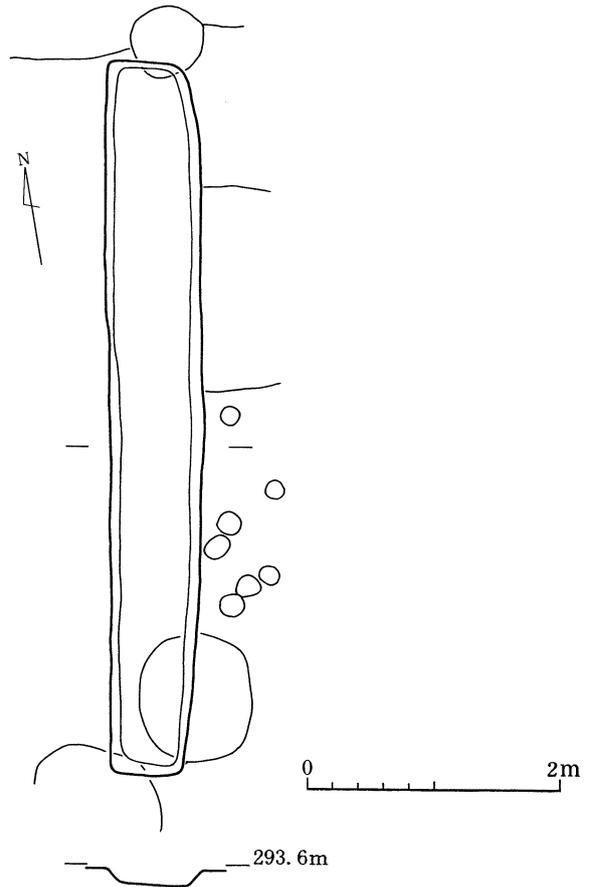
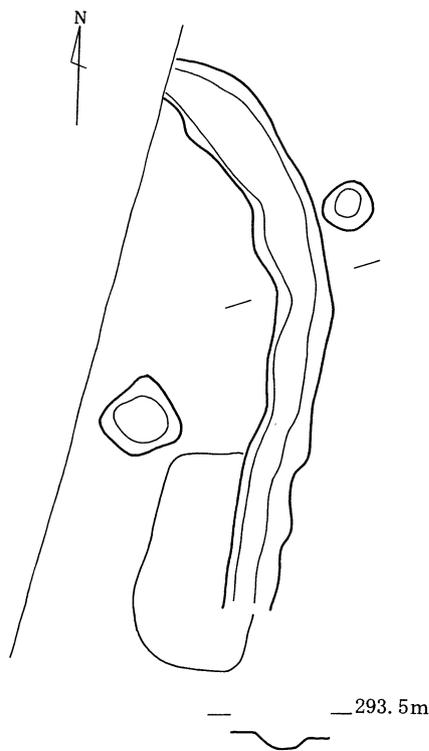
第38図 2号溝出土遺物(2)

第10表 1号溝出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	A区	土師器・坏	6	—	—	2.5YR5/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
2	C区	土師器・坏	—	5.9	—	5YR3/3	不良	金雲母多量	底部糸切り、板状圧痕	
3	D区	土師器・小皿	—	4.4	—	5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
4	D区	土師器・足高高台坏	—	—	—	2.5YR3/2	良	金雲母多量		
5	D区	土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
6	D区	土師器・足高高台小皿	—	—	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
7		土器・かわらけ	10	5.7	2.1	10YR7/2	良	金雲母微量	底部糸切り	内外面に油煙が付着 内面に油煙付着、外面に 吹き零れた痕跡がある。
8		土器・かわらけ	10.3	5.5	2.5	10YR5/2	良	金雲母少量	底部糸切り	
9	C区	土器・かわらけ	8	4.8	1.9	5YR6/6	良	金雲母微量	底部糸切り	
10	C区	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR6/4	良	黒雲母、石英		
11	A区	土器・内耳土器	—	—	—	5YR2/1	良	砂粒多量		
12	C区	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR6/4	良	石英、砂粒多量		
13	A区	土器・内耳土器	—	—	—	5YR6/4	良	砂粒多量		
14		土器・内耳土器	24.4	—	—	2.5YR5/4	良	石英砂、赤色粒		外面下位煤付着
15		土器・内耳土器	—	—	—	—	良	石英砂、赤色粒		外面下位煤付着
16	A区	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR3/2	良	砂粒少量		
17	C区	土器・内耳土器	—	—	—	2.5YR3/1	良	砂粒多量		
18	C区	土器・土釜	15	—	—	7.5YR7/4	良	黒雲母、金雲母	口辺部横ナデ、体部内面 ナデ	
19	C区	土器・搗鉢	—	—	—	10YR7/4	良	粗砂		
20	D区	美濃焼・灰釉大皿	—	—	—	—	—	—	—	古瀬戸後期 (15世紀)
21	A区上層	龍泉窯系・青磁盤	—	—	—	—	—	—	—	中国 14世紀
22	A区	灰釉・長頸壺	—	—	—	2.5Y6/2	良	白色砂微量		
23	D区	土器・内耳土器	—	—	—	5YR4/3	良	砂粒多量		外面下位煤付着
24	C区	縄文・五領ヶ台	—	—	—	2.5YR4/4	良	黒雲母少量		
25	A区	縄文	—	—	—	2.5YR4/4	良	粗砂、黒雲母		
26	D区	縄文	—	—	—	2.5YR4/6	良	黒雲母少量		
27		石鏃	—	—	—	—	—	—	—	
28		凹石	—	—	—	—	—	—	—	
29		石皿	—	—	—	—	—	—	—	

第11表 2号溝出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土師器・坏	14	7	4.8	—	良	金雲母多量	底部糸切り、板状圧痕	
2		土師器・坏	—	5.7	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り、板状圧痕	
3		土師器・坏	—	5.4	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り、板状圧痕	
4	A	土器・かわらけ	—	6.3	—	5YR6/6	良	密	底部糸切り	
5		土師器・坏	—	6	—	7.5YR5/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
6		土師器・小皿	—	4.8	—	5YR4/4	良	金雲母やや多い	底部糸切り	
7		土師器・小皿	10.3	5.2	2.5	7.5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
8	A区	土師器・小皿	9	4.3	2.3	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
9		土師器・小皿	—	5	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り、板状圧痕	
10	C区	土師器・小皿	—	4.6	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り、板状圧痕	
11		土師器・小皿	—	5.1	—	5YR3/3	良	金雲母多量	底部糸切り	
12		土師器・小皿	—	5.5	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り、板状圧痕	
13	A区	土師器・小皿	—	4.3	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
14		土師器・小皿	—	5.6	—	5YR5/6	良	金雲母少量	底部糸切り	
15		土師器・小皿	—	4.7	—	5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
16	C区	土師器・小皿	—	4.6	—	7.5YR3/2	やや不良	金雲母多量	底部糸切り	
17		土師器・小皿	—	4.5	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
18	A区	土師器・小皿	—	4.4	—	5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
19		土師器・小皿	—	4.8	—	5YR3/2	良	金雲母多量	底部糸切り	
20	D区	土師器・坏	—	6.3	—	7.5YR8/3	良	金雲母多量	底部糸切り	15世紀後半
21		土師器・足高高台坏	—	8	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
22		土師器・足高高台坏	—	—	—	5Y4/6	良	金雲母多量、2~3mm白 色粒若干		
23		土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
24		土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR3/4	良	金雲母多量		
25		土師器・足高高台坏	—	—	—	—	良	金雲母多量		
26		土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
27		土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
28		土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
29		土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/3	良	金雲母多量		
30		土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
31		土師器・足高高台坏	—	—	—	2.5YR4/4	不良	金雲母多量		
32		土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
33	A	土師器・足高高台坏	—	—	—	7.5YR3/4	やや不良	金雲母多量		
34		土師器・足高高台小皿	—	—	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
35	A	土師器・足高高台小皿	—	—	—	5YR4/3	良	金雲母多量		
36		土師器・足高高台小皿	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
37	A	土師器・足高高台小皿	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
38		土師器・足高高台小皿	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
39		土師器・足高高台小皿	—	—	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
40		土師器・足高高台皿	—	—	—	5YR3/3	良	金雲母多量		
41	A区	弥生・高坏	—	—	—	5YR5/6	良	細砂	外面赤彩	
42		土師器・坏	—	—	—	10R4/6	良	長石、金雲母微量	口辺部ナデ、体部外面ケ ズリ	
43		土師器・甕	—	8.2	—	—	良	—	体部外面ハケ後ナデ、内 面横ハケ、底部木葉痕	
44	C区	弥生・壺	—	—	—	5YR5/3	良	粗砂	口辺部外面ミガキ	
45		土師器・壺	—	—	—	7.5Y4/2	良	粗砂	体部外面ハケ後ナデ	
46	B	猿投灰釉陶器・長頸壺	—	—	—	—	—	—	—	I G 78 ?
47		猿投灰釉陶器・長頸壺	—	—	—	—	—	—	—	7世紀代
48	C区	縄文・五領ヶ台	—	—	—	5YR5/4	良	黒雲母		
49	A	縄文	—	—	—	5YR4/4	良	黒雲母		
50	A	縄文	—	—	—	5YR4/6	良	黒雲母、石英砂		
51	A	縄文	—	—	—	5YR6/6	良	黒雲母少量		
52		石皿	—	—	—	—	—	—	—	



第39図 3号溝・出土遺物

第40図 4号溝・出土遺物

第12表 3号溝出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		縄文・五領ヶ台	—	—	—	5YR4/6	良	粗砂		
2		縄文・五領ヶ台	—	—	—	7.5YR3/4	良	粗砂、金雲母微量		

第13表 4号溝出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土器・かわらけ	—	—	—	2.5YR6/6	良	金雲母少量		
2		土器・かわらけ	—	—	—	5YR5/6	良	金雲母少量		
3		土器・かわらけ	—	—	—	5YR5/6	不良	金雲母微量		
4		土器・播鉢	—	—	—	7.5YR7/4	良	金雲母微量		

～16.6cmを測る。断面台形を呈し、埋積土は灰褐色土であった。遺物はかわらけ片、播鉢片が出土している。本遺構は他の溝と違い、南北方向に認められ、検出した以上には延びないことを確認した。また、埋積土が耕作土と近似していることから、攪乱の可能性もある。

遺物は1～3がかわらけ、4が在地産の播鉢である。

5号溝（第41図、図版8、第14表）

本跡はG・H-8グリットに位置している。東西方向の溝が検出され、東・西は調査区外に延びている。確認面では集中する礫が溝状に検出され、それを掘り下げると断面U字状をし、大きさは上幅55～115cm、深さ20～27cmを測る溝が現れた。埋積土は多量の大小の礫で充満した茶褐色土である。遺物は大小の礫の間からかわらけ、内耳土器、常滑・甕などの破片が出土した。溝は礫の出土状況から溝の機能が失われた後、礫によって埋められたものと考えられ、遺物はそのときに混じりこんだものと推察される。溝の時期は、出土遺物から15世紀後半には埋め戻されたと考えられ、その存続時期はそれ以前と考えられる。

1は土師器坏、2～6はかわらけ、7は内耳土器、8は瓦器質の鉢、9～11は常滑である。9は内外面に暗緑色の降灰が認められる。

6号溝（第42図、図版8・13・14、第15表）

本跡はF・G-5グリットに位置している。やや蛇行する東西方向の溝で、東・西は調査区外に延びている。断面U字状をし、上幅53～90cm、深さ4.5～6.6cmを測る。埋積土は砂である。図示した遺物の1・6はその出土位置から5号集石遺構の可能性もある。溝は埋積土が砂であったことから河川の氾濫によって埋没した可能性も考えられるが、他に同様の埋積土を伴う遺構が確認されていないことから、5号溝と同様に埋められた可能性がある。溝の時期は周囲の状況から15世紀と考えられる。

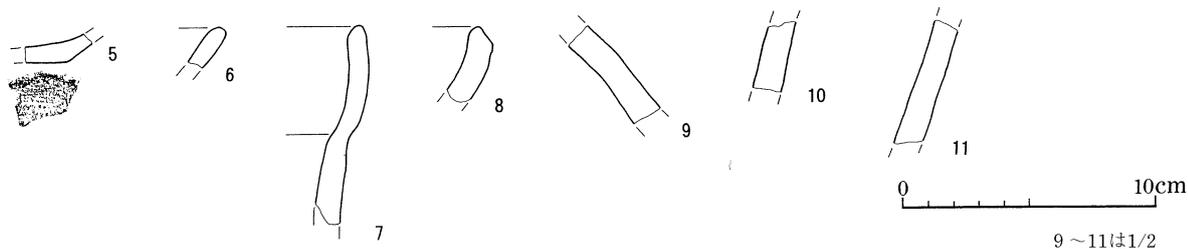
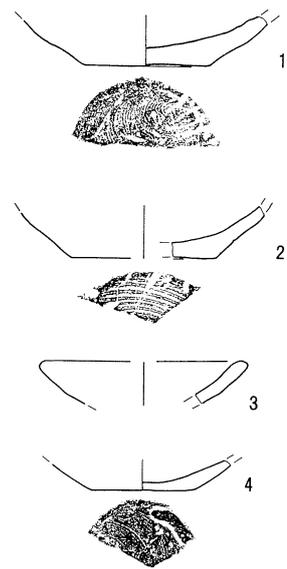
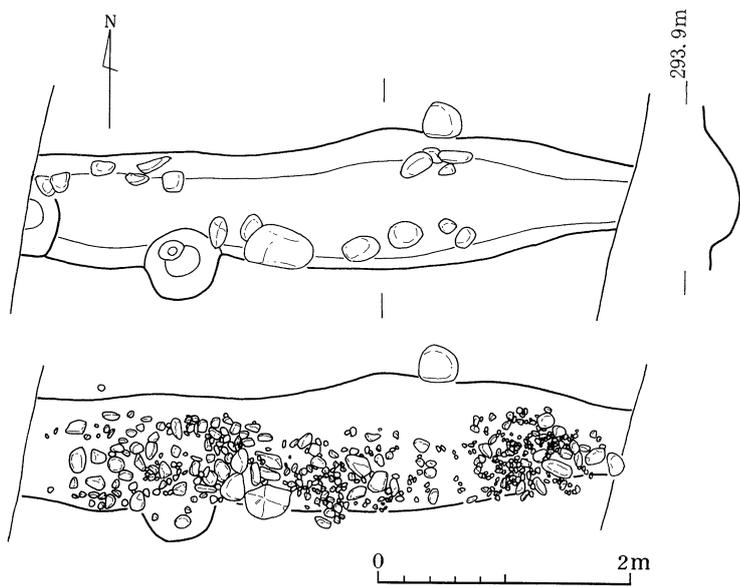
遺物は、1～4がかわらけ、5が常滑、6は在地産の播鉢である。1は内面に漆が塗布されている。

第14表 5号溝出土遺物観察表

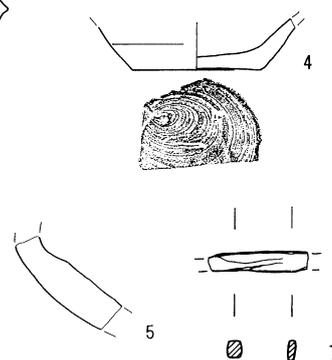
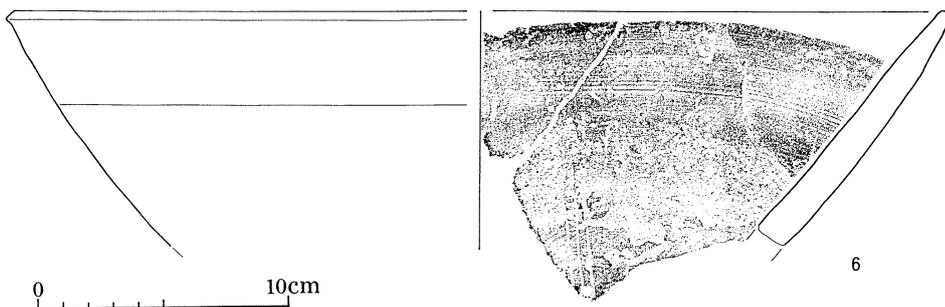
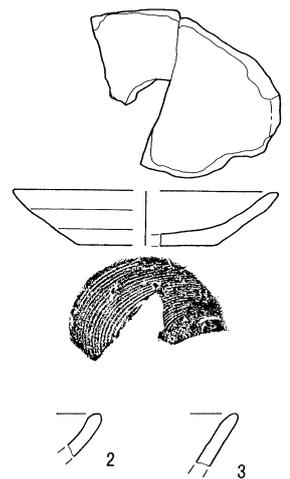
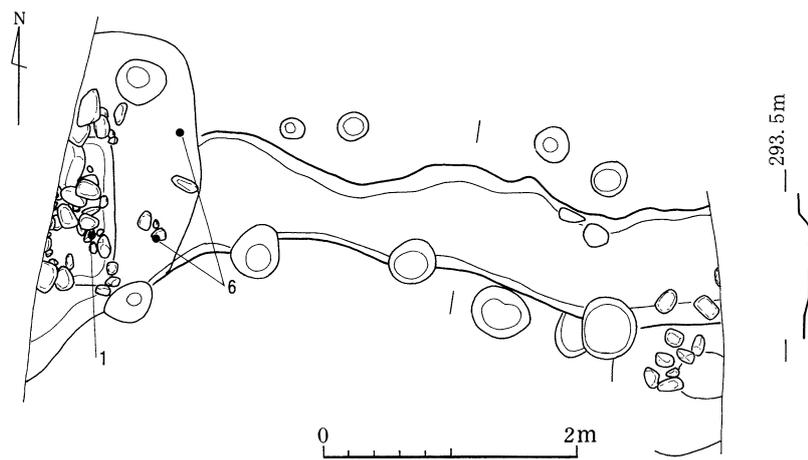
番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土師器・坏	—	4.9	—	5YR5/6	良	金雲母少量		
2		土器・かわらけ	—	5.8	—	7.5YR7/4	良	微砂		
3		土器・かわらけ	7.9	—	—	5YR6/6	良	金雲母少量		
4		土器・かわらけ	—	4.2	—	5YR7/4	良	金雲母微量		
5		土器・かわらけ	—	—	—	5YR7/3	良	金雲母若干		
6		土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR5/4	良	金雲母少量		
7		土器・内耳土器	—	—	—	5YR5/4	良	粗砂		
8		瓦器質・鉢	—	—	—	7.5YR3/1	良	細砂		
9		常滑・甕	—	—	—	10YR2/1	良			
10		常滑・甕	—	—	—	7.5YR4/2	良			
11		常滑・甕	—	—	—	2.5YR2/4	良			

第15表 6号溝出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土器・かわらけ	10.5	5.5	2.2	7.5YR6/3	良	金雲母微量	底部糸切り	内面に漆が塗布される。
2		土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母微量		
3		土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR7/4	良	金雲母、赤色粒微量		
4		土器・かわらけ	—	5.1	—	5YR7/6	良	金雲母微量		
5		常滑・甕	—	—	—	5YR3/3	良	良		
6		土器・播鉢	37	—	—	N3/0	良	細砂、金雲母微量	口辺部横ナデ、横ナデ、体部外面指頭圧痕	
7		不明鉄製品								



第41図 5号溝・出土遺物



第42図 6号溝・出土遺物

5・7は1/2、その他は1/3

d. 集石遺構

1号集石遺構（第43図、図版9・12・14、第16表）

本跡はG-7グリットに位置し、西側が調査区外に延び、4号溝に切られている。また、南東に18号土坑、南に13号土坑が隣接する。平面形は不整円形、大きさは上面290cm、底面276cm、深さ18cmを測る。壁は外傾して立ちあがり、底面はほぼ平坦である。埋積土は茶褐色土。中央より南にかけて礫が集中する。礫は乱雑に積まれている。礫の直上まで耕作が及び、また、礫が調査区外に延びているため全様は不明である。埋積土は茶褐色土。遺物の出土状況は礫群からやや南東側の底面より土釜（6）の破片が潰れた状態で出土した。また、その下位より青磁片（10）が出土した。

遺物は1～5がかわらけ、6・7は土釜、8は内耳土器、9は常滑、10は龍泉窯系・青磁鎚連弁文碗、11は土師器坏である。6は把手が一对と考えられ、中央に外側から破碎した痕跡が認められる。7は外面が熱を受け剥離している。9は外面に一部緑灰色の降灰が認められる。11は南に隣接する5号住居跡のものと判断される。12は鉄滓。

2号集石遺構（第44図、図版9・12・15、第17表）

本跡はG-9・10グリットに位置し、西側調査区外に延びている。また、東に64号土坑が隣接する。平面形は不整形、大きさは南北428cm、東西190cmを確認し、深さ18cmを測る。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面はやや凹凸が認められる。埋積土は暗灰褐色土。遺構は礫層を掘り込んでおり、内部から多量の礫が出土した。礫は整然と配されたものではなく雑然とした状態であった。遺物は約1/2個体の香炉（6）、内耳土器の破片（5）が埋積土中位から出土した。遺構は礫の分布の薄い部分が認められることや土壙墓からの出土の可能性の強い遺物（香炉）が出土したことなどから複数の土坑が重複している可能性も考えられる。

遺物は、1～4がかわらけ、5は内耳土器、6は香炉である。6は1足が遺存し、1足が剥離している。つごう3足と考えられる。7は砥石で四面が使用されている。石材は凝灰岩、重さは185g。

3号集石遺構（第45図、図版14、第18表）

本跡はH-13・14グリットに位置し、西側調査区外に延びている。確認面より掘り込みをもって、礫が多く認められたが掘り込みの形状は不明である。深さは30cmを測る。埋積土は暗茶褐色土である。大小の礫が多く認められたが、纏まりは見うけられなかった。遺物はかわらけ、常滑・甕の破片が出土した。

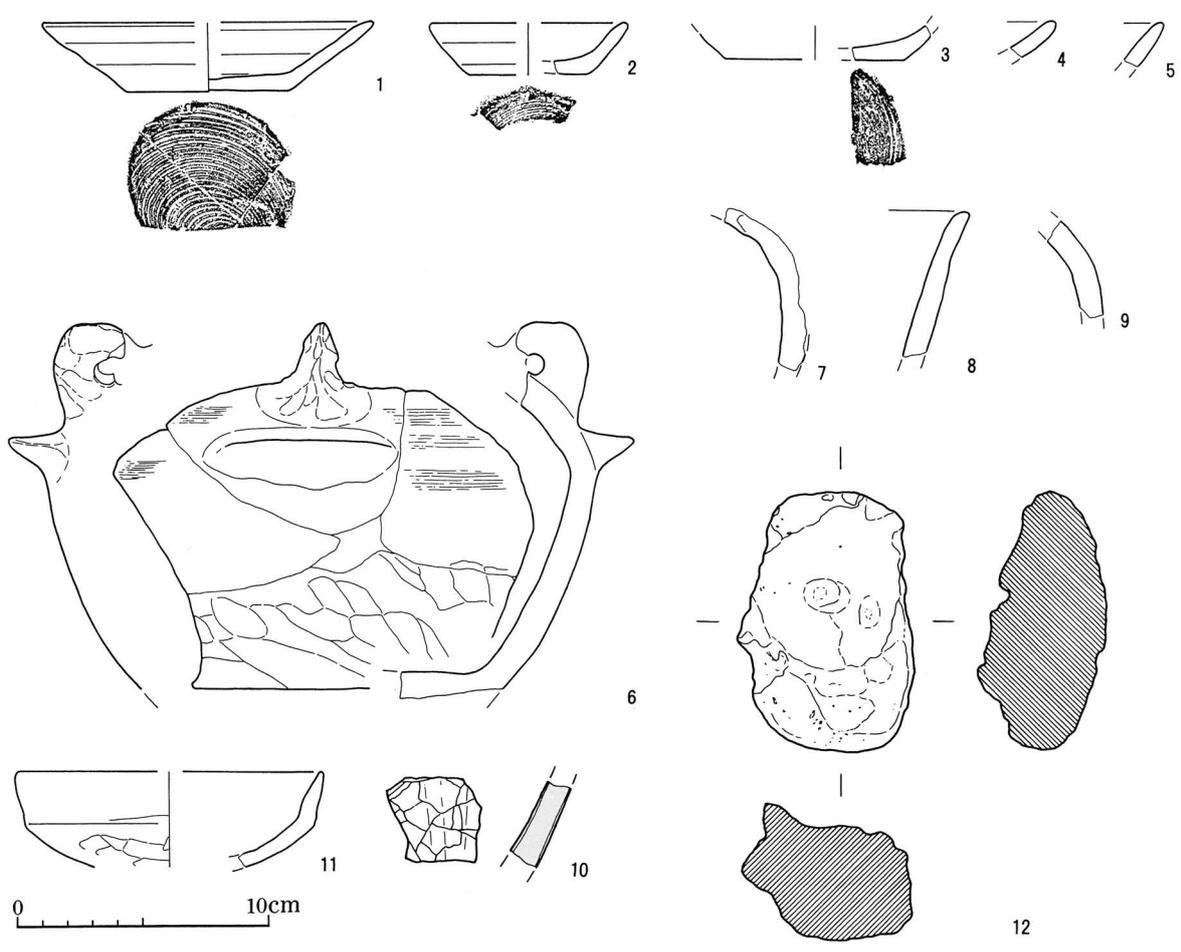
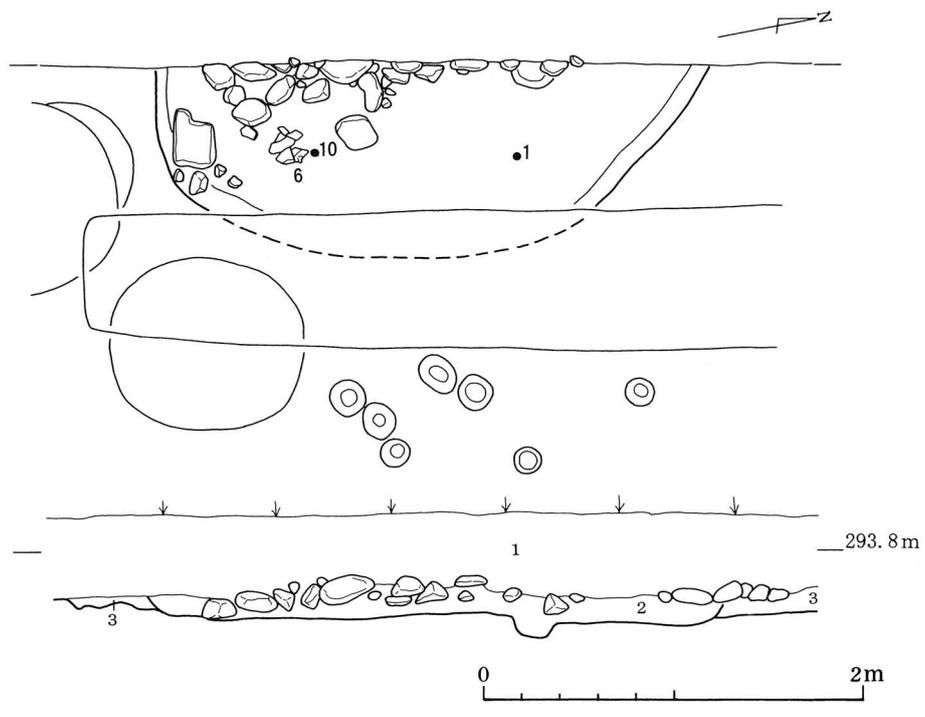
遺物は1がかわらけ、2が常滑である。2は外面に深緑色の釉葉が掛っている。

第16表 1号集石遺構出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土器・かわらけ	13	6.4	2.8	7.5YR7/4	良	微砂	底部糸切り	
2		土器・かわらけ	7.8	4.7	2.1	5YR6/6	良	石英、金雲母微量		
3		土器・かわらけ	—	7.1	—	5YR7/6	やや不良	石英、金雲母微量		
4		土器・かわらけ	—	—	—	5YR7/8	やや不良	金雲母微量、赤色粒少量		
5		土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母微量		
6		土器・土釜	—	—	—	5YR5/6	良	金雲母微量、石英砂	外面下位ケズリ、内面ナデ	外面より破損
7		土器・土釜	—	—	—	7.5YR4/2	良	粗砂、雲母		
8		土器・内耳土器	—	—	—	2.5YR5/6	良	微砂		
9		常滑・甕	—	—	—	5YR3/1	良			
10		龍泉窯系・青磁鎚連弁文碗	—	—	—					中国 14世紀
11		土師器・坏	12.1	—	—	7.5YR3/2	良	雲母	口辺部ナデ、体部ケズリ、内面ミガキ	

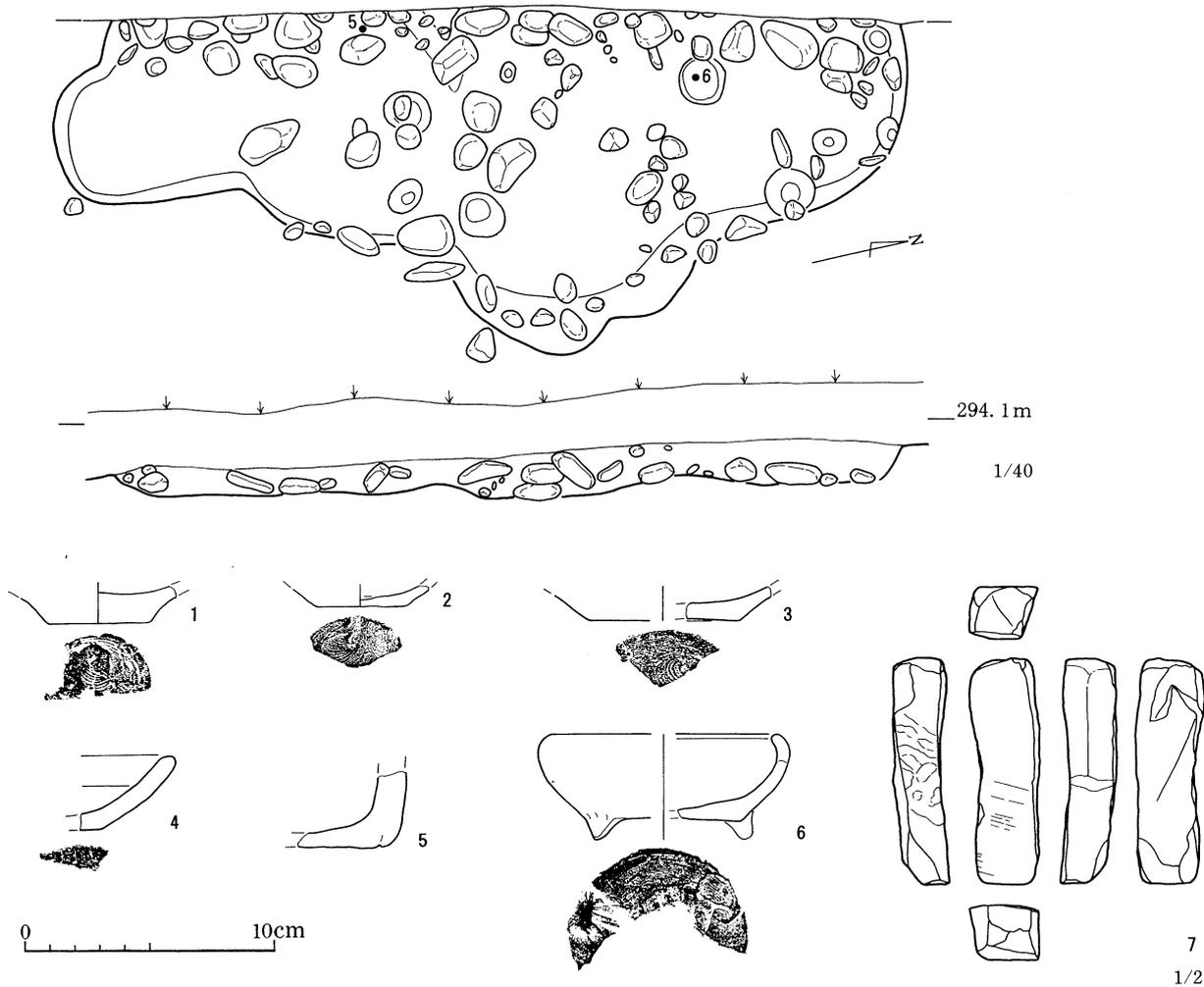
第17表 2号集石遺構出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土師器・坏	—	4	—	5YR6/6	不良	微砂	底部糸切り	
2		土器・かわらけ	—	3.7	—	5YR6/6	良	金雲母微量		
3		土器・かわらけ	—	6	—	5YR7/4	良	赤色粒、金雲母微量	底部糸切り	
4		土器・かわらけ	—	—	3	5YR7/3	良	金雲母少量	底部板状圧痕	
5		土器・内耳土器	—	—	—	5YR7/4	良	細砂、雲母		
6		土器・香炉	9	—	4.4	7.5YR7/3	良	金雲母微量	底部糸切り、3箇所足を貼り付ける	
7		砥石	—	—	—					185 g

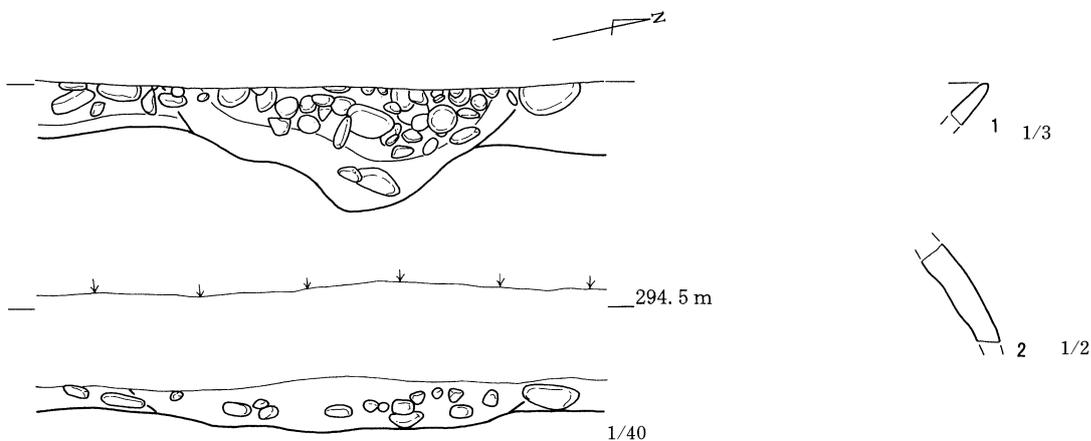


9・10・12は1/2、その他は1/3

第43図 1号集石遺構・出土遺物



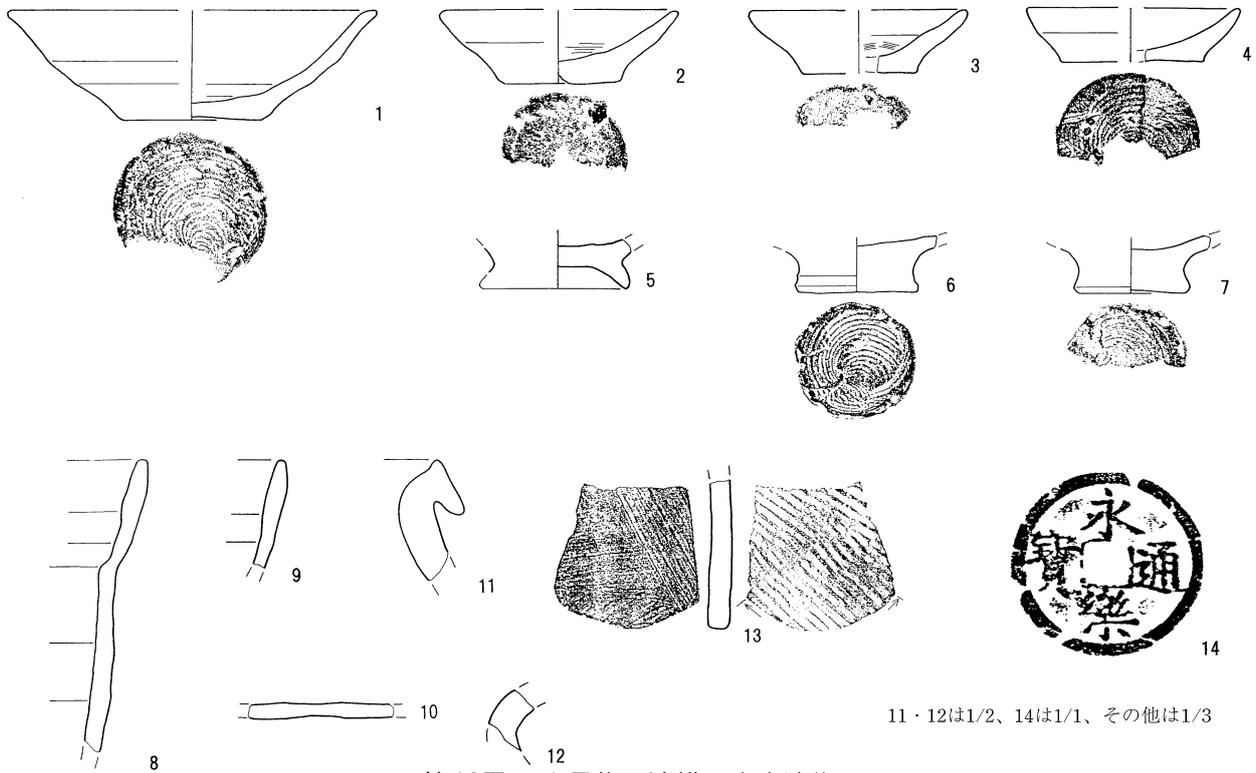
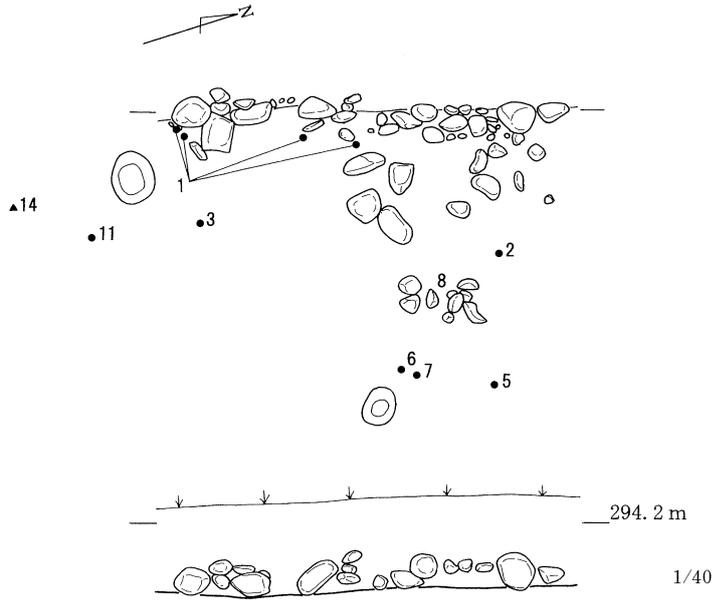
第44図 2号集石遺構・出土遺物



第45図 3号集石遺構・出土遺物

第18表 3号集石遺構出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR7/4	良	細砂		
2		常滑・甕	—	—	—		良			



11・12は1/2、14は1/1、その他は1/3

第46図 4号集石遺構・出土遺物

第19表 4号集石遺構出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土師器・坏	14.4	5.5	4.5	2.5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
2		土師器・小皿	9.2	4.6	3	5YR3/3	良	金雲母多量		
3		土師器・小皿	8.5	4.5	2.6	5YR2/3	良	1mmほどの金雲母多量		
4		土師器・小皿	8.2	5.4	2.2	5YR3/2	良	金雲母多量	底部糸切り	
5		土師器・足高台	—	5.7	—	2.5YR4/4	良	金雲母多量		
6		土師器・柱状高台坏	—	4.8	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
7		土師器・柱状高台坏	—	4	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
8		土器・内耳土器	—	—	—	5YR4/3	良	細砂、石英微量		
9		土器・内耳土器	—	—	—	5YR6/6	良	細砂、石英、雲母少量		
10		土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR4/3	良	細砂、石英		
11		常滑・甕	—	—	—	5YR2/3	良			
12		猿投灰釉陶器	—	—	—					
13		須恵器・甕	—	—	—	N3/0	良	石英砂	外面タタキ	割れ口が磨れる
14		錢	—	—	—					水案通宝

4号集石遺構（第46図、図版9・12・14・15、第19・24表）

本跡はG・H-11グリットに位置している。礫が集中し西側に延びているが、掘り込みを確認することはできなかった。また、礫の上面まで耕作が及んでいた。礫は210×120cmの範囲に乱雑に認められた。遺物は、礫の底面のレベルから土師器柱状高台坏、内耳土器が出土し、やや離れて銭（永楽通宝）が出土した。遺物は遺構内の出土遺物に比べ酸化土が付着したものが多く認められた。本遺構は掘り込みの認められないことや、遺物の出土状況に不自然な点があるため、遺構とは判断しがたい。

遺物は、1は土師器坏、2～4は土師器小皿、5は足高高台小皿、6・7は柱状高台皿、8～10は内耳土器、11は常滑、12は猿投、13は須恵器、14は銭である。8・9は同一個体である。11は口辺部内面に緑灰色の降灰が認められる。12の内面に緑色の釉が認められる。13は割れ口の一面が磨れている。

5号集石遺構（第47図、図版9）

本跡はF-5・6グリットに位置し、礫が集中して確認され、西側調査区外に延びているのを確認した。また、6号溝と切り合っている。掘り込みは2段に掘りこまれ、上面は不整形をし、下段は隅丸方形をしている。大きさは上面285×112cmを確認し、下段は120×48cmを確認した。上段の深さは12cm、下段の深さは12cmを測る。礫は下段を中心に広がり、部分的に積み重ねられた部分も認められた。埋積土は灰褐色土である。遺物の出土状況は礫の周囲の上段から出土している。

6号集石遺構（第48図、図版9・12、第20表）

本跡はG-5グリットに位置している。礫が若干集中している。6号溝と切り合い、溝の南側に浅い掘り込みを確認した。平面形は不整形と推測され、大きさは計測不能。深さは4.5cmを測る。埋積土は淡茶褐色土。遺物の出土状況は6号溝の調査区壁で土釜が出土した。土釜（4）は1号集石でも出土し、同様に礫が認められることから同種の遺構と判断した。

遺物は、1・3は土師器皿、2はかわらけ、4は土釜、5は砥石である。4は把手が一對と考えられ、把手の位置に接合痕が認められる。5は3面が使用され、石材は頁岩、重さは4gである。

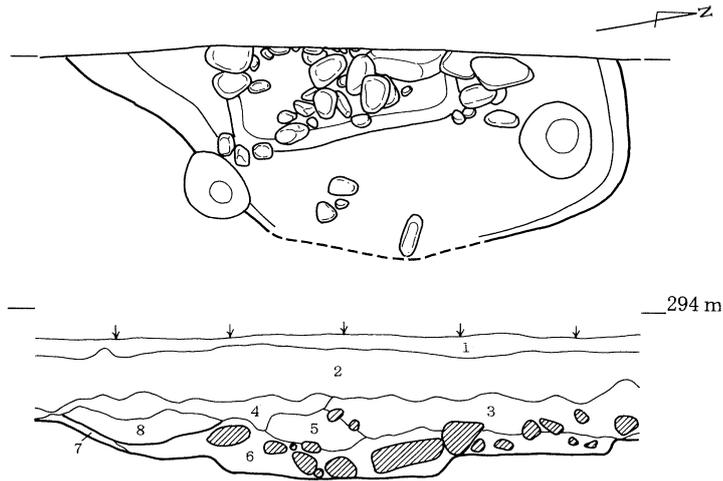
5. 遺構外出土遺物（第49～54図）

1号溝確認面出土遺物（第49・50図、図版15、第21表）

遺物については遺構確認作業のためサブレンチの掘削を行った際の遺物が含まれている。そのため、12～26は2号溝に含まれる確率が高く、27・44は土壙墓の遺物の可能性がある。1～7は縄文土器で、1・2・5・7は五領ヶ台式土器である。8・11は古墳時代の土師器坏、須恵器である。12は土師器坏、13～15・28は土師器皿、16～26は土師器足高高台坏・皿である。27・29・30はかわらけ。27は完形品でロクロ整形、口縁部は棒状の工具によりナデが行われている。32～36は内耳土器。33は耳の部分がわずかに認められる。32は直立するタイプで33～36はやや外傾するタイプである。32は16世紀、他は15世紀。37・38は在地産の播鉢である。39・40は陶器。40は渥美焼、灰緑色の降灰が掛る。39は越前焼の可能性もある。深緑色の釉。42・43は薄片、44は硯、45は打製石斧、46～48は磨り石、49は石皿である。42・43は黒曜石とともに1g未満である。44は硯の縁から岡までが遺存し、石材は輝緑凝灰岩、重さは21g。45は重さ94g。46は一面に磨り面が認められ、石材は玢岩、重さは109g。47は花崗岩、重さは171g。48は先端を欠損し、一部磨り面が認められ、石材は安山岩、重さは297g。49は花崗岩、重さは421g。50は鎌状の鉄製品、右端が内側に折れ曲がる。

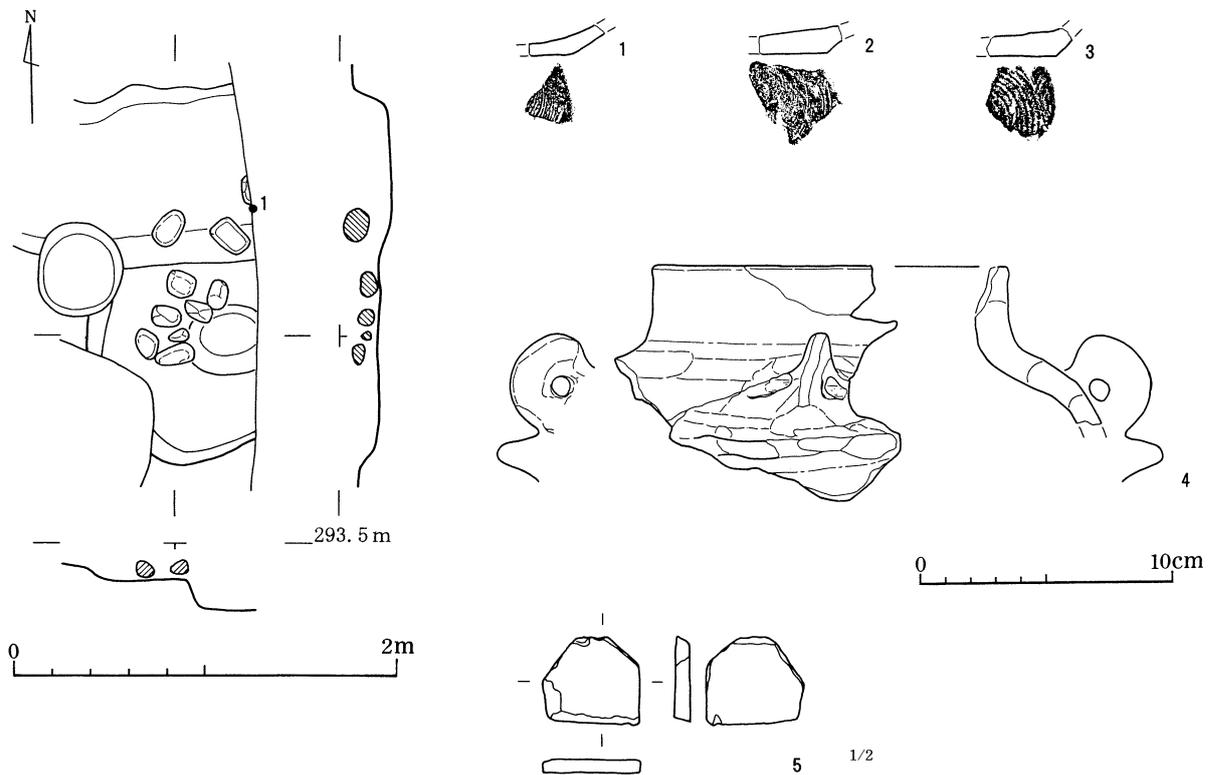
グリット出土遺物（第51～53図、図版14・15、第22表）

23・24は土師器小皿、25・26は足高高台皿、27は柱状高台皿である。24～26は表面剥離している。9～11・21・46はかわらけ。6・14～16・29・48～50は在地産の播鉢である。15は割れ口が磨れており、砥石として再



- 5号集石遺構
1. 黒色土 (耕作土)
 2. 灰色土 (縮まりなし、径3～5mm粗砂少量含む)
 3. 赤褐色土 (縮まりなし、灰色土が鉄分により赤化する、径2～3mm礫多く含む)
 4. 赤褐色土 (縮まりなし、砂多く含む)
 5. 灰色土 (やや赤化、砂礫塊含む)
 6. 灰褐色土 (縮まりなし、径2～3mm礫少量含む)
 7. 淡褐色土 (ソフト、径3cm黒色土塊含む)
 8. 灰色砂 (灰色土若干含む)

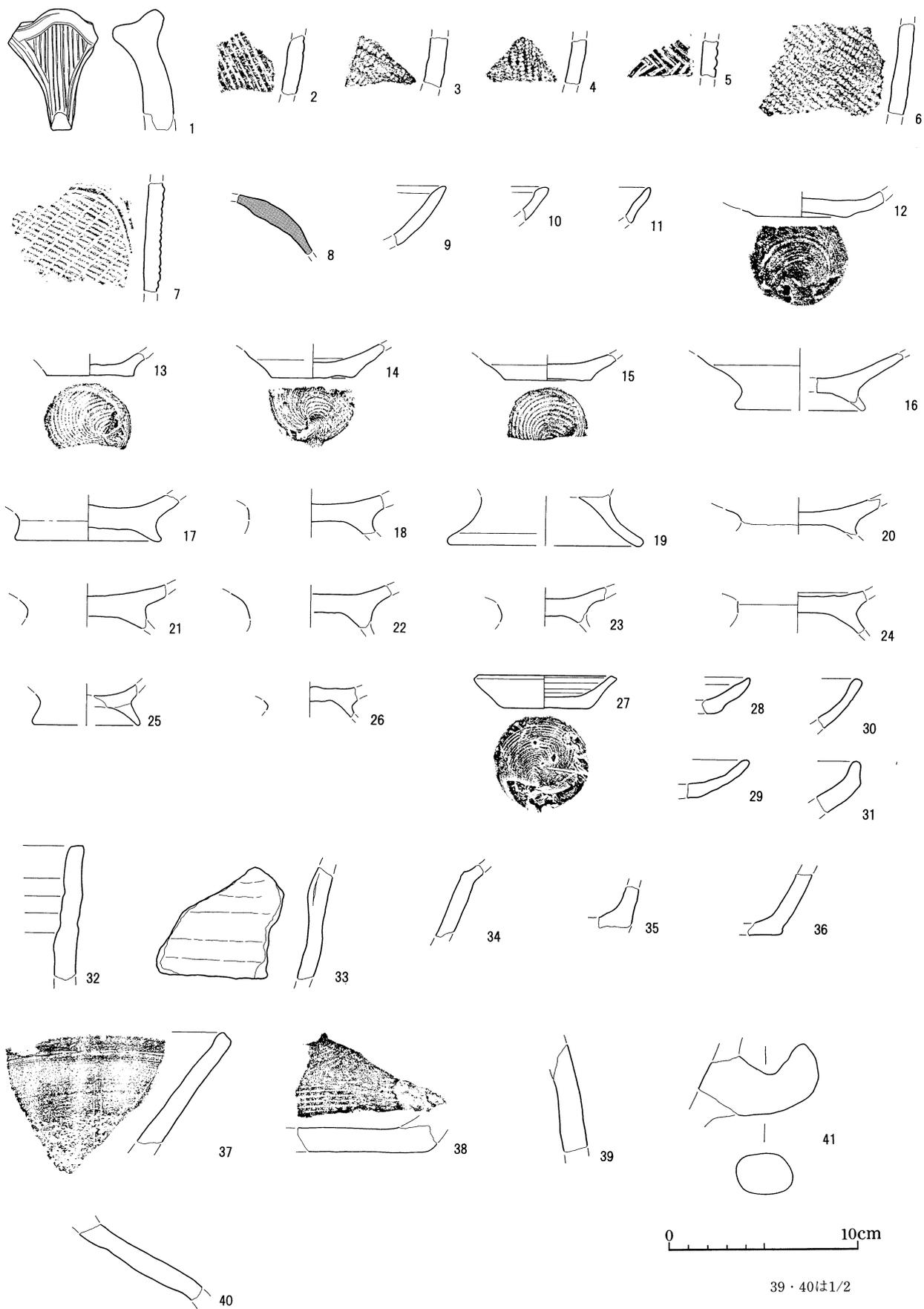
第47図 5号集石遺構



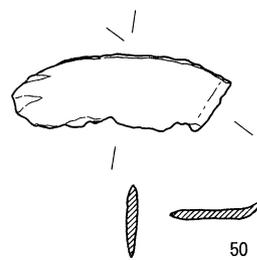
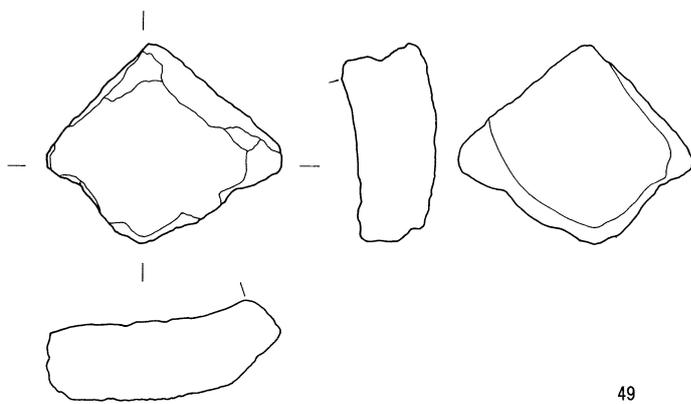
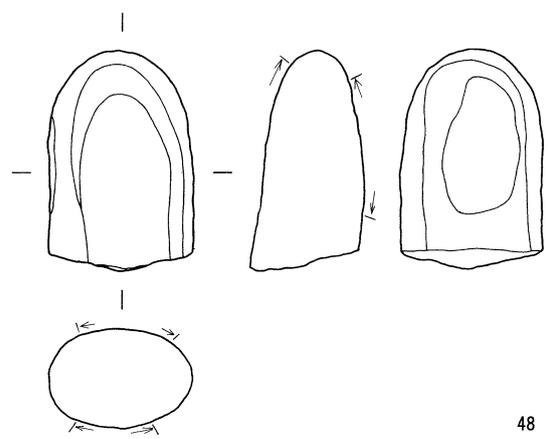
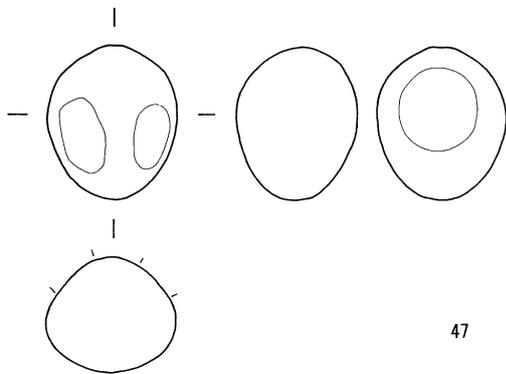
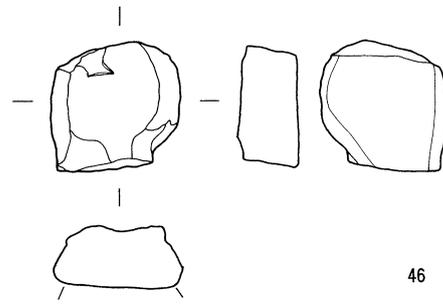
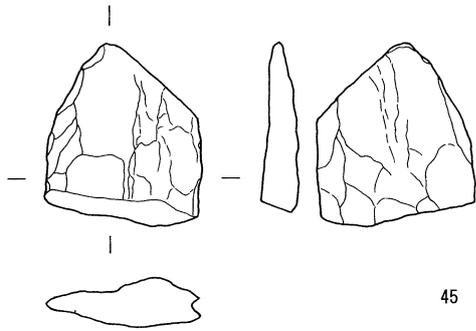
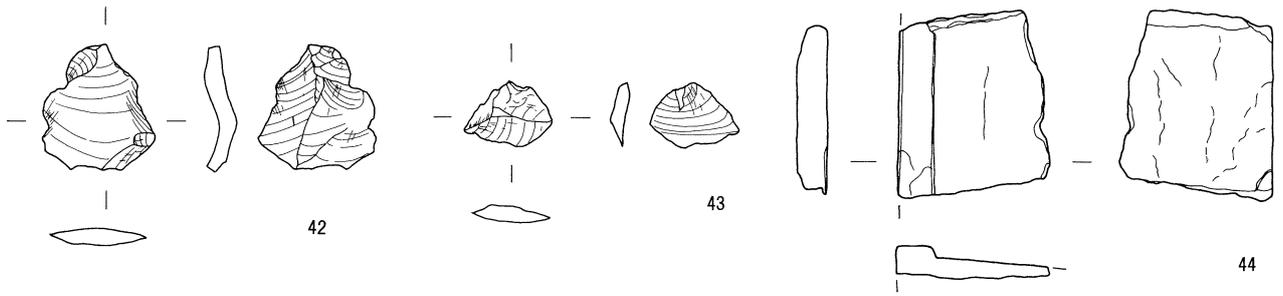
第48図 6号集石遺構・出土遺物

第20表 6号集石遺構出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1		土師器・皿	—	—	—	5YR7/6	良	微砂	底部糸切り	
2		土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/4	良	石英砂	底部糸切り	
3		土師器・皿	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母多い	底部糸切り	
4		土器・土釜	13.8	—	—	2.5YR6/6	良	細砂、金雲母微量	口辺部横ナデ、体部内面ナデ	
5		砥石	—	—	—					



第49図 1号溝確認面出土遺物(1)



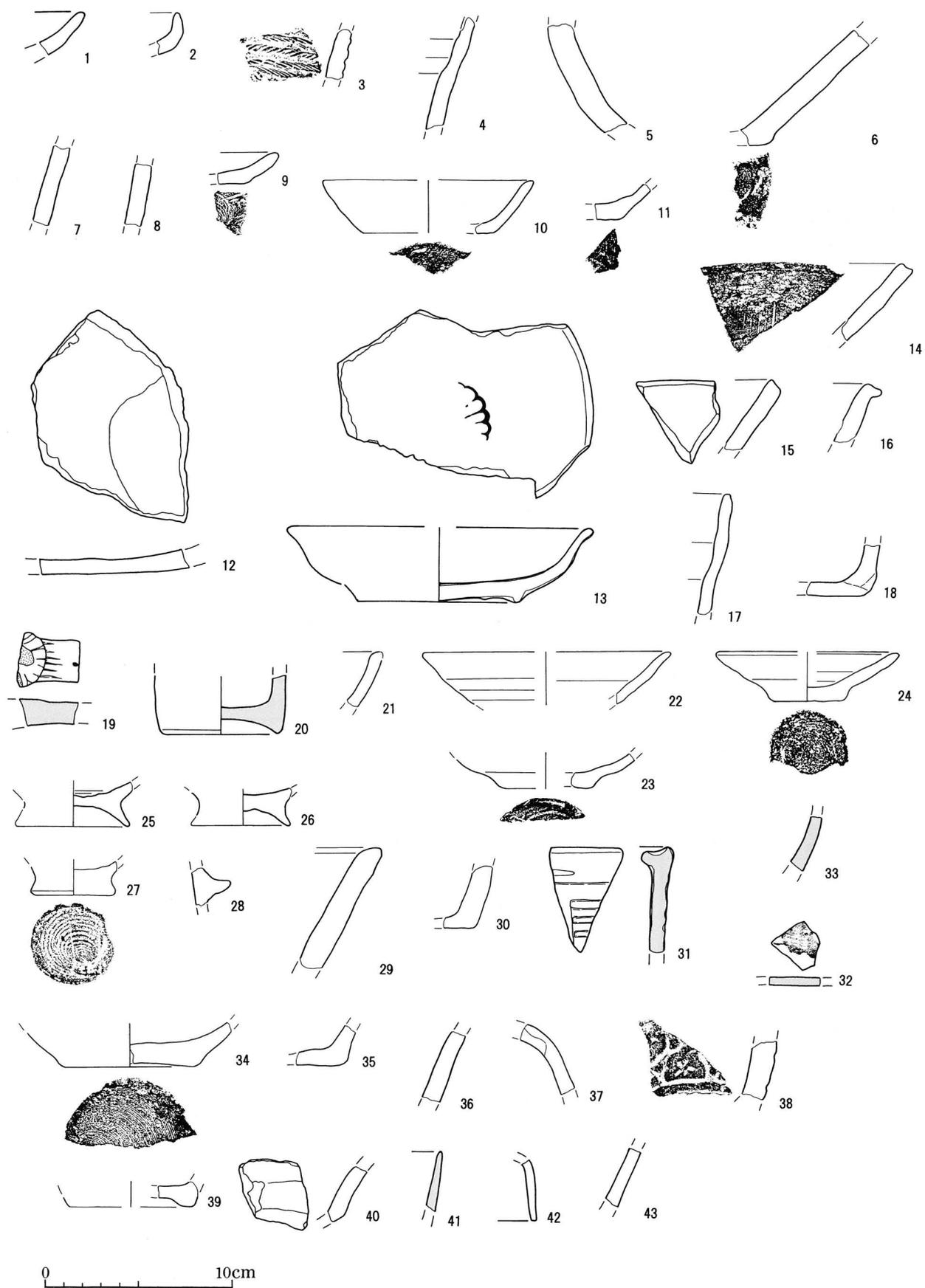
42・43は1/1、50は1/2、
44～48は1/3、49は1/4

第50図 1号溝確認面出土遺物(2)

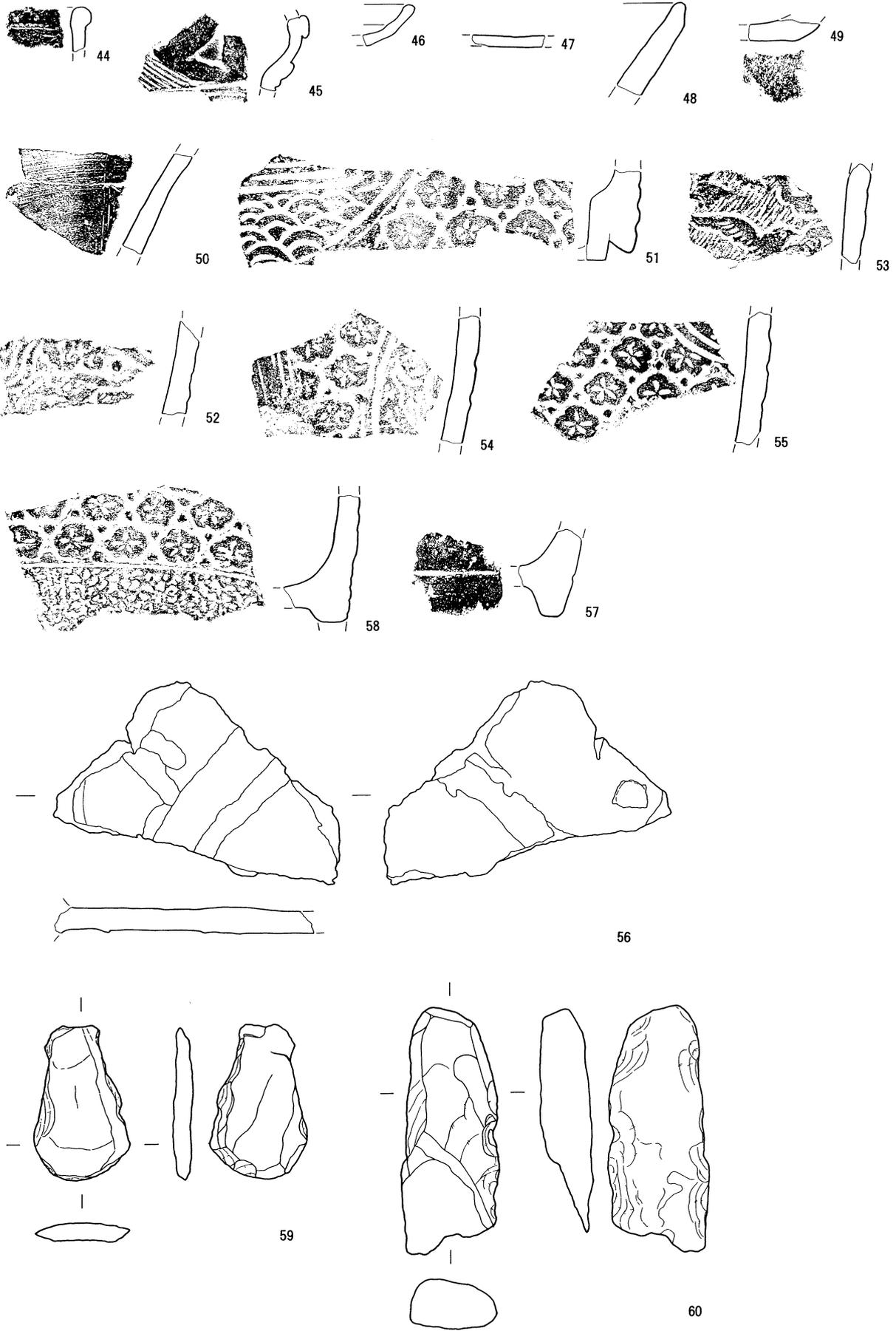
利用されたものかと推測される。29は片口が認められる。4・7・8・17・18・30・35・47は内耳土器である。17は内面に耳を持つと推定される。1・13・40・42・43は美濃、12・41は瀬戸、5・37は常滑、19・20・32は肥前系である。5は外面に淡緑色の釉が認められる。12は見込に円形の無釉がある。13は見込に菊花文の押印が認められる。31・33は貿易陶磁である。36は須恵器。内面に緑灰色の降灰が認められる。38、51～57は瓦質の火鉢で、同一個体と推定される。3・44・45は縄文。3は諸磯、44は撚糸文系。59・60は打製石斧である。59はホルンフェルス、重さは59g。60は刃部を欠損し、石材は花崗岩、重さは197g。61は鑿状の鉄製品、左端は刃部を形成するものか曲がっている。ただし、錆が付着しており現状では判断が付きにくい。62は棒状の鉄製品、中央に鐔状の突起が認められるが、刃部は認められない。63、64は同一個体で、釘である。断面方形で、頭部が平坦に曲げられている。

第21表 1号溝確認面出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色 調	焼 成	胎 土	器形・調整の特徴	備 考
			口径	底径	器高					
1	A	縄文・五領ヶ台	—	—	—	5YR5/4	良	黒雲母、粗砂少量		
2	E	縄文・五領ヶ台	—	—	—	2.5YR4/4	良	黒雲母		
3	F	縄文	—	—	—	5YR5/4	良	黒雲母		
4	A	縄文	—	—	—	7.5YR6/4	良	黒雲母		
5	A	縄文・五領ヶ台	—	—	—	5YR4/4	良	黒雲母		
6	A	縄文	—	—	—	5YR7/4	良	石英、黒雲母		
7	F	縄文・五領ヶ台	—	—	—	5YR4/4	良	黒雲母		
8	E	須恵器	—	—	—	5B5/1	良	粗砂少量、白色粒	外面ケズリ	古墳時代
9	B	土師器・坏	—	—	—	2.5YR4/6	良	金雲母少量、細砂		
10	B	土師器・小皿	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母少量	内面に煤付着	
11	B	土師器・坏	—	—	—	N2/0	良	微砂		古墳時代
12	B	土師器・坏	—	5	—	2.5YR5/6	不良	粗い、石英、金雲母		10世紀後半
13	B	土師器・小皿	—	4.7	—	5YR4/4	良	金雲母、礫少量		
14	B	土師器・小皿	—	4.4	—	7.5YR4/3	良	金雲母多量		
15	E	土師器・小皿	—	4.7	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
16	C	土師器・足高高台坏	—	6.7	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
17	C	土師器・足高高台坏	—	7.5	—	5YR4/4	良	金雲母多量		
18	B	土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR5/6	良	金雲母多量		
19	A	土師器・足高高台坏	—	10.3	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
20	E	土師器・足高高台坏	—	—	—	5YR5/6	良	金雲母多量		
21	D	土師器・足高高台	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
22	B	土師器・足高高台	—	—	—	5YR5/6	良	金雲母多量		
23	A	土師器・足高高台皿	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母多量		
24	D	土師器・足高高台坏	—	—	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
25	E	土師器・足高高台皿	—	—	—	5YR4/4	良	金雲母、白色粒、黒雲母		
26	B	土師器・足高高台皿	—	—	—	7.5YR3/2	良	金雲母多量		
27	A	土器・かわらけ	7.2	4.6	1.8	5YR6/6	良	金雲母少量	ロクロ整形、口縁部を棒状工具でなでる	
28	A	土師器皿	—	—	—	7.5YR6/6	良	石英砂		12世紀後半
29	B	土器・かわらけ	—	—	2.1	7.5YR7/6	良	金雲母微量		
30	F	土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR8/4	良	石英砂		
31	B	土師器・	—	—	—	10YR4/1	良	石英、黒雲母		
32	B	土器・内耳土器	—	—	—	5YR6/6	良	細砂多量、粗い	外面煤付着	
33	F	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR4/3	良	細砂		15世紀中
34	F	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR6/6	良	細砂、金雲母	外面煤付着	15世紀前
35	B	土器・内耳土器	—	—	—	5YR2/3	良	粗砂		15世紀後半
36	B	土器・内耳土器	—	—	—	5YR5/4	良	細砂		
37	B	土器・播鉢	—	—	—	7.5YR7/6	普通	砂礫少量、金雲母		
38	F	土器・播鉢	—	—	—	10YR5/3	普通	やや粗い	火・熱を受ける	
39	E	越前?・甕	—	—	—	7.5YR4/2		やや細かい砂を含む		
40	B	渥美・甕	—	—	—	5Y5/1	良	やや粗砂を含む		12世紀
41	F	土師器・甕	—	—	—	2.5Y5/6	良	微砂		
42	B	薄片	—	—	—					
43	B	薄片	—	—	—					
44	AA-2Gr	硯	—	—	—					
45	B	打製石斧	—	—	—					
46		すり石	—	—	—					
47	C	すり石	—	—	—					
48		すり石	—	—	—					
49	F	石皿	—	—	—				花崗岩・421g	

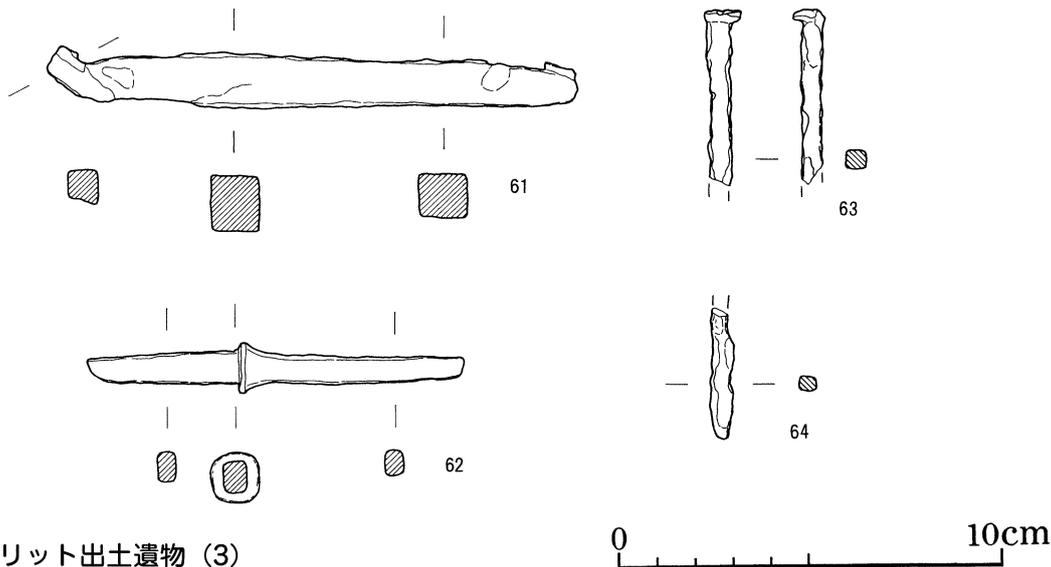


第51図 グリット出土遺物 (1)



第52図 グリット出土遺物 (2)

0 10cm



第53図 グリット出土遺物 (3)

第22表 グリット出土遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	A-2Gr	美濃焼・灰釉丸皿	—	—	—	—	—	—	—	大窯Ib期 (1510~1530年)
2	B-2Gr	土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR5/4	良	石英砂若干	口辺部ナデ、内面ミガキ	
3	B-2Gr	縄文・緒磯	—	—	—	5YR4/6	良	石英、金雲母少量		
4	F-2Gr	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR5/4	良	石英、雲母、粗砂		
5	H-13Gr	常滑・甕	—	—	—	5YR4/3	良	石英砂		
6	F-2Gr	土器・播鉢	—	—	—	7.5YR6/4	良	細砂、赤色粒	内面磨れている	
7	F-2Gr	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR5/3	良	粗砂		
8	F-2Gr	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR6/4	良	黒雲母、粗砂	外面煤付着	
9	F-4Gr	土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR6/4	良	金雲母少量、石英少量		
10	G-6Gr	土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	細砂、石英砂	底部糸切り	
11	G-6Gr	土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR8/4	やや不良	細砂	底部糸切り	
12	F-11Gr	瀬戸焼・灰釉深皿	—	—	—	—	—	—	—	古瀬戸後期 (15世紀)
13		美濃焼・菊花文灰釉端反皿	10.6	5.8	2.7	—	良	—	—	大窯Ib期 (1510~1530年)
14	G-6Gr	土器・播鉢	—	—	—	5YR6/6	やや不良	金雲母微量		
15	G-6Gr	土器・播鉢	—	—	—	5YR4/6	良	金雲母微量		
16	G-6Gr	土器・播鉢	—	—	—	10YR6/4	良	金雲母微量		
17	G-6Gr	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR5/6	良	石英、細砂		
18	G-6Gr	土器・内耳土器	—	—	—	5YR5/6	良	石英、細砂		
19	G-9Gr	肥前系・水注の把手	—	—	—	—	—	—	—	江戸時代
20	G-9Gr	肥前系・鉄釉徳利	—	—	—	—	—	—	—	明治時代以降
21	G-9Gr	土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR6/4	良	金雲母少量		
22	H-11Gr	土師器・坏	13.2	—	—	5YR4/6	—	金雲母多量		
23	H-11Gr	土師器・小皿	—	5	—	7.5YR4/2	良	金雲母多量		
24	H-11Gr	土師器・小皿	9.6	3.8	2.7	5YR4/6	良	金雲母多量		
25	H-11Gr	土師器・足高台皿	—	6	—	5YR4/6	やや不良	金雲母多量		
26	H-11Gr	土師器・足高台皿	—	—	—	5YR4/6	やや不良	金雲母多量		
27	H-11Gr	土師器・柱状高台小皿	—	4.1	—	5YR4/4	良	金雲母多量		12世紀後半
28	H-11Gr	土師器・羽釜	—	—	—	5YR5/6	良	石英、金雲母		
29	H-13Gr	土器・播鉢	—	—	—	5YR4/1	良	石英砂、金雲母微量		
30	H-11Gr	土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR5/3	良	石英砂		
31	H-11Gr	龍泉窯系・青磁算木文香炉	—	—	—	—	—	—	—	中国 14世紀
32	H-11Gr	肥前系・須須皿	—	—	—	—	—	—	—	江戸中期
33		磁器碗	—	—	—	—	—	—	—	
34	I-2Gr	土師器・坏	—	6.8	—	2.5YR4/6	良	金雲母多量		
35	H-13Gr	土器・内耳土器	—	—	—	5YR3/2	良	粗砂		
36	H-13Gr	須恵器・甕	—	—	—	N3/0	良	やや粗い		
37	H-13Gr	常滑・甕	—	—	—	2.5YR4/3	不良	粗砂少量		
38	H-13Gr	瓦質・火鉢	—	—	—	2.5Y3/1	—	—		
39	H-13Gr	瓦質・鉢	—	—	—	N3/0	良	金雲母微量		
40	H-13Gr	美濃焼・灰釉皿	—	—	—	—	—	—	—	古瀬戸後期
41	H-13Gr	瀬戸焼・口銚青磁皿	—	—	—	—	—	—	—	大正~昭和
42	H-13Gr	美濃焼・汽車土瓶の蓋	—	—	—	—	—	青白色釉	—	多治見の陶人舎製 (昭和30年代)
43	H-13Gr	美濃焼・葉味播鉢	—	—	—	—	—	—	—	昭和時代
44	I-14Gr	縄文・燃糸	—	—	—	5YR7/3	良	黒雲母多い		
45	I-14Gr	縄文・五領ヶ台	—	—	—	7.5YR4/2	良	石英砂多く、金雲母微量		
46	I-14Gr	土器・かわらけ	—	—	—	10YR8/3	良	黒雲母微量		
47	I-14Gr	土器・内耳土器	—	—	—	2.5YR4/0	良	細砂多い	内面煤付着	
48	I-14Gr	土器・播鉢	—	—	—	5YR6/6	やや不良	細砂、金雲母微量		
49	I-14Gr	土器・播鉢	—	—	—	5YR4/3	良	粗砂		
50	I-14Gr	土器・播鉢	—	—	—	10YR7/3	良	微砂		
51	I-14Gr	瓦質・火鉢	—	—	—	N2/0	—	—	梅花文、波文	
52		瓦質・火鉢	—	—	—	N2/0	—	—	—	
53		瓦質・火鉢	—	—	—	N2/0	—	—	鳥文	
54	I-14Gr	瓦質・火鉢	—	—	—	N2/0	良	細砂、金雲母微量	梅花文、茄子	
55		瓦質・火鉢	—	—	—	N2/0	—	—	梅花文	
56		瓦質・火鉢	—	—	—	N2/0	—	—	—	
57		瓦質・火鉢	—	—	—	N2/0	—	—	—	
58		瓦質・火鉢	—	—	—	N2/0	—	—	梅花文	
59	G-11Gr	打製石斧	—	—	—	—	—	—	59g	
60	H-11Gr	打製石斧	—	—	—	—	—	—	197g	

表採遺物（第54図、図版14・15、第23・24表）

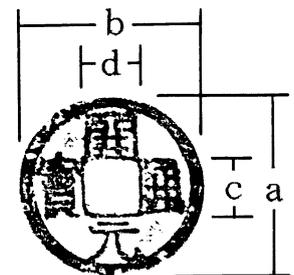
1～3・5・7～13はかわらけ、4・6は土師器坏、14は土師器柱状高台皿、15～17は内耳土器、18～23は在地産の播鉢、28・29は美濃焼、30は瀬戸焼、24・38は常滑、31・37・39は肥前系、32・33・35・36は貿易陶磁。26は縄文、25は瓦。24は内面に緑色の降灰が認められる。40～42はB-2グリットの排土より採取したもので3枚が重なって確認された。42は繊維が付着している。41、42は判読不明。40は「宣徳通宝」（1433）、径25.4×25.6mm、厚さ11mm、重さ1.8g。41は径23.0×23.0mm、厚さ1.3mm、重さ2.64g。42は径24.5×24.2mm、厚さ2.3mm、重さ2.65g。44は棒状鉄製品。

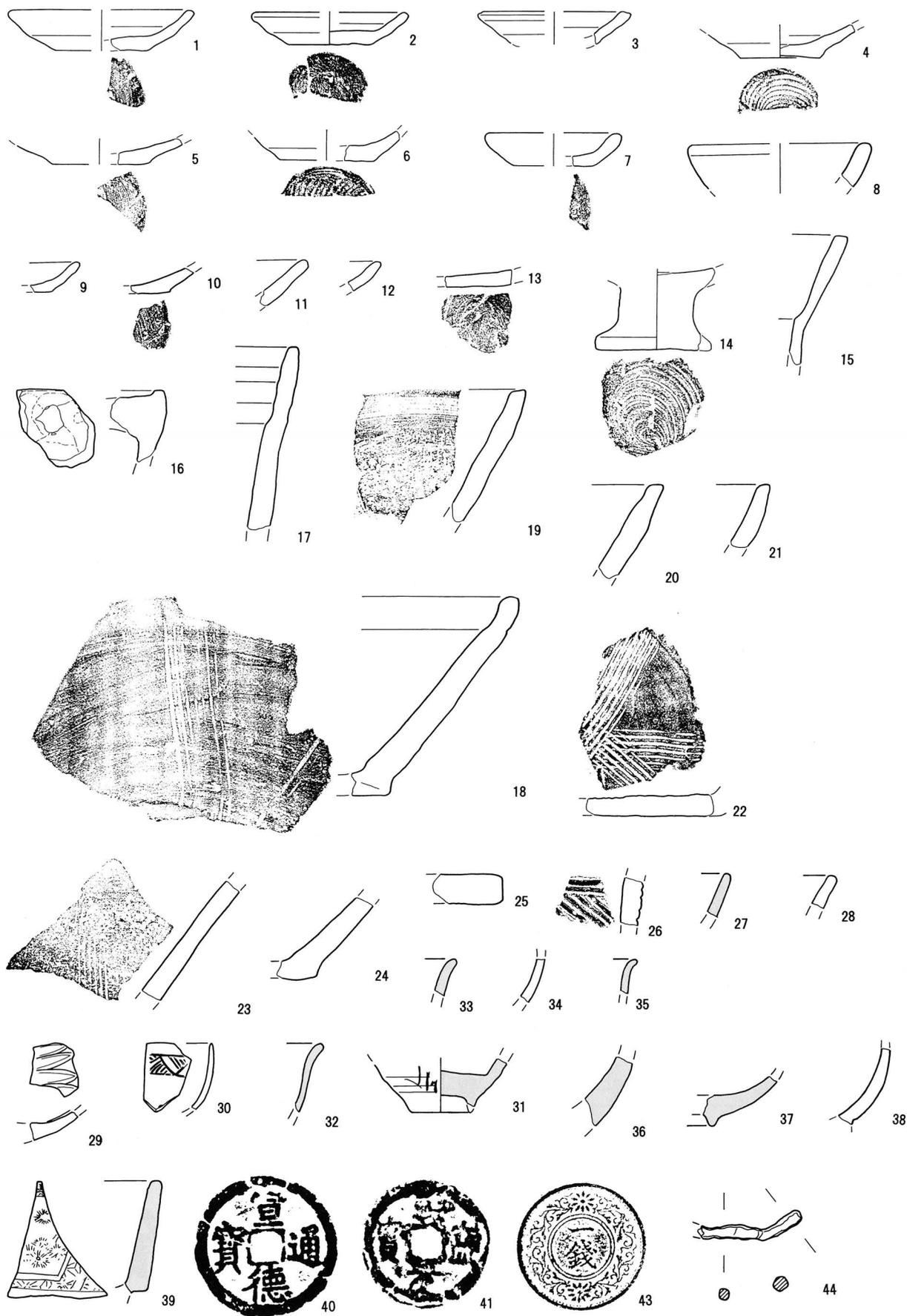
第23表 表採遺物観察表

番号	出土位置	種別・器種	寸法 (cm)			色 調	焼 成	胎 土	器形・調整の特徴	備 考
			口径	底径	器高					
1		土器・かわらけ	9.4	4.9	2.2		良	金雲母微量	底部糸切り	
2		土器・かわらけ	8	4.4	1.8	5YR6/6	良	石英砂、金雲母少量	底部糸切り	
3		土器・かわらけ	7.5	—	—	7.5YR7/4	良	石英、金雲母少量		
4		土師器・坏	—	4.3	—	5YR4/4	良	金雲母多量	底部糸切り	
5		土器・かわらけ	—	5.4	—	7.5YR7/4	やや良	石英、金雲母少量	底部糸切り	
6		土師器・坏	—	5	—	5YR4/6	良	金雲母多量	底部糸切り	
7		土器・かわらけ	6.9	4.2	1.8	7.5YR8/4	良	石英・金雲母微量		
8		土器・かわらけ	9.5	—	—	—	良	石英		火・熱を受ける
9		土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母少量	底部糸切り	
10		土器・かわらけ	—	—	—	7.5YR7/6	良	石英	底部糸切り	
11		土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	やや不良	金雲母微量		
12		土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	黒雲母少量		
13		土器・かわらけ	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母少量	底部糸切り	
14		土師器・柱状高台皿	—	—	—	5YR3/4	やや不良	金雲母多量	底部糸切り	
15		土器・内耳土器	—	—	—	5YR4/2	良	細砂、金雲母微量		
16		土器・内耳土器	—	—	—	5YR5/6	良	石英砂		
17		土器・内耳土器	—	—	—	7.5YR6/6	良	白色粒多い	口辺部横ナデ	
18		土器・播鉢	—	—	—	5YR5/6	良	粗砂、金雲母	内面ナデ、ハケ目	
19		土器・播鉢	—	—	—	7.5YR7/3	良	石英砂、金雲母微量	口辺部横ナデ、内面ハケ目	
20		土器・播鉢	—	—	—	5YR6/6	良	金雲母微量		
21		土器・播鉢	—	—	—	5YR4/2	良	石英砂、金雲母少量		
22		土器・播鉢	—	—	—	7.5YR6/4	良	石英、金雲母多い	内面ハケ目	
23		土器・播鉢	—	—	—	5YR7/6	良	赤色粒、金雲母微量	外面指頭圧痕	
24		常滑・甕	—	—	—	5YR6/4	良	—		
25		瓦	—	—	—	N3/0	良	細砂、金雲母微量		
26		縄文・五領ヶ台	—	—	—	5YR4/3	良	粗砂		
27		陶器皿	—	—	—	—	—	—		
28		美濃焼・灰釉皿	—	—	—	—	—	—		大窯期
29		美濃焼・折縁ソギ皿	—	—	—	—	—	—		大窯後期 (1580～1605年)
30		瀬戸焼・磁器酒杯	—	—	—	—	—	—	内面呉須絵	昭和時代
31		肥前・呉須草花文小坏	—	—	—	—	—	—		1680～1740年
32		白磁皿	—	—	—	—	—	—		中国 15・16世紀
33		白磁皿	—	—	—	—	—	—		中国 15・16世紀
34		益子焼・土瓶	—	—	—	—	—	—		明治・大正
35		白磁皿	—	—	—	—	—	—		中国 15・16世紀
36		同安窯青磁・櫛描文碗	—	—	—	—	—	—		中国 13世紀
37		肥前系・クローム釉絵 青磁皿	—	—	—	—	—	—		大正～昭和
38		常滑焼・急須	—	—	—	—	—	—		昭和時代
39		肥前系・丸型段重	—	—	—	—	—	—		江戸後期～明治
40		銭	—	—	—	—	—	—		
41		銭	—	—	—	—	—	—		
42		銭	—	—	—	—	—	—	繊維付着	
43		銭・1銭	—	—	—	—	—	—		

第24表 出土銭計測表

番号	初鑄年	a (mm)	b (mm)	c (mm)	d (mm)	厚さ (mm)	重さ (mm)	備 考
29-22	元祐通宝 (1086)	24.8	25	5.8	5.75	1.35	3.98	
29-23	元豊通宝 (1078)		24.1	6.8	6.55	1.3	2.73	
29-24	延寧通宝 (1454)	24.5	24.5	4.8	5	1.4	2.61	
29-25	開元通宝 (621)	24.4	24.4	7.1	7	1.15	1.88	
29-26	永樂通宝 (1408)	24.8	24.9	5.8	5.95	1.2	2.24	
29-27		24.3	24.6	6.45	6.8	1.2	2.93	
29-33	治平通宝 (1064)	22.75	23.8	7	6.9	1.2	1.27	
29-43	嘉祐元宝 (1056)	25.25	25	6.3	6.3	1.45	2.48	
29-44	開元通宝 (621)	24.55	24.6	6.9	6.85	1.15	2.52	
29-45	治平元宝 (1064)	24	24.2	7.5	7.35	1.2	2.43	
29-46	嘉祐通宝 (1056)	24.75	24.7	7	7.2	1.2	2.15	
29-47	元符通宝 (1098)	24.9	25	5.9	6.2	1.3	3.2	
29-48	元祐通宝 (1086)	23.9	24	6.85	7.5	1.2	2.51	
30-67	元口通宝	22	23.75	6.5	6.85	1	1.53	
30-68	洪武通宝 (1368)	23	23.15	6	6.3	1.4	2.3	
46-14	永樂通宝 (1408)	25	25.15	5.75	5.85	1.1	1.5	
54-40	宣徳通宝 (1433)	25.4	25.6	4.5	5.1	1	1.8	
54-41		23	23	5.15	5.4	1.3	2.64	
-42		24.5	24.2			2.3	2.65	繊維付着





1~26は1/3、27~39・44は1/2、
40・41・43は1/1

第54図 表採遺物

第3章 ま と め

今次調査の結果、縄文・弥生・古墳・平安・室町時代の遺構・遺物を確認した。以下に、各時代ごとの概要を記す。

縄文時代の遺構は1号土坑一基のみであるが、遺物の出土状況から墓壙と考えられる。土器は前期初頭五領ヶ台式で、口辺部は集合沈線文、胴部は縄文が施され、五領ヶ台I式と考えられる。外に本時代の遺構は確認できなかったが、1号住居跡、2号住居跡、4号住居跡、1号溝、2号溝、3号溝などの埋積土から土器片が出土し、調査区の南半分には偏っている。また、小片ではあるが、B-2グリッド、ピット28から諸磯式の土器片が出土している。

弥生時代の遺構は住居跡3軒を確認した。2号住居跡は長軸11.8m、短軸9mの楕円形をした大型住居である。中央北寄りに炉が設けられ、柱穴は4ヶ所、南東隅に貯蔵穴を伴った半円形の隆帯を確認した。時期は弥生時代後半から古墳時代初頭にあたる。松ノ尾遺跡は従来、古墳・平安時代の集落遺跡と判断されていたが、近年、松ノ尾遺跡の範囲内より、同時期の遺構が少数ながら確認されている。その結果は今次調査と合わせて十分に集落を予想させるものである。また、大型住居については本県においては南アルプス市長田口遺跡に次ぐ発見例であり、これを特記しておく。

古墳時代の遺構は住居跡を2軒確認した。4号住居跡は西壁にカマドを持つ、一辺4.3mの方形の住居跡である。出土遺物はカマド南脇の土師器坏2点、甕3点、および南西隅の体部下半を欠いた甕の出土状況は使用状況をうかがえる良好な資料といえる。

平安時代の遺構は土坑2基、溝1条を確認した。2号溝は調査区の南端で東西方向に認められ、東は調査区外に延び、南西隅は方向を北に向け調査区外に延びていた。長さ31mを確認し、断面「U」字状を呈する。75号土坑はH-11・12グリッドに位置し、長軸4.8m、短軸1.3mの隅丸長方形の土坑である。80号土坑はD-2グリッドに位置し、長軸2.3mの楕円形を呈する。遺物は土師器坏・小皿、足高高台坏・皿が2号溝、80号土坑から纏まって多く出土したが、そのほとんどは破片である。遺構の時期は11世紀代と判断される。2号溝については、土層観察から流水の痕跡は認められず、南西隅で北に方向を変えることから区画溝の可能性が考えられるが、調査区内で同時期の遺構が少なく、他のグリッドからも出土遺物が認められないため、性格は即断を避ける。

室町時代の遺構は土坑75基、溝3条、集石遺構6箇所である。室町時代は今次調査の主体となる時期のため、各遺構について若干検討したい。

土坑は確認状況から土壙墓とそれ以外のものに分けられ、それらを分類することにした。土坑を分類するにあたって、今次調査で多数認められた円形土坑を基準にし、他の土坑はこれに比較し、形状、大きさ、遺物の有無を考慮に入れI～VI類、7種に分けた。I～V類に関してはその性格から埋葬に係る遺構と判断され、VI類についてはその他の土坑を一括した。(第8表 土坑観察表)

- I類 径170～100cm、深さ34～18cmの円形、楕円形のもの。底面の礫の有無で2種に分け、礫のあるものをIa類、礫のないものをIb類とした。
- II類 径64～80cm、深さ18～46cmの不整形のもの。
- III類 長軸76～180、短軸66～98cm、深さ6～56cmの隅丸方形、隅丸長方形のもの。
- IV類 隅丸方形でIII類より規模の大きいもの。
- V類 地下式坑と考えられるもの。
- VI類 その他、上記の分類に当てはまらないものを一括する。

Ia類は7・8・14・19・21・22・34～36・38・70号土坑の11基である。Ib類は4～6・9～13・15・16・18・20・23・24・26・27・29・30・32・37・39・40・41・65・77・78号土坑の26基である。II類は2・3・

25・31・64号土坑の5基である。Ⅲ類は43～47・52～55・72・73号土坑の11基である。Ⅳ類は74号土坑の1基である。Ⅴ類は42号土坑の1基である。Ⅵ類は17・28・33・48～51・56～63・66～69・71・76・79号土坑の22基である。

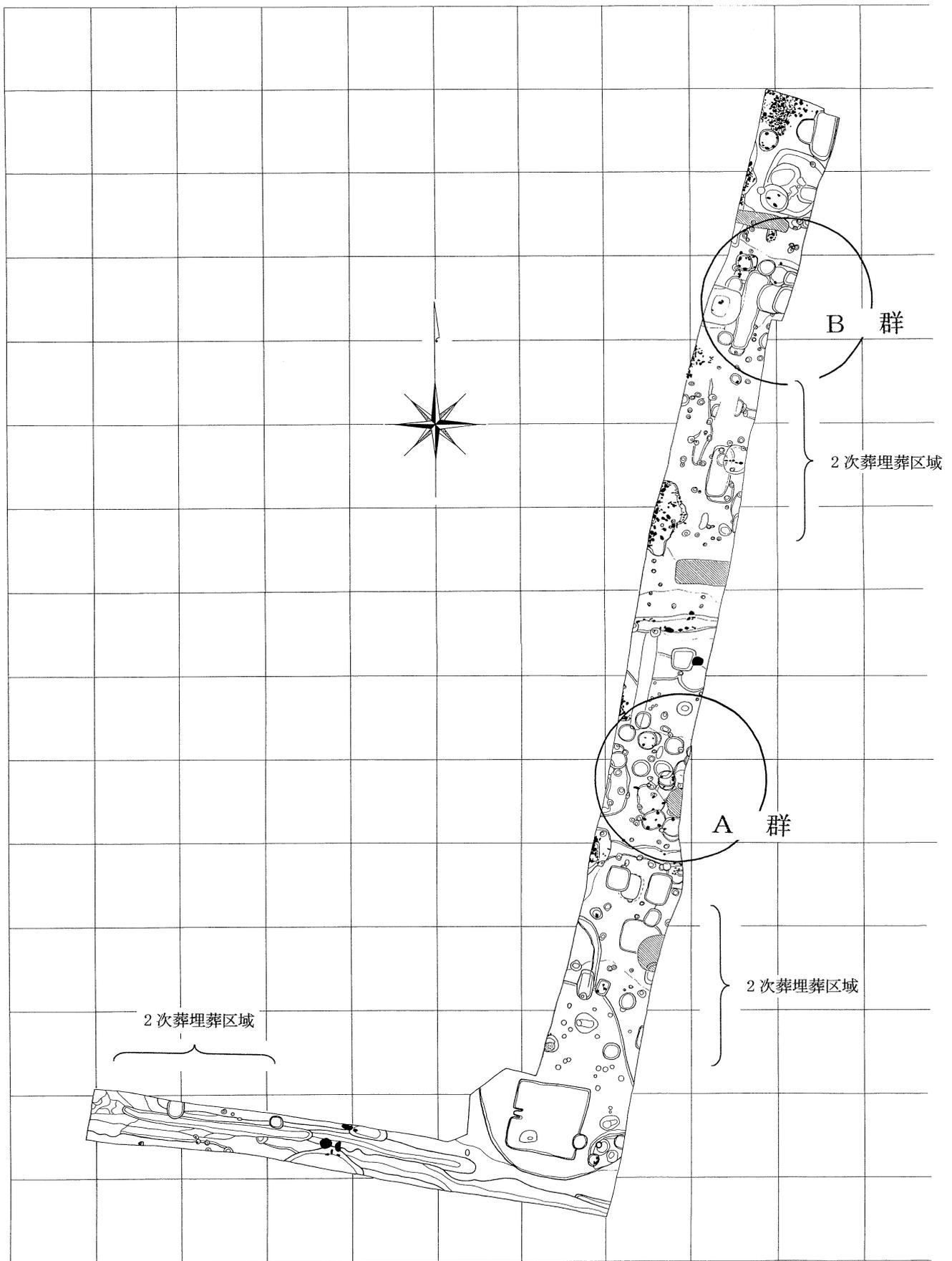
土坑内からの出土遺物はかわらけ、銅銭、陶磁器の破片などである。その傾向は、Ⅰ類からは完形品は認められず、ほとんどが破片である。出土位置も底面上のものもあるが、大方は埋積土中であり、他の遺物も混じったような形跡がある。Ⅱ類は31号土坑では確認面から土師器小皿が出土しているが、底面から銅銭が出土している。Ⅲ類では44号土坑の底面からかわらけ、埋積土より六道銭が出土した。Ⅳ類は74号土坑の底面からかわらけが出土した。Ⅴ類は遺物の出土は認められなかった。以上のようにⅠ類では出土遺物はかわらけ、陶磁器別なく細片が多く、Ⅱ～Ⅳ類は完形のかわらけ、銅銭が出土している。遺物はすべての土坑から出土しているわけではなく、また、銅銭もⅥ類とした土坑からも確認されている。そのため、かわらけ、銅銭のセットがひとつの基準であると想像されるが、すべての土坑に適用されたものではないことはその出土状況によって伺える。

つぎに、それぞれの分布の傾向についてみていきたい。Ⅰ類はG-6・7グリットに16基、H・I-12～14グリットに7基が近接し、第55図に示すように、他の土坑に比べⅠ類の集中が顕著に認められる。そこで、Ⅰ類の集中する土坑群の前者をA群、後者をB群とする。Ⅱ類は31号土坑がH-11グリット、64号土坑がG-9グリットに位置する。Ⅲ類は44、45号土坑がF-4グリット、47号土坑がG-5グリット、54、55号土坑がA・C-2グリットに位置する。Ⅳ類は74号土坑がH-10グリットに位置し、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類ともにその分布域はⅠ類とは重ならないことがわかる。Ⅴ類は42号土坑がG-6グリットに位置し、Ⅴ類の可能性のある68号土坑がI-12グリットに位置している。それぞれは42号土坑がⅠ類のA群、68号土坑がB群の中心に位置する。その結果、土坑の分布は種類によってその分布域を異にすることがわかった。つまり、Ⅴ類を核としたⅠ類の集中する土坑群（A・B群）の存在が認められ、土坑群の形成されない地区にⅡ～Ⅳ類の土坑が分布する。この違いは破片のみ出土するⅠ・Ⅴ類、かわらけ・六道銭のセットが見られるⅡ・Ⅲ・Ⅳ類の出土遺物にも現れていると考えられる。また、土坑ではないが、香炉が出土した2号集石遺構はⅡ～Ⅳ類の土坑の分布域にあり、香炉が埋葬にかかわる遺物であることを予測させる。

土坑を分類するにあたりⅠ～Ⅴ類に関しては埋葬にかかわる遺構と判断した。Ⅰ類については遺骨の認められないこと、遺物の少ないことなどが地下式坑と共通するところがある。地下式坑が肉体と骨との分離を目的とした1次葬の概念で捕らえらるるとすれば、Ⅰ類とした土坑はその機能を持って構築されたものと判断される。そこで、改葬後の土坑は規模の大きな墓穴は必要とせず、Ⅱ類やⅢ類の小規模なもので足りたものとする。今次調査では1次葬としてのⅠ類の土坑と2次葬に使用された土坑が見事に分離し、二者の埋葬地の違いとなって現れたものと考えられる。また、地下式坑は15世紀後半には終焉を迎えることから、今次調査で確認した土坑群の時期も出土遺物から15世紀後半から16世紀と考える。

土壙墓についてまとめてきたが、Ⅵ類とした土坑のうち、二、三特徴的な土坑の説明を行いたい。Ⅰ類土坑のB群の北側に隣接する79号土坑は、出土した炭化物・焼土と土壙墓に隣接していることから野外調査をおこなっている時点では茶毘所の可能性があると考えていた。しかし、調査区内からは火葬墓は検出されておらず、また、他の茶毘所の検出例からすると79号土坑は規模が大きく、積極的に茶毘所とするのは避けたい。尚、焼土・炭化物が出土していることから他の土坑と区別されるべきものと確信する。また、59、60号土坑については平面が方形を呈し、深さも墓穴より深く、壁が内傾することなどから土倉として使用されたものかと推測される。また、2号掘立柱建物跡が土坑と重複しているが、時期差のある別の遺構か、それとも両者を合わせた遺構なのかは不明である。

溝は1号溝、5号溝、6号溝が相当する。1号溝は調査区の南端を東西方向に認められ、調査区の南西端で北に方向を変えている。断面箱薬研、U字状をし、底面が東から西へ傾斜している。溝の底面に堆積した埋積土から、溝の北側に土塁の存在が推測できる。また、溝は一度の掘り返しが確認できる。5・6号溝も東西方向



第55图 土墳墓概念图

に確認され、断面U字状をしている。1号溝は調査区を東西に通り抜けるものではなく、南西端で方向を変えることから区画溝と判断した。

集石遺構は6箇所を確認した。それぞれが調査区の縁に接して検出したため、全体を確認できるものはなかった。遺構は礫が集中してはいるが纏まりがなく、掘り込みも不鮮明であった。遺物は柱状高台皿（4号集石）、土釜（1・6号集石）など破損品が多く、土釜などは故意に壊された痕跡が認められた。その結果、集石遺構は遺構とは断定しがたい。集石遺構は他の遺構に比べ、多量の礫が集中することを特徴としていることから、土壙墓上面にあったと予測される礫や地山の礫層などの礫を集めた結果このような状況になったものと判断される。

総括

松ノ尾遺跡の調査は今回で9回目を数える。今までの調査から松ノ尾遺跡は古墳・平安時代の集落遺跡と判断され、また、古代においては寺院あるいは官衙関連遺跡の存在を推測できる遺物が出土しているものの、いまだに遺構は確認されていない状況である。今次調査の結果、縄文・弥生・古墳時代ではそれぞれに時期に集落の存在が推測でき、今までの調査結果を追認する形となった。しかし、古代末から中世にかけては、第Ⅶ次調査において、一辺約5.2mの竪穴状石組み遺構が確認されているのみである。今回の調査で確認した溝・土坑群は松ノ尾遺跡内で本格的な中世遺構の確認となった。

今次調査では、前記したように、遺物をほとんど含まない1次葬に伴った土壙墓と、かわらけ、六道銭を伴った土壙墓の立地が明らかに隔絶しており、埋葬の形態が土壙墓の選地に係りのあるものと判断した。この墓地の形成にあたって大規模な土地の改変が行われたであろうことは、それ以前の遺構・遺物のあり方や集石遺構の存在によって明らかである。遺物の時期によって土壙墓群は16世紀代を中心とし、それ以降の時期は認められないものと判断される。また、調査区南端で確認した2本の溝の存在によって、墓地が形成される以前から溝によって他地域と隔絶した存在であったと推定できる。しかし、土地の改変（墓地の造成）によってそれ以前の遺構の大半が消滅したものと推定され、遺構の性格を推測することはできない。ただし、1号溝の埋積土から館跡の可能性があると教示された。

その結果、当調査区は松ノ尾遺跡の範囲の北端に位置し、松尾神社に隣接していることから、従来の調査によって確認された古墳・平安時代の集落とは別の、古代末から中世における松ノ尾遺跡の中心付近に位置しているものと考えられる。

写真図版



1 調査区全景（北から）



2 1号住居跡全景（北から）



3 2号住居跡全景（南から）

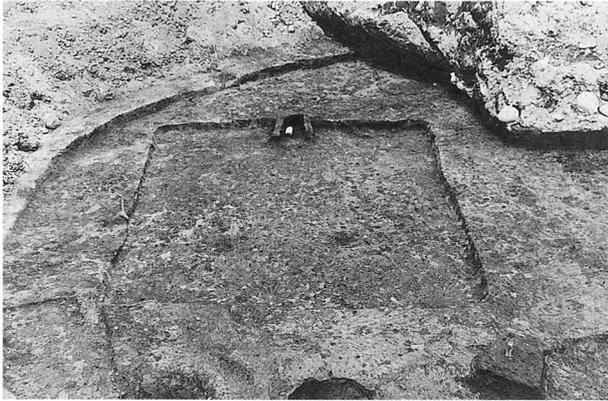


4 2号住居跡貯蔵穴（南から）



5 3号住居跡全景（西から）

図版 2



1 4号住居跡全景（東から）



2 4号住居跡カマド（南東から）



3 4号住居跡遺物出土状況（東から）



4 4号住居跡遺物出土状況（南から）



5 4号住居跡遺物出土状況（東から）



6 4号住居跡遺物出土状況（東から）



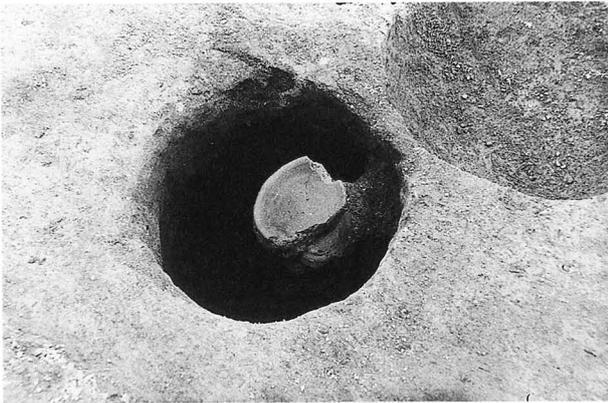
7 5号住居跡全景（東から）



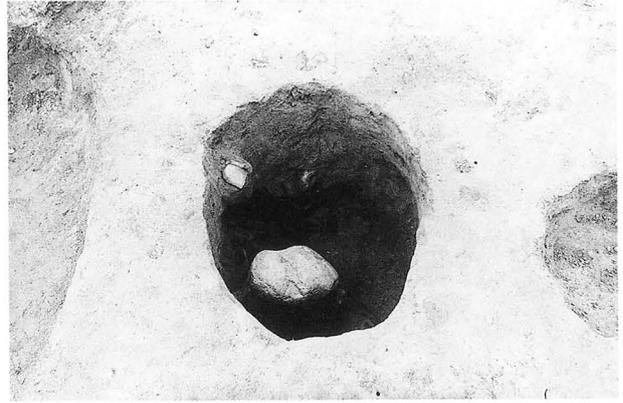
8 5号住居跡遺物出土状況（南から）



1 土坑A群全景（北から）



2 ピット54遺物出土状況（南から）



3 1号土坑全景（南から）



4 5号土坑全景（南から）

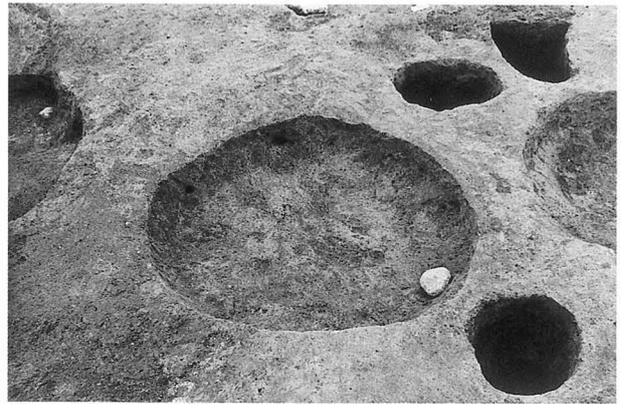


5 7・8号土坑全景（南から）

図版 4



1 9号土坑全景 (南から)



2 10号土坑全景 (南から)



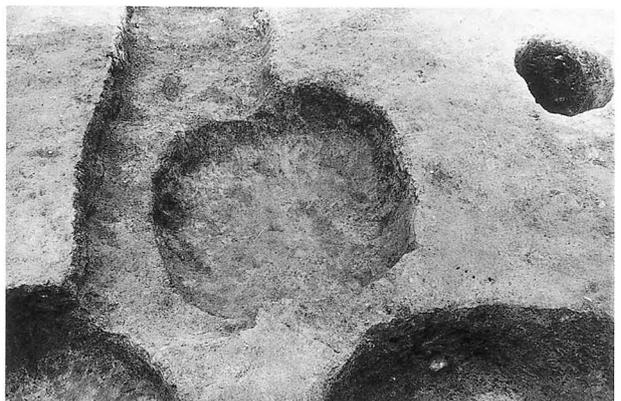
3 13号土坑全景 (南から)



4 14号土坑全景 (南から)



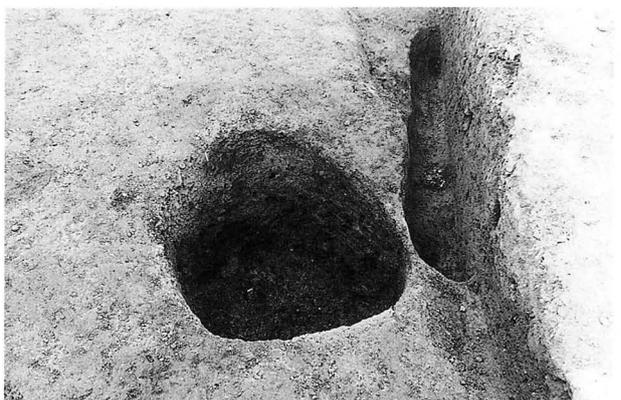
5 16号土坑全景 (南から)



6 18号土坑全景 (南から)



7 21・22・23号土坑全景 (南西から)



8 25号土坑全景 (南から)



1 31号土坑全景 (南西から)



2 32号土坑全景 (南から)



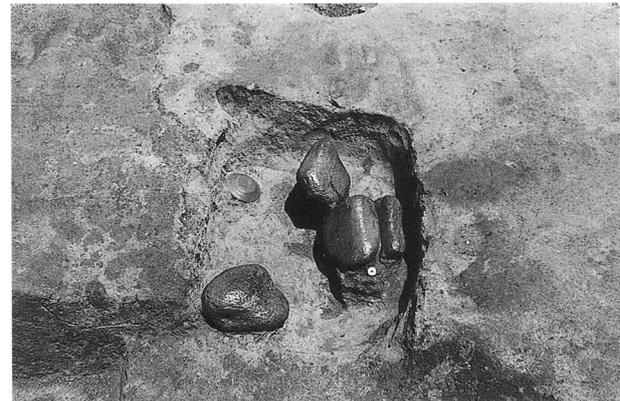
3 34・35号土坑全景 (南から)



4 36号土坑全景 (南から)



5 42号土坑全景 (南から)



6 44号土坑遺物出土状況 (南から)



7 44号土坑遺物出土状況 (東から)



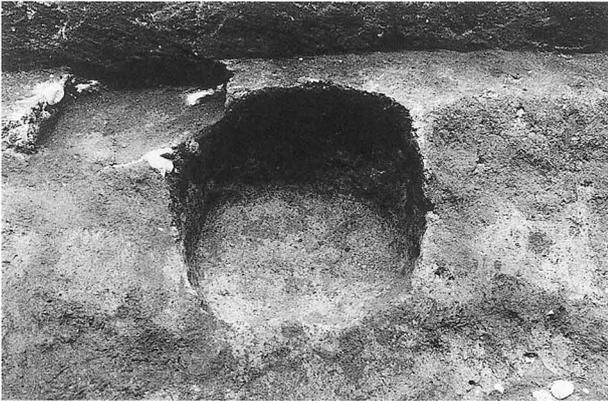
8 45号土坑全景 (南から)



1 47号土坑全景 (南から)



2 48~50号土坑全景 (南から)



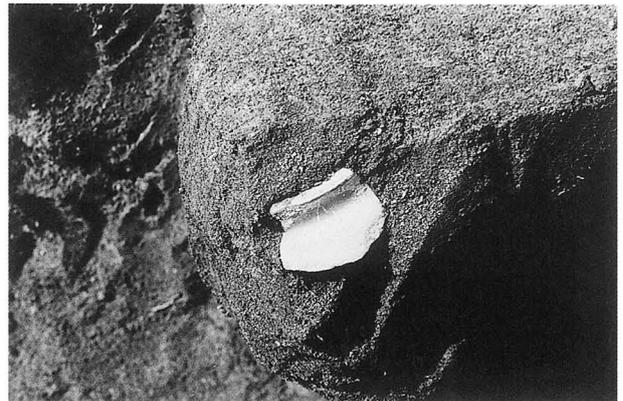
3 55号土坑全景 (南から)



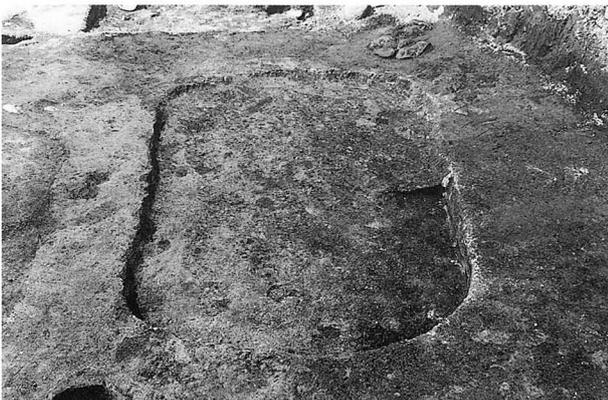
4 57・58号土坑全景 (南から)



5 59・60号土坑全景 (南から)



6 59号土坑遺物出土状況 (東から)



7 62号土坑全景 (南から)



8 64号土坑全景 (南から)



1 65~68号土坑全景 (南から)



2 71号土坑全景 (南から)



3 72~74号土坑全景 (南から)



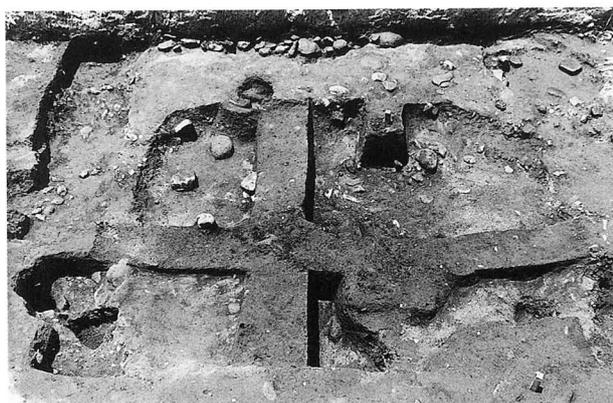
4 74号土坑遺物出土状況 (東から)



5 75号土坑全景 (南から)



6 79号土坑全景 (南から)



7 79号土坑炭化物出土状況 (東から)



8 80号土坑遺物出土状況 (南から)



1 1号溝全景 (西から)



2 1号溝セクション (東から)



3 1号溝遺物出土状況 (南西から)



4 3号溝全景 (南から)



5 4号溝全景 (南から)



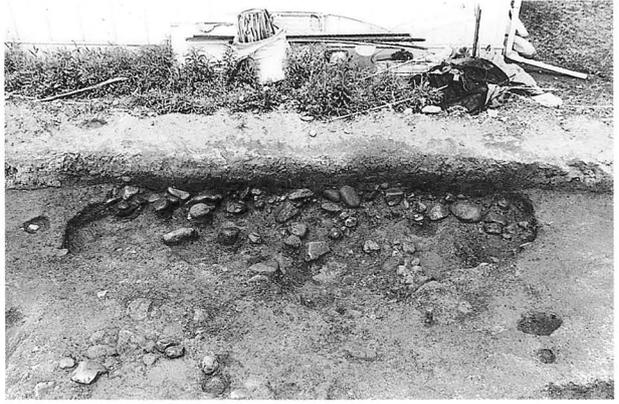
6 5号溝確認状況 (東から)



7 6号溝全景 (西から)



1 1号集石遺構遺物出土状況（東から）



2 2号集石遺構全景（東から）



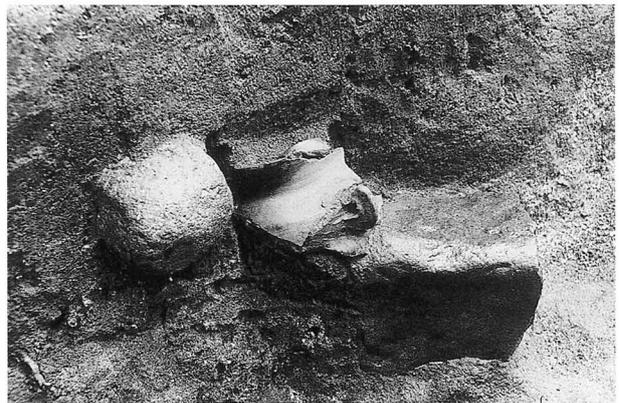
3 2号集石遺構遺物出土状況（南から）



4 5号集石遺構全景（北東から）



5 4号集石遺構遺物出土状況（東から）



6 6号集石遺構遺物出土状況（西から）

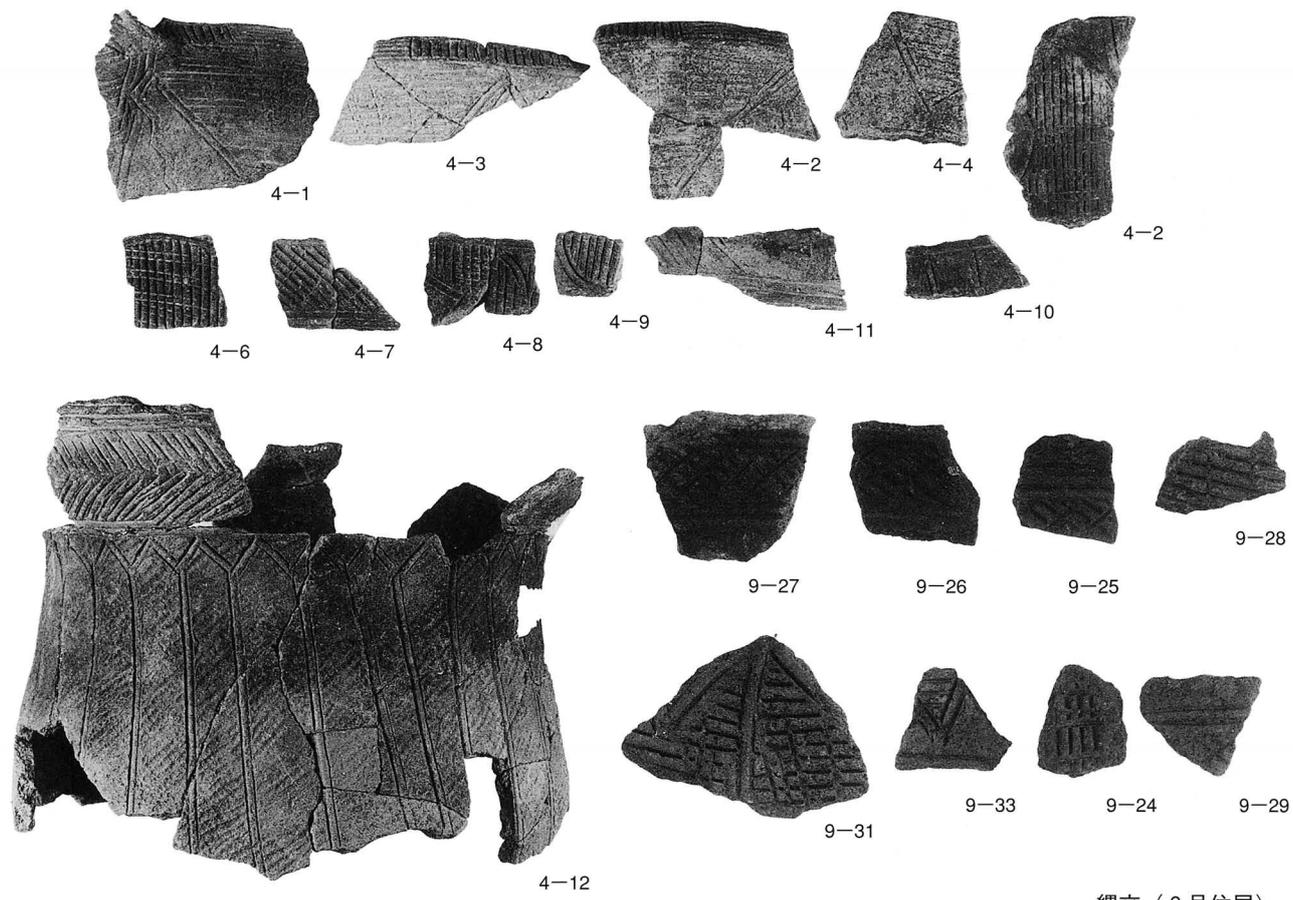


7 作業風景



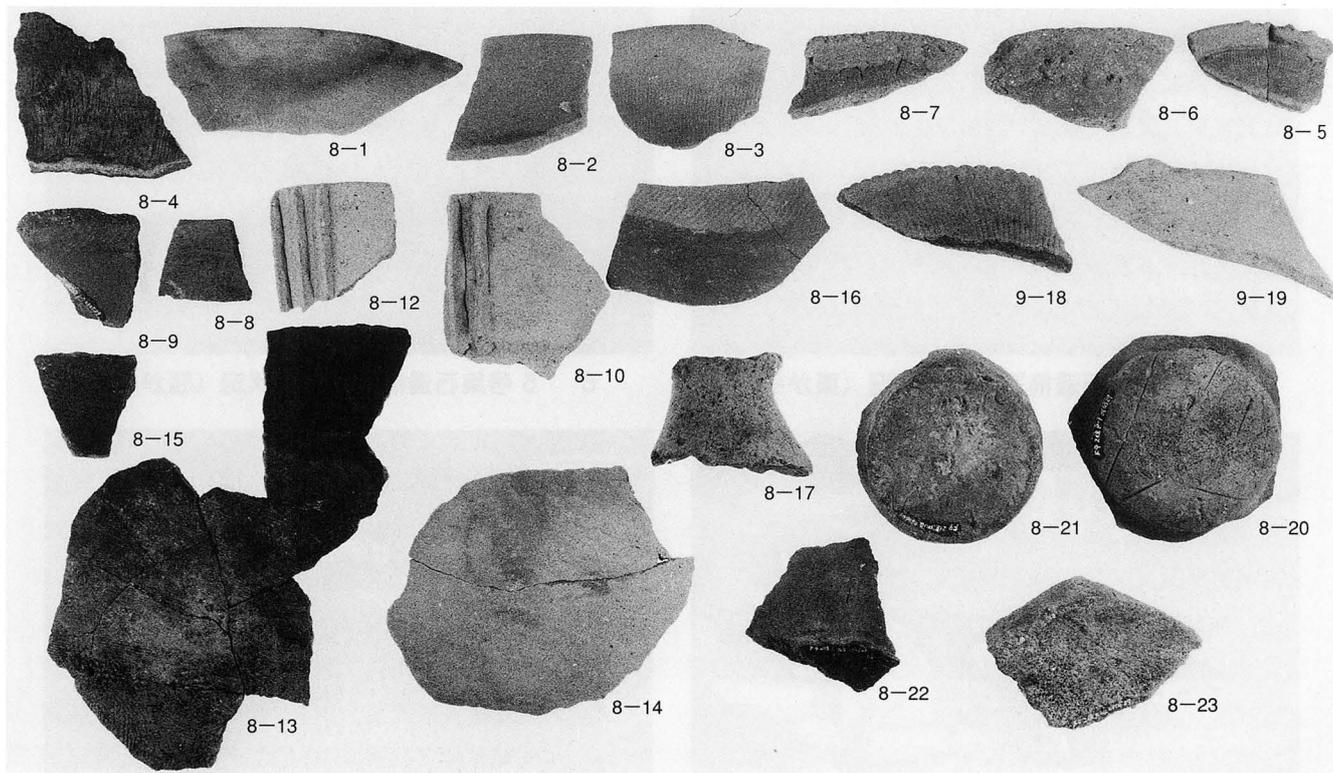
8 敷島中学校社会科見学

图版10

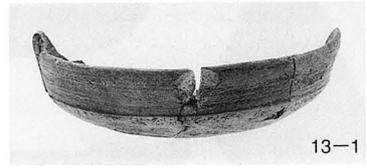


縄文（2号住居）

1 縄文（1号土坑）

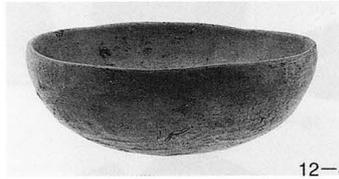


2 弥生（2号住居跡）



12-3

13-1



12-4



12-1



12-2



12-5



12-7

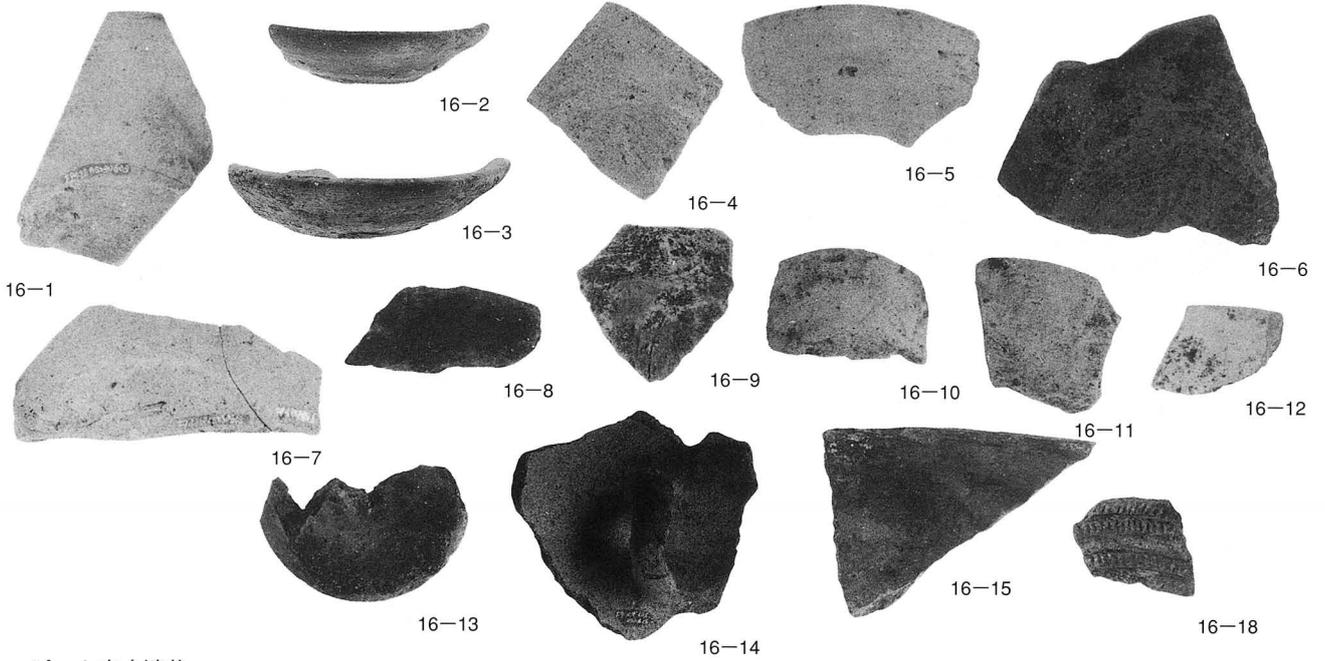


12-6

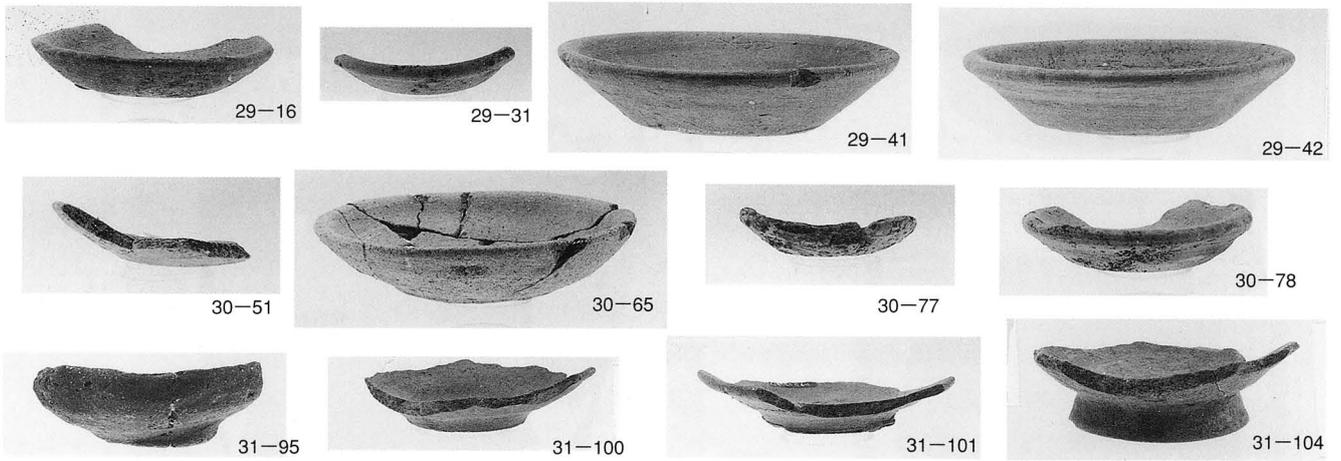


12-8

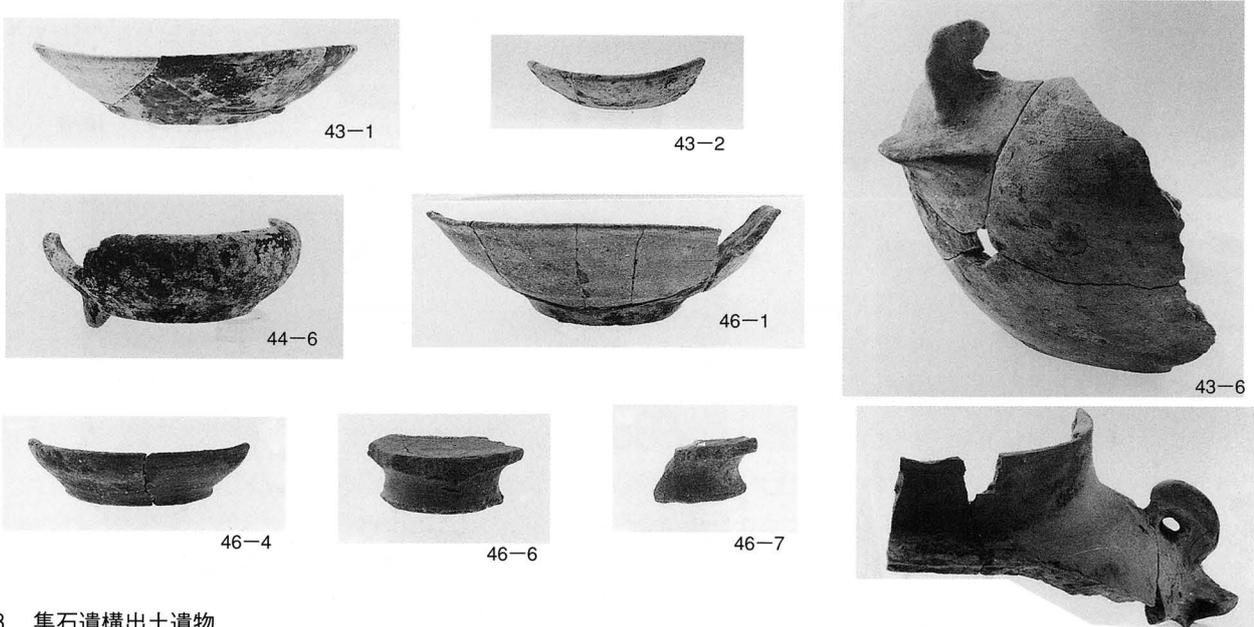
図版12



1 ピット出土遺物

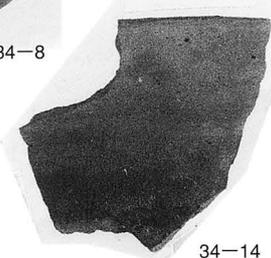
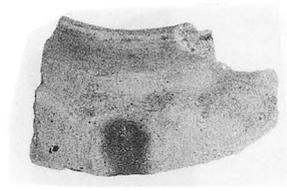
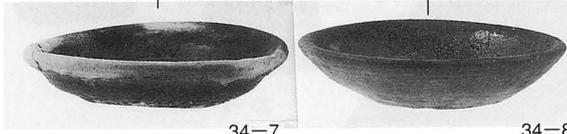
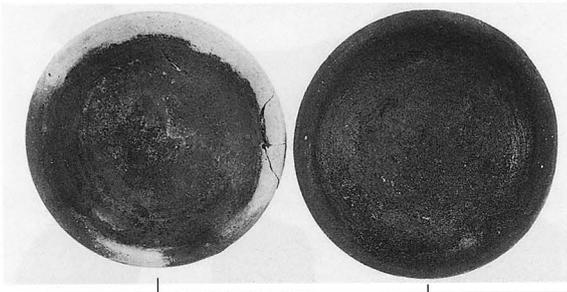


2 土坑出土遺物



3 集石遺構出土遺物

48-4



34-7

34-8

34-18

34-19

34-13

34-9

34-11

34-10

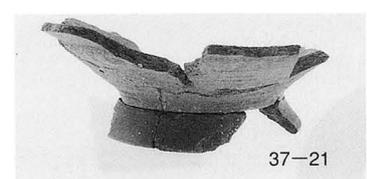
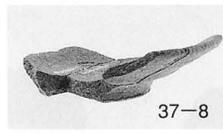
34-16

34-15

34-14

34-23

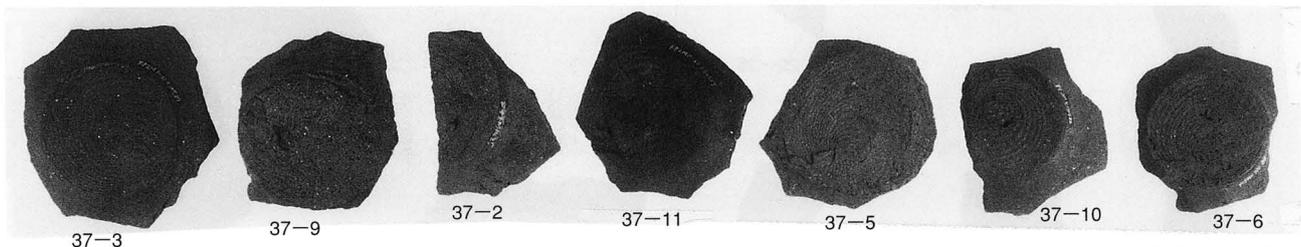
1 1号沟出土遗物



37-1

37-8

37-21



37-3

37-9

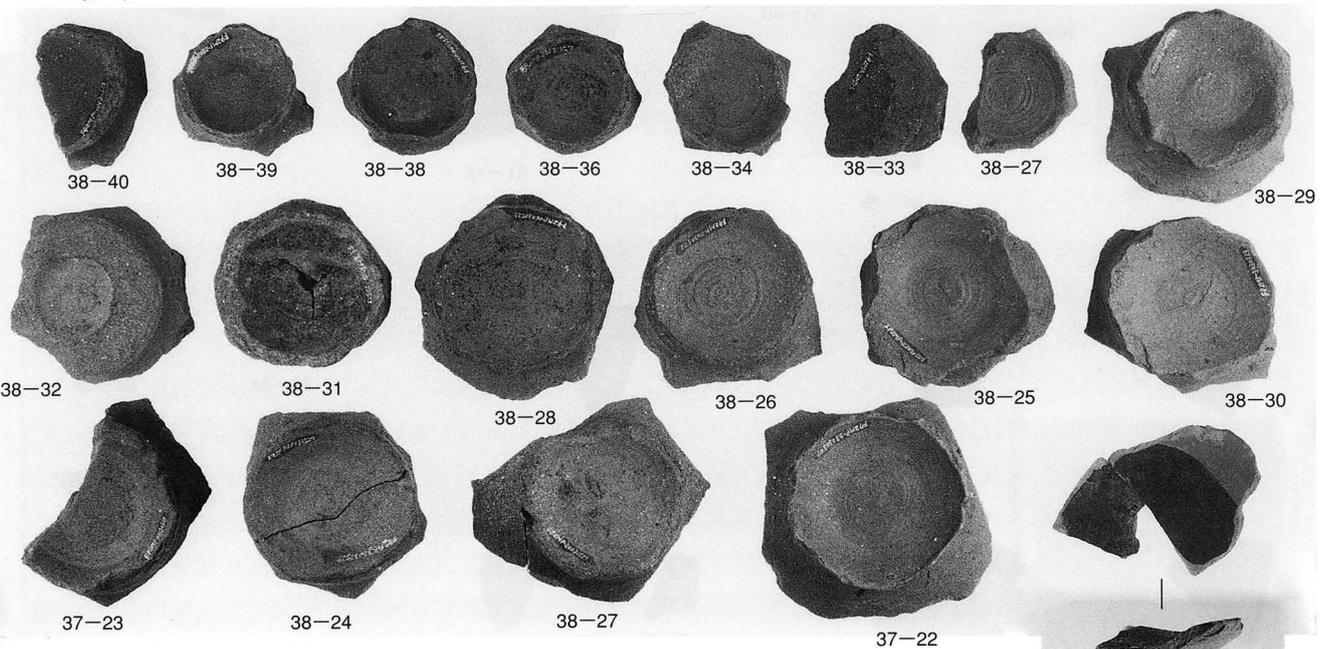
37-2

37-11

37-5

37-10

37-6



38-40

38-39

38-38

38-36

38-34

38-33

38-27

38-29

38-32

38-31

38-28

38-26

38-25

38-30

37-23

38-24

38-27

37-22

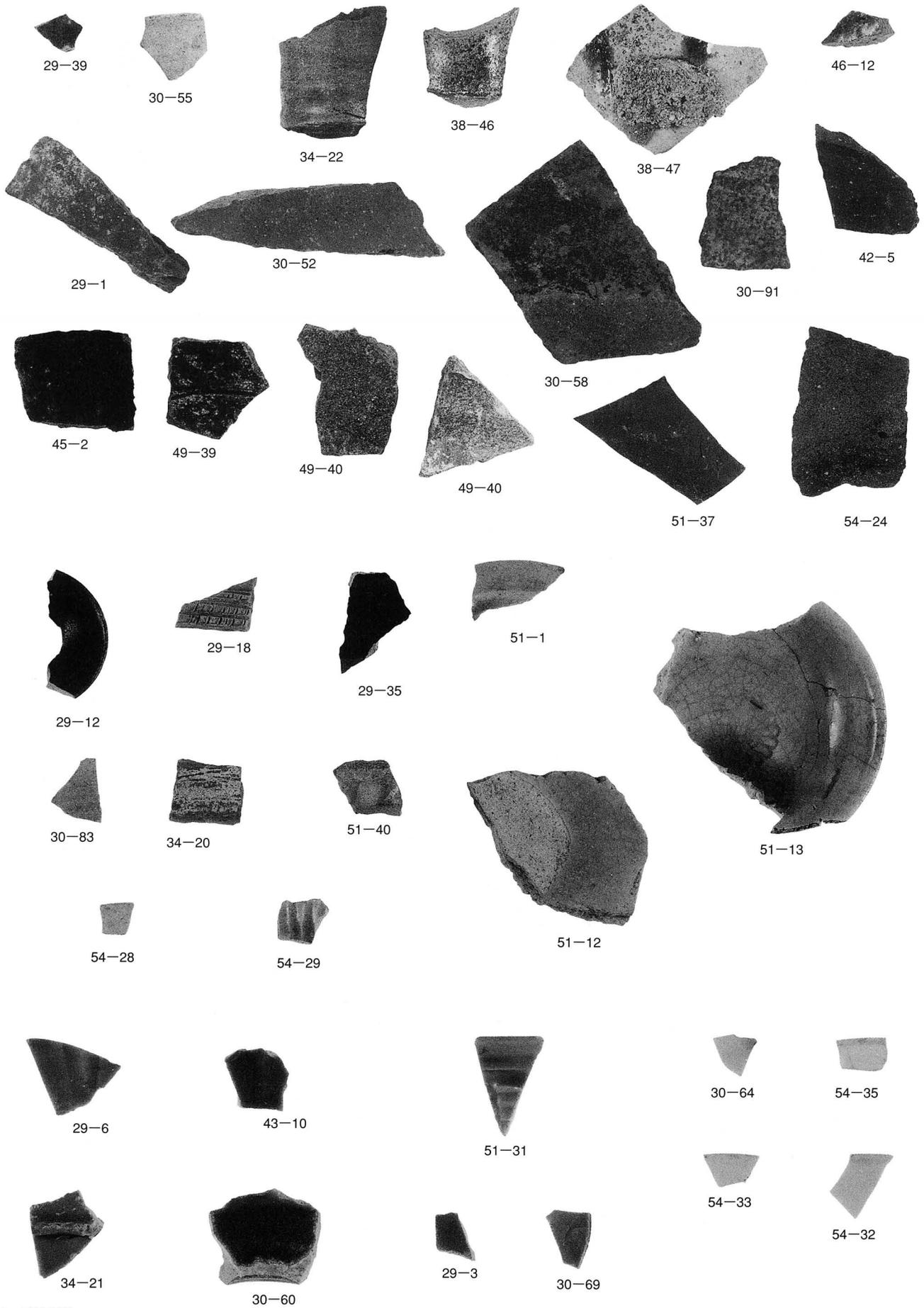
2 2号沟出土遗物

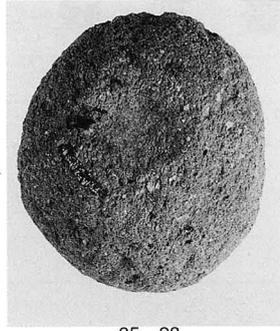
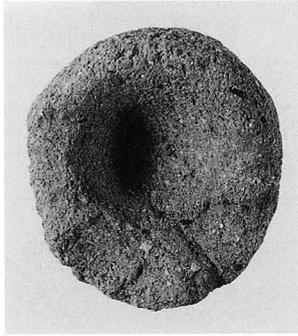


42-1

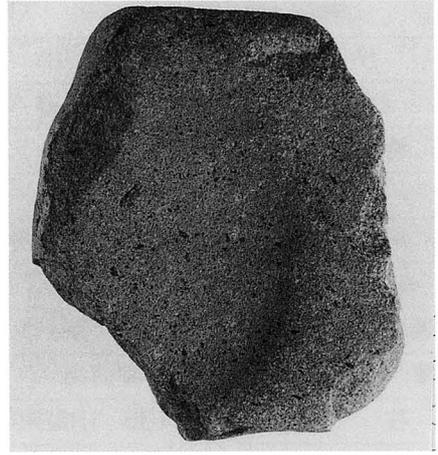
6号沟

图版14

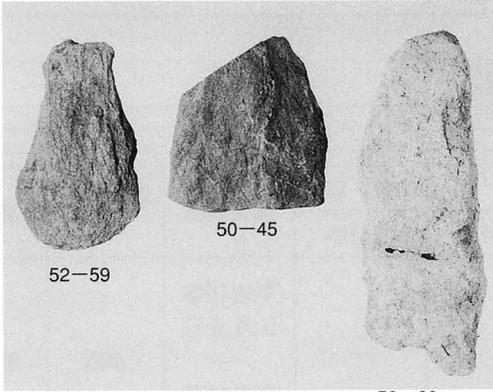




35-28



35-29



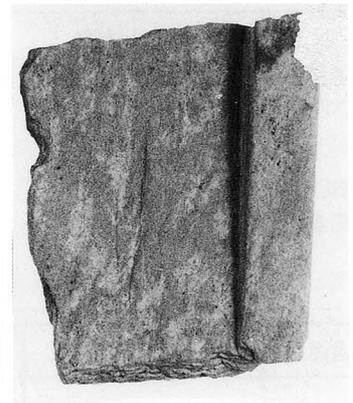
52-59

50-45

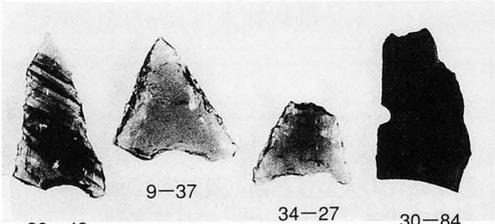
52-60



44-7



50-44

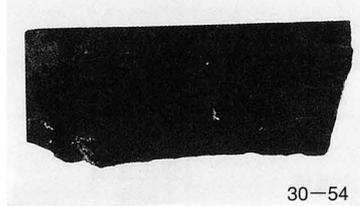


30-49

9-37

34-27

30-84



30-54

1 石製品類



29-22



29-23



29-24



29-25



29-26



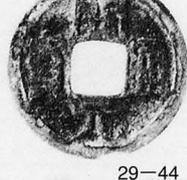
29-27



29-33



29-43



29-44



29-45



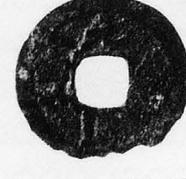
29-46



29-47



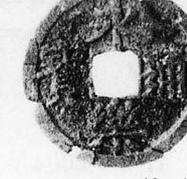
29-48



30-67



30-68



46-14



54-40



54-41



42

2 銭

報告書抄録

ふりがな	まつのおいせき							
書名	松ノ尾遺跡区							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書							
シリーズ番号	1							
編著者名	三輪孝幸・大嵐正之・小坂隆司							
編集機関	甲斐市教育委員会							
所在地	〒407-0105 山梨県甲斐市下今井236-2							
発行年月日	平成16年12月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
まつのおいせき 松ノ尾遺跡	山梨県 甲斐市中下条 1510-1外		18			平成15年 5月9日 ～ 平成15年 7月8日	406	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
松ノ尾遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 平安時代 中世	竪穴遺構 土坑 溝状遺構 ピット	縄文土器 弥生土器 土師器 土師質土器 石器 鉄製品 銅銭		弥生時代の大型住居跡（長軸約12m） 平安時代末（11世紀代）のL字溝跡 中世（15・16世紀代）のL字溝跡 平安時代末～中世のピット群、掘建柱建物跡		

甲斐市文化財調査報告 第1集

松ノ尾遺跡区

発行日 2004年（H16）12月15日
 発行 甲斐市教育委員会
 山梨県甲斐市下今井236-2
 TEL (0551) 20-3658
 印刷 株式会社 少国民社

